

資料1 研究評価事業 (RAE) : その再評価
(HEFCE の RAE2008 「初期決定」に関する審議と文書による証言)

下院 科学技術委員会
2003-2004年会期 第11報告書

2004年9月23日に印刷
ロンドン：政府刊行物出版局

岩田 末廣 (広島大学) 監訳

要約	163
1. 序論	164
2. 背景	164
二元的支援システム	164
財政カウンシル	165
RAE	165
当委員会の最初の調査	166
ギャレス・ロバーツ卿委員会の審議	166
財政カウンシルの初期決定	166
3. RAE2008に向けての提案	167
評価への道筋	167
評価部会	168
構造と機能	168
評価部会の人選	170
評価基準	171
評点付けのシステム	175
戦略的行動	175
研究者の除外	176
秘密の保持	178
研究遂行力量	178
頻度	180
費用	180
結論	180
4. 将来	181
評価	181
評価時期	183
5. 予算配分の決定とその影響	183
予算配分の決定の傾向	184
研究遂行力量の確立のための予算	185
インパクト	186
研究の集中と学科の閉鎖	187
地域的観点	188
6. 二元的支援システムと高等教育機関の財政	188
結論と勧告	190
証言者リスト	193
文書証拠のリスト	193
文書による証言	194
別添 3 物理学会からの覚書	194
別添 4 英国地理学会 - 英国地理学者協会からの覚書	196
別添 7 ウェルカム財団からの覚書	197
別添 9 英国研究カウンシル (RCUK) からの覚書	198
別添11 イングランド高等教育予算配分審議会 (HEFCE) からの覚書	201
別添12 大学教員連盟からの覚書	206
別添13 英国大学協会からの覚書	208
別添19 イングランド高等教育予算配分審議会の補足証言	211

資料1 研究評価事業 (RAE) : その再評価 (HEFCE の RAE2008 「初期決定」に関する審議と文書による証言)

監訳 岩田 末廣*

要約

当委員会は、2002年4月にRAEに関する報告書を発行し、ギャレス・ロバーツ卿のRAE審議、および2008年に行われる次回のRAEに関して高等教育機関(HE)財政カウンスル(Higher Education Funding Councils)¹が2004年2月に発表した決定に照らして追跡調査することを決定した。当委員会は、RAEの修正点の多くが肯定的なものであると結論する。特に、7段階の評点に代わってそれぞれの学科の質のプロフィールを導入することは、これまでより公正さを増し、大学による「戦略的行動(game-playing)」を、排除できないまでも減らすことができると考える。また、新しい評価部会とサブ評価部会の構造は、各部会間の一貫性や学際的研究の評価を向上させるに違いない。しかし、HE財政カウンスルがより抜本的な変更に戻込みしたのは誤りであると当委員会は考える。当委員会は、高等教育機関の事務上の負担と評価委員会の仕事を減らす手段として、複数の評価ルートを取り入れることを主張する。多くの学問領域において、外部研究資金収入は研究の質を示す適切な指標である。それ以外の場合にも、適切な計量的指標(metrics)がある。評価部会の評議に代わるこれらの利用を増やすべきである。また、法的訴えがあった場合にはHE財政カウンスルは個々の研究者の評価について秘密性を維持できないのではないかという懸念が表明されている。当委員会は、法的な異議申し立ての先手を取って、HE財政カウンスルがこれらのデータを公表すべきであると結論する。これは透明性を高め、研究以外のアカデミックスタッフの重要な活動を重視

するのに役立つと当委員会は考える。

次回のRAEの延期または廃止を求める声がある。当委員会はできる限り早期に本勧告が実施されることを望むが、質に関連づけた研究予算の配分は必要であり、それは最新のデータに基づくべきであると考え。次回のRAEは2008年に行われるべきであるが、2014年に予定されるRAEに向けて抜本的な解決策の検討が直ちに開始されるべきである。もう1つ懸念される点は、質のプロフィールが予算配分の計算にどのように使われるのか、イングランド高等教育財政カウンスル(HEFCE)がまだ詳細を発表していないということである。現在、HEFCEは、ルールブックなしでゲームをすることを高等教育機関に求めている。当委員会は、適用される予算配分の公式は研究予算の選択性をさらに強めるものであるべきではないと考える。

RAEは、高等教育の予算配分に関する他の政策方針から切り離して考えることはできない。問題点の1つは、HE財政カウンスルの研究予算を最良の高等教育機関向けのメカニズムとして考案されたRAEがあまりに重要なものになりすぎ、大学における各種の優先事項間のバランスを崩していることである。当委員会は、高等教育のすべての分野で質を改善する財政的な刺激策(インセンティブ)が導入されるべきだと議論している。

次回のRAEが、授業料の自由設定による市場原理の導入を含め、高等教育における他の根本的な変化を背景として行われるということも認識し

* 広島大学量子生命科学プロジェクト研究センター・理学研究科

¹ (訳注: イングランド, ウェールズ, スコットランド, 北アイルランドの4つの高等教育予算配分組織を総称して「HE財政カウンスル」とよぶ)

ておくことが重要である。また、RAEのレビューは、こうしたもっと広範にわたる変化、特に中心的な分野を扱う学科の存続可能性、いっそう学科の閉鎖が進む可能性および閉鎖の地理的なパターンも考慮しながら行う必要がある。RAEの実施は、わが国の科学と工学の教育に不利益をもたらしている。提案されている変更が科学・工学教育を阻害し続けられないという証拠はない。

1. 序論

1. 当委員会は、2002年4月に発表した本議会の第2報告書において、RAEについて検討した²。RAEは、HE財政カウンスルが高等教育機関に交付する助成金のうち、研究要素の額を決める基礎となる定期的なメカニズムである。当委員会は、RAEは研究の水準を高めているが、そのプロセスおよびその結果に基づく予算配分の決定に問題があり、また高等教育機関の他の活動分野にマイナスの影響を及ぼしていると結論した。4つのHE財政カウンスルの発議によって、オックスフォード大学ウルフソン・カレッジの学長、ギャレス・ロバーツ卿による研究評価の審議が行われた。この審議報告を基礎に、2004年2月11日にHE財政カウンスルが発表した重要な変更が導かれた³。続いて2004年7月にさらに次回RAEに関する詳細が発表された⁴。当委員会は、再度この問題を検討し、当委員会が指摘した問題点がこれらの修正によって解決されると思われるかどうかを判断することにした⁵。

2. 本報告書の焦点は、RAEのメカニズムである。しかし、当委員会の最初の報告書の主な結論の1つは、高等教育の予算配分全体の視点からRAEとそれに基づく予算配分の決定について考慮する必要があるということであった。したがって、当委員会は、高等教育が直面しているより広い予算配分の問題について論じるつもりである。RAEは

(4つのHE財政カウンスルを代表してイングランド高等教育財政カウンスル(HEFCE)が実行している)全国的な活動であるが、高等教育の予算配分は各地域(スコットランド、ウェールズ、北アイルランド)に権限委譲されている。当委員会の報告書は、イングランドの状況を中心とする。3. この調査において、当委員会は2回の聴聞会を行った。2004年5月19日、当委員会は、ギャレス・ロバーツ卿、オックスフォード大学教授で王立協会会長のメイ卿、エセックス大学副学長のアイヴァー・クルー教授、英国大学協会を代表するロンドン大学クイーンメアリー校学長のエイドリアン・スミス教授、HEFCEの理事長であるハワード・ニュービー卿、および同じくHEFCEの研究・知識移転部長のラマ・チルナマチャンドラン氏から意見を聴取した。続いて2004年6月7日、より草の根の意見を求めるために、ラフバラ大学コミュニケーション・メディア研究学科のナタリー・フェントン上級講師、ロンドン・メトロポリタン大学大学院ディレクターのイアン・ヘインズ教授、ノッティンガム・トレント大学の研究部長リチャード・ジョイナー教授、バス大学の学級講師ステイブ・ウォートン博士から意見を聴取した。これらの証言者は、おのおのの組織に所属しているが、個人としての資格で意見を述べた。当委員会は証言をしてくれたこれらの方々に感謝する。また、当委員会は、当委員会専門家アドバイザーである元グラクソ・ウェルカムのマイケル・エルヴズ教授にも恩恵を受けている。

2. 背景

二元支援システム

4. 英国の高等教育機関における研究に対する政府予算は、二元支援システムを通して交付されている。その1つは、科学技術庁(OST)の科学予算から6つの研究カウンスルを通して交付される、

² 科学技術委員会の2001-02年会期第2報告書『RAE』HC 507。【訳注：この文書の「要約」「提言」「結論」は、大学評価・学位研究 第3号に訳出されている】

³ イングランド高等教育予算配分審議会、スコットランド高等教育予算配分審議会、ウェールズ高等教育予算配分審議会、北アイルランド雇用・教育省『英国のHE予算配分組織による初期段階の決定事項』2004年1月、RAE01/2004。以下、この文書は『初期段階の決定事項』と記す。【訳注：この文書も、大学評価・学位研究 第3号に訳出されている】

⁴ イングランド高等教育予算配分審議会、スコットランド高等教育予算配分審議会、ウェールズ高等教育予算配分審議会、北アイルランド雇用・教育省『UoAと評価部会メンバーの選任』2004年7月、RAE 03/2004

⁵ 報道発表用資料2003-04年会期 No.19, 2004年2月11日付け

学術研究プロジェクト予算である。2003-04年のその総額は19億ポンド近くに達し、そのうちのおよそ40%は大学内の具体的な研究プロジェクトに対するものであった。研究プロジェクトは、他の政府省庁、業界、慈善団体およびEU 枠組みプログラムからも資金供給されている。

HE 財政カウンシル

5. 二元システムのもう一翼——スタッフおよびほとんどのインフラと設備を支える中核的予算——は教育・雇用訓練省（DfES）およびスコットランド、ウェールズ、北アイルランドの対応する省庁の予算から、各 HE 財政カウンシルによって提供される。HEFCE の2004-05年度の予算は59億9,300万ポンドであり、そのうち38億2,600万ポンドが教育予算、10億8,100万ポンドが研究予算、4億8,600万ポンドが特別予算、5億8,400万ポンドが用途限定の資本投資予算である。研究と教育の予算は一括助成金として配分され、高等教育機関が自由に用いることができる。HE 財政カウンシルの研究予算は、高等教育機関の研究インフラに資金を供給し、研究の間接諸経費のかなりの部分をまかない、研究の固定費（スタッフ、設備、図書館など）に貢献することが意図されている。一方、研究カウンシルの予算は、プロジェクトの直接費用を提供し、間接費用に貢献することが意図されている。現在、研究カウンシルは、研究助成金により、直接人件費の46%をまかなっている。

先頃、政府は、研究カウンシルは資金供給する研究の全経済費用（Full Economic Cost）を支払う予算配分モデルに移行すると発表した⁶。

RAE

6. HEFCE の研究予算のほとんどは、研究の質によって決定する研究予算（以後 QR 予算と省略する）として配分され、研究の質は RAE によって評価される。RAE は1986年に開始され、その後、1989年、1992年、1996年、2001年に実施された。1992年には、新しい大学が創設され、（ポリテクニク・カレッジ予算配分カウンシルと大学助成金委員会の統合によって）高等教育予算配分カウンシルが設立されたことから、RAE は本質的な変化をした。RAE は、最もすぐれた研究者に透明な方法で直接に予算配分するメカニズムとして導入された。以前、大学助成金委員会は、研究予算を選択的に配分するメカニズムとして科目別委員会を利用していた。

7. 2001年の RAE では、評価部会は、各学科の評価申請に対し、国内および国際的な水準で行われた研究の量を基礎にして、7段階の評点（最低は1、最高は5*）をつけた（表1参照）。

8. リサーチアクティブ（被評価研究員）として申請されるアカデミックスタッフの比率や人数に制限はなかった。ただし、そのデータは公表された。評価申請書は、含まれるスタッフの比率に従ってAからFに分類された。A = 評価申請されたス

表1 RAE の評点システム

評点	説明
5* (5スター)	評価申請された研究活動の半数以上が国際的に優秀なレベルにあり、残りが国内で優秀なレベルにある。
5	評価申請された研究活動の半数未満が国際的に優秀なレベルにあり、残りのほとんどすべてが国内で優秀なレベルにある。
4	評価申請された研究活動のほとんどすべてが国内で優秀なレベルにあり、国際的な優秀性を示すある程度の証拠がある。
3 a	評価申請された研究活動の3分の2以上が国内で優秀なレベルにあり、国際的な優秀性を示すものもある。
3 b	評価申請された研究活動の半数以上が国内で優秀なレベルにある。
2	評価申請された研究活動の半数未満が国内で優秀なレベルにある。
1	評価申請された研究活動の中に国内で優秀なレベルにあるものがほとんどない。

⁶ 財務省『科学・革新投資フレームワーク2004-2014年』2004年7月。研究カウンシルは、全経済費用（Full Economic Costf）をまかなうために、直接人件費の60%以上を支払わなければならないことになる。

トップが全スタッフの95-100%, B = 80-94.9%, C = 60-79.9%, D = 40-59.9%, E = 20-39.9%, F = 20%未満であった。

当委員会の最初の調査

9. RAE2001の結果が発表された直後2002年1月, 当委員会はRAEに関する最初の調査を行い, 一部に戦略的行動(gamesmanship)が見られたものの, 大学の研究実績が著しく改善されたと結論した。学科の中には, 研究者の一部しか評価申請せず, 結果を最適にするために研究者や学科の境界をやりくりしたところもあった。それでも, RAEは肯定的な効果を持っていたと当委員会は考えた。RAEは, 研究をうまく管理し, すぐれた学問領域に予算を向けることを大学に促した。にもかかわらず, 当委員会は, 現在の形のRAEは時代にそぐわなくなると議論をおこなった。当委員会は, 最もすぐれた学科が利用できるRAE以外の予算配分方法と, 改良されたRAE, および新設学科や改善が見られる学科の発展予算とを組み合わせる予算配分モデルを提案した。

10. HE財政カウンシルは, 大学へのQR予算を計算するために予算配分公式を用いている。評点5および5*の学科の数が増えたことは, 以前の予算配分公式を使って各学科に予算を配分するには2002-03年の予算では不十分であるということの意味した。ほとんどの大学は, 一定の評点を得た学科が以前と同じレベルの予算を得られるものと期待していたが, 確保された予算の中ではそれは不可能であった。イングランドではDfESが改善予算として3,000万ポンドを追加支出したが, それは既存のベースで新しい評点に対して予算配分するために必要な2億6,000万ポンドという金額には到底足りないものであった。当委員会は, HEFCEはRAE2001の結果を予測すべきであったと議論した。HEFCEは, 質の向上に報いる十分な予算を確保するか, 少なくともそれができそうにないことを大学に警告しておくべきであった。当委員会は, 発展中の学科を犠牲にして, 限られた予算を最高評点の学科に集中させるというHEFCEの決定に不同意を表明した。当委員会は,

2002年の「歳出見直し」でこの問題に対応する必要があると議論した。

ギャレス・ロバーツ卿委員会の審議

11. RAE2001から得られた教訓および他の研究評価モデルを基にして, 研究の質の定義と評価に関する他のアプローチを調査し, 研究の質の評価の将来に関して助言をするために, 2002年6月, 研究評価の見直しを主導することがギャレス・ロバーツ卿に要請された。その審議に基づくギャレス・ロバーツ卿の勧告は, 当委員会が懸念する事項の多くを反映するものであった。その提案の主な点は以下のとおりである。

- a) RAEを6年に1度にし, 「活動の量の大幅な変化を明らかにするために, 「軽いタッチの」中間モニタリングを行う。
- b) 評価プロセスを3コース制にする。
- c) これまでの7段階の評点に代わり, それぞれの評価申請の中に「一つ星」, 「二つ星」, 「三つ星」の研究がどれだけあるかを示す「質のプロフィール」を導入する。
- d) 高等教育機関が評価を受ける資格を得るには, 人事方針, 若い研究者の扱い, 長期的な財務計画など, 組織全体として一定の能力を持たなければならないようにする⁷。

財政カウンシルの初期決定

12. ロバーツ報告書は2003年5月に発表され, それに対する意見聴取が行われた。意見提出の期限は2003年11月であった。その結果は, 2004年2月に, 4つのHE財政カウンシルによる『共同初期決定』として発表された。この文書で発表された主な点は以下のとおりである。

- a) 次回のRAEは2008年に行い, その後のRAEは6年に1度とする。
- b) 評価対象となる研究成果は, 2001年1月1日から2007年7月31日までに発表されたものとし, 各研究者ごとに4点までとする。
- c) ギャレス・ロバーツ卿が提案した3コース制ではなく, 参加するすべての高等教育機関に単一の評価方法を用いる。評価は, 15から20の

⁷ 『研究評価のレビュー』ギャレス・ロバーツ卿から英国のHE予算配分組織への報告書。2003年5月。【訳注：この文書は, 大学評価・学位研究 第3号に訳出されている】

主評価部会とおよそ70のサブ評価部会によって行われる。ロバーツ審議で主張された研究遂行力量の個別の評価と中間モニタリングは行わない。評価事業は、共同申請を阻害しないように計画される。優秀性の適切な基準に従い、応用研究が正当に重視されるようにする。

d) 評価の結果は、サブ評価部会ごとに、各評価申請に対して連続的な評点となる質のプロファイルの形で公表される。質のプロファイルは、明確に定義された共通の基準を用いる、基準準拠型のものとする。

3. RAE2008に向けての提案

評価への道筋

13. ギャレス・ロバーツ卿委員会の審議の主要素の1つは、「誰でも着られるフリーサイズ型」の評価から、利害が最も大きいところに評価の努力を集中させるモデルへと移行すべきだということであった。複数の評価への道筋（または「コース」）の目的は、事務上の負担を、見返りに合ったものにするのであった。ロバーツ卿は3つのコースを提案した。

a) 研究が行われる度合いが最も低い機関には、別のアプローチを取るオプションを与える。

b) 残りの高等教育機関の中でそれほど競争力が高くない学科については、最低水準に照らし合わせる代用基準（proxy）で評価を行う。

c) 最も競争力の高い学科については、これまでのRAEと同様な専門家によるレビュー評価を行う。

14. HE 財政カウンシルによると、ロバーツ卿のモデルは意見聴取によって支持されなかった。そこで、HE 財政カウンシルは単一の評価コースを維持することにした。ロバーツ卿が当委員会に証言したところでは、賛否はほぼ半々であったが、HEFCEはこの変更を実現するには大多数の賛成が得られるべきだと考えたということである。AUT (Associate of University Teachers) は階層システムというロバーツ案の却下を支持している。生物科学連盟は、「複数コースのモデルでは、予算が異なることから、あるコースからそれより上のコースに移るのが難しくなるのではないかと懸念される… [しかし] 新しいモデルでは、高い評価を得る見込みが低い高等教育機関は事務上の負担が

少ない評価を選ぶことができ、これはRAE評価部会にかかる圧力を軽減するだろう」との意見を提出している。英国犯罪学協会もこの原則を支持している。HEFCEのハワード・ニュービー卿は、ロバーツ卿の評価ルートに共鳴すると述べたが、

「研究が特に強力ではない高等教育機関からさえも、望むならば、RAEに全面的に参加する権利が認められるべきだ」という強い要望が出されているのです。これは、実のところ、金銭ではなくステータスの問題です」と報告した。リチャード・ジョイナー教授も同じことを述べている。「大学は何らかの研究を行うにはRAEに参加するというにはある種の沽券の問題になっており、ロバーツ卿が提案した他の2つのコースを受け入れる準備があるとためらいなく申し出る副学長はいません」と述べた。当委員会は、これは複数コースアプローチを拒否する理由としては薄弱であると考ええる。

15. 複数コースアプローチに関して、ナタリー・フェントン氏は、これは「研究の世界にすでに存在する予算配分の格差をさらに著しく大きくする、等級付けされたシステムにすることを意味します」と批判している。これはそれぞれのコースの予算レベルを予想したものである。HEFCEの予算配分方針が高度に選択的なことを考えるとフェントンの懸念にも一理あるかもしれないが、これは3コースアプローチの根本的な問題とみなされるべきではない。スティーブ・ウォートン博士は、提案されたシステムは92年以前からある大学と以後に大学になったところとの区分を再び作り上げることになるかと当委員会に対して述べた。たしかにある程度そういう側面もあるかもしれない。しかし、3コースアプローチは、92年に大学に転換した高等教育機関に対して、従来の大学の基礎研究と張り合おうとせず、地域の産業界の支援といった明確で価値ある研究の方向性を追求することを促すという主張もできよう。また、92年以後に大学に転換した機関の中に5および5*の評価を得ているところ少なからずある一方で、以前から大学であったもののなかには不十分な業績しかあげていない大学もあるという事実を認識すべきである。さらに、ウォートン博士とフェントン氏は、すべての学科に一定レベルの研究の始動予算が交付されるべきだと論じている。これらのこと

から、すべての学科に妥当な水準の予算を配分する最良の方法は複数コースアプローチを採用することだと論ずることもできよう。

16. HE 財政カウンスルは、意見聴取に対する意見書の中の議論の数だけではなく、その質に目を向けるべきであった。ギャレス・ロバーツ卿が唱えた「誰でも着られるフリーサイズ型」からの脱却は重要な方針であり、採用されるべきであった。当委員会は、HE 財政カウンスルの提案は不当に保守的であると考える。当委員会は、大学の感受性を守るのは HEFCE の役割ではないと考える。

17. 当委員会も、前回の報告書で3コースのアプローチを勧告した。

- i. 最高ランクの評価を得た学科は、望むならば正式な研究評価プロセスから抜けることができる。それらに対する HE 財政カウンスルからの交付は、研究カウンスル、慈善団体、その他の財源からのプロジェクト予算を基礎にする。予算のレベルは、財源、およびその予算に含まれる諸経費を反映する必要がある。その学科が高いランクを得るのに貢献した個人に HEFCE が報償を与えることも考えられる。
- ii. 他の学科は引き続き研究評価プロセスに参加することができる。HE 財政カウンスルからの予算は、現在と同じく研究の質と量にかかわる公式に基づくが、質の最低基準に達しない学科には予算が配分されない。
- iii. 研究評価プロセスに参加する学科は、競争プロセスを通して発展資金の受理を申請することができる。この申請は、RAE の評価対象ユニット (UoA) に基づいて分野別の評価部会の評価を受ける。これらの学科は、質の向上のベンチマークを提供するために、その後の RAE に参加することが求められる。申請は、研究の質の評点を高めるためにどのようなことを計画しているのかを示す事業計画を基礎とする。

18. これは外部との共同研究を奨励する予算の流れと組み合わせられる。当委員会が提案するシステムは、重要な点でロバーツ卿の提案と異なる。当委員会の提案では、RAE から抜けることを選択できるのは最高ランクの評価を得た学科である。これは、外部研究資金の額が研究の質の信頼でき

る代用基準として使えるという事実に基づく。また、これは他の公共サービス分野で政府が採用している原則、すなわち業績が最も高い機関の事務管理上の負担が最小化されるという原則に従っている。当委員会が提案する方式は、高等教育機関 (大学) 単位で容易に適用することができる。ただし、すべての学問領域が同じレベルの外部研究資金を引き付けることができるわけではないため、QR 予算の配分を計算する際にはこのことが考慮される必要がある。

評価部会 (パネル)

構造と機能

19. RAE2001では、研究は68の学問領域、すなわち評価対象ユニット (UoA) に分けられ、そのうち32が科学、医学、工学の分野であった。この68の UoA それぞれの研究を調べるために、評価部会に委員が集められた。評価部会の規模は学問領域によってまちまちであった。たとえば、物理学は11人、生物科学は20人であった。11のサブ評価部会が設けられたが、それらはすべて臨床的な分野であった。評価部会は、メンバーだけでは専門知識が不十分だと考えるときには外部の専門家を呼ぶことができた。また、研究が複数の UoA にまたがるかあるいは学際的な特性を持つものであるときには、評価申請する学科は、関連する他の部会との相互参照を求めることができた。

20. それぞれの評価申請書には、「リサーチアクティブ・スタッフ Research Active Staff」の氏名、およびそのそれぞれにつき4点までの研究成果物、たとえば学術誌の掲載論文、書籍、書籍の一部、会議への貢献、特許などが含まれた。評価部会は、提出された研究成果物のみに基づいてそれぞれの研究者について判断することが期待された。また、研究者が4点という要求される数の研究成果物を生み出すことができなかった場合には、その理由も考慮された。

21. 当委員会は、前回の報告書において、評価部会のメンバーと議長の選任の方法、および学者が他の学者を判断する際に本当に客観的となりうるのかということに関していくつかの懸念を表明した。当委員会は、評価部会の規模、および評価委員会が検討しなければならない研究成果物の数を憂慮した。HE 財政カウンスルの提案はこれらの

問題点に対応していない。

22. HE 財政カウンスルは、『初期決定事項』において、主評価部会の数を15から20に減らし、およそ70のサブ評価部会の詳細な評価活動に基づいて主評価部会が評価を決定すると発表した。2004年7月、HE 財政カウンスルは UoA の詳細を発表した。これによると、67のサブ評価部会と15の主評価部会が設立されることになる。

23. それぞれのサブ評価部会は、個別の研究分野、すなわち UoA を担当し、単一の主評価部会に報告する。主評価部会の役割は以下のとおりである。

- a) 評価基準と作業方法の承認を含め、評価プロセスへのアプローチに関して傘下のサブ評価部会を指揮・指導すること
- b) 評価期間中、全体的な質の水準、共通の評価手順、機会均等のガイダンスが一貫して適用されるよう、サブ評価部会と協力すること
- c) サブ評価部会の作業と助言に基づき、サブ評価部会に提出されたすべての評価申請書の質のプロフィールを承認すること
- d) 専門家に付加的な助言を求めることを含め、評価プロセスの諸側面において、RAE チームと HE 財政カウンスルからの要請に応じて助言すること
- e) 傘下のサブ評価部会が担当した学問領域の研究の状況について、最終報告書を作成すること

24. 主評価部会の傘下にいくつかのサブ評価部会が位置づけられる。サブ評価部会は、

- a) 評価基準と作業方法の案を作成し、主評価部会の承認を得る。
- b) 合意された基準に基づいて、主評価部会と協力しながら質のプロフィールの案を作成し(主評価部会によって承認される)、それぞれのサブ評価部会に提出されたすべての評価申請に対して簡単な意見書を返す。
- c) 評価申請または引用された研究に関する他のサブ評価部会への相互参照、および付加的な専門的助言の必要性について、主評価部会と RAE チームに助言する。

25. この提案への反応には賛否両論が見られる。英国研究カウンスルは「評価部会とサブ評価部会のシステムを設けるといふ原則を支持」しているが、英国大学協会は「提案されたシステムの複雑

さ、および必要とされる時間も負担も大きくなる可能性を懸念して」おり、英国製薬業界協会は、二層式の構造はいつそう大きな官僚主義を作り出すと考えている。生物科学連盟は、慎重な態度ながらこの新しいシステムを受け入れている。「主評価部会とサブ評価部会の構造は、評価部会間の判断にばらつきがあるという以前の認識を克服するのに役立つと思われるが、それをもっと確実に予測するには評価部会の作業について詳しい情報が必要である」と記している。しかし、続けて、「分野横断的な研究をどう扱うのかという難しい問題が直接的に対処されておらず」、「さらに詳細が発表されない限り、分野横断的な研究、応用研究、共同申請がこれまでよりも満足できる形で扱われるかどうか判断するのは難しい」と述べている。英国コンピュータ科学研究委員会は、「新しい RAE の構造がこれまでよりも好ましいものになるかどうかは、評価部会の構造、評価部会が採用する基準、および RAE のプロフィールとそれに対して与えられる予算の関係によって決まる」のであり、「評価部会とサブ評価部会がそれぞれの学問領域に最も適した評価基準を自由に選ぶことが不可欠である」と論じている。

26. 評価部会間の一貫性を促進しようとする試みとして、ロバーツ卿は、評価部会ごとに1名の調整役を置き、評価実行の一貫性を確保するためにその調整役が各サブ評価部会に出席することを提案した。そして、隣接する4つないし5つの評価部会の調整役が「超部会 (super-panel)」に出席し、HE 財政カウンスルに出向または雇用された上級調整役がその議長を務めるという構想である。研究カウンスルは「サブ評価部会間の評価実行の一貫性を確保するために各評価部会に調整役を置くという提案を強く支持し」、「提案された調整の仕組みが RAE2008文書に取り入れられていないことに失望」した。ロバーツ卿の提案には多くの利点があるように思われる。ハワード・ニュービー卿は、2004年7月に発行された評価部会に関する HE 財政カウンスルの詳細な提案には言及されていないものの、この提案はまだ却下されたわけではないと示唆した。当委員会は、評価部会/サブ評価部会の構造は一貫性と学際的研究の扱いを改善する望ましい前進だと考える。当委員会は、HE 財政カウンスルに対し、評価部会に調整役を設け

ることを真剣に考慮するよう勧告する。

評価部会の人選

27. これまでの評価部会の部会員は、専門家の団体、業界団体、学識者の団体から候補者を募ることによって任命された。多様な形の研究に合わせて評価の幅を広げるため、最近のRAEでは、学界以外のメンバーを評価部会に含む試みが行われてきた。当委員会は、先の報告書において、民間部門の代表は評価部会のメンバーにならないのではないかと懸念を表明した。

28. RAE2008では、研究の委託や利用経験がある人々——産業界、商業界、公共部門の人々——がサブ評価部会に含まれ、他国での研究の経験を持つ人々も評価のどこかの段階で評価部会の会合に出席すると発表されている。王立協会は、研究を実行した経験を持つ人々や商業・産業・公共サービスで研究成果を応用した経験を持つ人々が評価部会にいつそう関与させようとするHE財政カOUNシルの取り組みを歓迎している。興味深いのは、RAE2001において評価部会に参加した研究ユーザーの代表は「最終的な評決にはほとんど影響を及ぼさなかったが、信頼性の面で有益であった」と評価部会議長らが考えていることである。ユーザー界を代表する評価者がこのような見方を知れば、各界をよりよく代表する評価部会を設置しようとするHE財政カOUNシルの努力を崩壊させかねない。そのようなことになれば問題である。

国際的なベンチマーキング

29. RAE2001において、HE財政カOUNシルは国際的なベンチマーキングを導入した。これによって、5および5*のすべての学科の評点が290人の海外の専門家によって検証された。その結果、9人を除くすべての専門家が評価部会の判断に賛同した。HE財政カOUNシルは、その時点で海外の評価者を利用することについてほとんど懸念を示さず、当委員会も、その利用は評点の信頼性を支えたと結論した。ギャレス・ロバーツ卿のレビューチームも、「この[評点の]改善は海外の専門家の意見によって確認された」と述べた。

30. 海外の評価者の利用をめぐる不安も示されている。EPSRC(工学・数学・物理学研究カOUNシル)は2001年に、「国際的な専門家の関与は限

られており、国際的な測定がどの程度徹底したものかは疑問である」と論じた。アイヴァー・クルー教授は、英国大学協会は「原則として、国際的な水準に照らして判定するよう英国のシステム外の人々に依頼することに反対しない」と述べているが、英国大学協会から提出された文書では、「評価部会のレベルで幅広い学問領域について判定するよう求められる国際的な研究者は少なく、[評価部会とサブ評価部会に]国際的な研究者を含むことは形ばかりのものになる危険」があると記されている。英国大学協会が懸念しているのは、国際的な評価者は「英国の高等教育システムの特性や、各高等教育機関がRAEに評価申請する業績の質について」十分に知らない可能性があるということである。イアン・ヘインズ教授は、海外の評価者は「知識の基盤が限定されたものになり、特定の分野に意見を集中させることになる危険が大きいと思います。この問題を解決するためにはかなり多数の国外評価者を参加させる必要がありますが、これはそう簡単に実現されるとは思えません」と述べている。

31. ギャレス・ロバーツ卿の審議では、2001年には「RAEの評点を検証するために国際的な専門家を利用する手順が不十分であった」と認識されていると報告し、「決定を行う段階で、それぞれのサブ評価部会と評価部会に大きな国際的なプレゼンスが必要である」と勧告している。HE財政カOUNシルは、「他国で質の高い研究を行った経験を持つ人々による評価プロセスへの効果的なインプットを確保するにはどうすればよいか、意見を」求めた。2004年7月、HE財政カOUNシルは、主評価部会のそれぞれに1名ないし2名の国際的な評価者を含めるが、サブ評価部会には含めないと発表した。当委員会は、多数の国際的な評価者を任命する困難を認識しているが、主評価部会に1名か2名の評価者を含むというHE財政カOUNシルの提案は、海外の評価者が形ばかりの存在になるのではないかと英国大学協会の懸念が軽減しないのではないかと考える。

32. ギャレス・ロバーツ卿は、EPSRCによって行われた国際的なレビューが海外の評価メンバーの候補者名簿として役に立つだろうと指摘した。当委員会の報告書『工学・数学・物理学研究カOUNシルの活動』においても、同様のレビューが他の

研究カOUNシルによっては行われておらず、英国の研究の競争力が計量的指標ではないより洗練された方法で捉えられていないのは残念であると指摘した。当委員会は、EPSRCの国際レビューの審査者が将来のRAEに価値あるインプットをできるだろうということに同意するが、他の研究カOUNシルが定期的に同様のレビューを行っていないことを遺憾に思う。当委員会は、海外の評価メンバーの利用を強化するという提案を歓迎する。それは英国の研究のより広範なベンチマーキングの一部を形成すべきである。

作業量

33. 当委員会は、先の報告書で、評価部会の作業量について懸念を表明した。評価部会に申請された研究者の数は、部会員1人あたりに換算すると8人から96人とばらつきがあり、HEFCEは、評価部会部会員への助言の中で「リストされたすべての研究業績を集め、レビューし、詳細に検討することを求められていると思う必要はない」と明記した。当委員会は、化学部会が11人で5,000件以上の研究業績を審査しなければならなかったことを認識している。当委員会は、先の報告書で、HEFCEが提供した資源はこの作業を行うには不十分であったと結論した。また、当委員会は、評価部会の部会員は申請された論文のコピーを自分で入手しなければならなかったと聞いている。マネジメント・コンサルタントのユニベルシタによって実施され、ギャレス・ロバーツ卿の報告書とともに発表されたRAE2001運営報告書にも、評価部会の作業量の大きさについて懸念が記されている。「評価部会の議長らは、RAEチームには過度の要求がなされ、人手が足りなさ過ぎたと考えている[...]。評価段階でもっと人手が必要だったのは間違いないと思われる」。そして、「今回関係者全員が見せてくれたほどの献身と力の傾注が今後のRAEにも得られると考えることはできない」と続けている。評価部会とサブ評価部会には適切な資源が与えられる必要がある。スタッフと評価部会メンバーに過度の要求がなされれば、個々の研究者を選択的に審査し、その結果、質に関して偏った、あるいは誤った結論に達することになりかねない。資源の不足は、苦勞して評価申請の準備をした研究者と高等教育機関を侮辱することに

なる。

34. 評価部会の作業量が過剰であることは明らかであるが、すべての高等教育機関がRAEに参加し続ける中でどのようにしてそれを削減すればよいのかはそれほど明らかではない。HE財政カOUNシルは、複数の評価ルートを支持しないと決定したとき、評価部会の負担を軽減する絶好のチャンスを見逃した。特に、最高ランクの学科を除外するという当委員会の提案は、各評価部会が検討すべき評価申請の数を削減し、申請資料をより詳しく検討することを可能にしたはずである。

評価基準

35. RAE2001では、研究とは以下のように定義された。

「研究とは、知識と理解を得るために行われた独創的な調査研究と理解される。これには、商業界や産業界、および公共部門、非営利部門のニーズに直接関連したものも含まれる。また、スカラシップが含まれるほか、アイデア、イメージ、上演や、デザインを含む工芸品の創造・生成も、それらが新たな洞察、または大幅に進歩した洞察を導くならば、研究に含まれる。さらに、新たな、または大幅に改善された物質、考案物、製品、工程を生み出すために、実験的な展開の中で既存の知識を用いること（デザインと建設を含む）も研究に含まれる。しかし、新しい分析的な手法の開発とは異なり、国の基準を維持するなどの目的で手順どおりに行われる物質・成分・工程の検査や分析は含まれない。また、独創的な研究の具現ではない教材開発も除かれる。」

36. ギャレス・ロバーツ卿は、「研究評価における研究の定義を広げ、特に応用研究、妥当性や有用性の研究、研究学生の指導、教育に直接役に立つ研究を含むことを支持する声が強い」と報告した。ロバーツ卿は、これは「応用研究の価値についてRAEはあまりにも不明瞭であるという人々の認識から生じている」と考えている。リチャード・ランバートも、『産学協同のレビュー』においてRAEの考察を行い、「RAEと研究カOUNシルのピアレビュー・プロセスでは、あらゆるタイプの研究がその世界的な優秀性を認識され、報いられる

べきである。産業界やその他のユーザーとともに行われたすぐれた研究は、優秀な学術的研究と同等の価値があると認められるべきである」と結論している。

37. それへの対応として、HE 財政カウンスルは、「関連すると思われるすべての学問領域の主部会とサブ評価部会に対して、優秀性の適切な特徴を反映する基準に従って実践ベースの研究と応用研究を評価する方法が基準書の中に明確にされるようにすることを要請する」と発表した。HE 財政カウンスルは、まだ RAE で用いられる研究の定義を検討中だと述べているが、その検討は、2001年に用いられた定義は抜本的に変更するのではなく手直しすることが必要だということから出発している。HE 財政カウンスルは、RAE2008は「すべてのタイプの研究の優秀性が認識できるよう基準を十分に柔軟にすることを評価部会に」求めることに同意している。しかし、電気工学者協会は、「これからも出版物と理論的な研究が過度に重視されるのではないかと懸念し、イアン・ヘインズ教授も、証言の中で当委員会に同様の危惧を表明した。

38. 2001年に用いられた定義は、正しく解釈されるならば十分に応用研究を含んでいると当委員会は考える。しかし、研究の定義を広げて「応用研究、妥当性や有用性の研究」を含むことを支持する声があるということは、評価部会における応用研究への重み付けに問題があることを示唆している。評価部会が基礎研究と応用研究を平等に扱っていないと感じられるならば、各学科は、評価申請に応用研究の研究業績を含めなくなり、最終的にはこのような研究を行う意欲もなくなることであろう。

39. 対象となる研究の拡がりの定義は、必然的に、研究業績の質をどのように決定するのかという問題と関連している。RAE2008でも、高等教育機関は、2001年と同じくそれぞれの研究者ごとに最大4点の業績を評価申請書に含むよう求められる。ただし、特定の UoA に適切であると部会員が合意すれば、サブ評価部会は（主評価部会の同意を得た上で）、上限を2点ないし3点とすることもできる⁸。AUT は、4点という規則を廃止し、それ

ぞれの評価部会が研究業績の数と大きさに独自の制限を設けられるという決定を歓迎している。ウェルカム財団は、研究業績の量ではなく質を高めるために、引き続き研究者1人あたりのアウトプットを4点（またはそれ以下）とするという HE 財政カウンスルの決定を支持している。学問領域によっては、研究の成果が形を成すまでに何年もかかることもある。当委員会はこの新たな柔軟性を歓迎するが、上限が低く設定されすぎないよう注意を払う必要がある。上限が低すぎれば、あまりにも多くの学科が容易にこれをクリアし、RAE の基礎——選択的な予算配分を可能にすること——が崩れることになるからである。

40. 英国研究カウンスルは、「研究の成果の促進と広報における研究者の貢献も評価の要素として認識されるべきだ」と考えている。当委員会は、大学の研究者はより広く人々に伝達することに時間を割くべきであると考えますが、それを優秀性の基準として用いるのは問題ではないかと考える。原則の問題としていうと、RAE は最もすぐれた研究に資金を向けるためのものであり、他の行動を促進するためにそれを使うのは疑問である。実際的な面からも、広報（コミュニケーション）の質を評価するのは困難であり、それを RAE に取り入れると、十分な計画や方向付けがなされていない活動を引き起こす恐れがある。当委員会は、研究カウンスルがどのように助成金申請者の広報技術を予算配分の決定の基礎にするのか知りたいと考えている。

41. 当委員会は、2001年に用いられた研究の定義は十分な広がりを持つものであったと結論する。評価部会が基礎研究と応用研究を同等に重視すること、およびそのようになされていると高等教育機関が感じる事が重要である。HEFCE はそれがすべての人に理解されるようにしなければならない。

42. RAE のもう1つの問題点は、研究結果がどこに発表されたかを評価部会が質の代用基準として使っていることである。『Nature』のような学術誌での発表をめぐる競争は厳しく、多数の研究業績を検討しなければならない評価部会にとって、学術誌によって行われるピアレビュー・プロセス

⁸ 『英国の HE 予算配分組織による初期段階の決定事項』2004年2月, RAE 01/2004, 第32段落

を必ずしも繰り返す必要がないと結論するのは合理的かもしれない。しかし、この方法には主に2つの問題がある。その1つは、『Nature』に掲載された論文の中には1回も引用されず、無視できる程度のインパクトしか持たないと考えられるものもあるということである。メイ卿は当委員会に対して、「今日よく見られる他の困った結果の1つは、人々がこうした事柄を扱うとき、論文の中に何が書かれているかではなくて、『Science』や『Nature』に何本の論文が載ったかが問題になることです」と述べている。研究者は、ユーザー界の少数の読者しかなく、ゆえにインパクト要因が小さいがすぐれた研究結果を含む、高度に専門化された学術誌を発表の場を選ぶこともできる。イアン・ヘインズ教授は次のように当委員会に述べている。「最大の画期的研究の一部は、非常に専門的な科学技術の一分野を扱ったずっと小さな学術誌に登場します。そして、それらはしばしば見逃されます」。学術誌のインパクトファクター（IF）だけに基づいた判断は、研究のインパクトと質について大きく誤った評価を導く可能性がある。チャールズ・ガラスコ教授は、「RAEは、研究がもつインパクトよりも助成金収入の額と業績が発表された学術誌のインパクトファクターのほうが重要だという、認識の甘い仮定を基礎にしている」と指摘し、「研究の評価は必要であるが、それを評価する最良の方法はおそらく、その研究が持ってきたインパクトとこれから持つであろう潜在的なインパクトを、それぞれの学問領域のピアグループが価値を判断することであろう」と述べている。ピアレビューを行う評価部会が、質の保証として、研究がどこに発表されたかに依存することは受け入れられない。当委員会はHEFCEに対し、RAE2008ではそれをやめるよう評価部会に指示すること、および評価申請の質について見識ある判断ができるよう評価部会を十分に大きくし、十分なスタッフを配置することを勧告する。

43. ロバーツ卿は、評価基準を作成するにあたって評価部会はそのような業績の優秀性の特徴を認識する適切な基準を含むよう求められるべきであると勧告した。これは歓迎されるが、国内的および国際的な優秀性という語の使い方から問題が生

じる。これはすぐれた研究には必ず世界的な重要性がなければならないということを示唆するからである。これに代わって、研究カウンシルの一部が助成金の申請にランクをつけるときに用いられていると同様の評点付けシステムを用いることができよう。表2は潜在的なインパクトに重点をおくNERC（自然環境研究カウンシル）のシステムを示している⁹。これをRAEの遡及的特徴を反映するように修正した上で、RAE2008に採用される評点付けプロフィールに利用することができる。**RAEは、すぐれた研究が必ずしも国際的な重要性を持つとは限らず、地元の産業や公共サービスのありようを変化させるようなものもあるということ**を認識するべきである。当委員会は、質の基準は論文がどこに発表されたかではなく、研究のインパクトにもっと重点をおくべきであると勧告する。

計量的指標

44. 評価部会の作業量を考えると、労力が小さくてすむが信頼できる質評価を可能にするような計量的指標を検討するのが妥当である。チルナムチャンドラン氏は、これまでに使われた3種類の計量的指標の概要を説明した。

- a) 研究助成金の情報
- b) 出版物の情報
- c) 大学院の研究ユニットの情報

45. ギャレス・ロバーツ卿は、今回のRAEを「ずっと軽いタッチで研究者にとっても評価者にとっても負担の少ないものに」するために、計量的指標の利用を検討したと当委員会に語った。計量的指標を研究評価に利用するには2つの方法がある。その1つは、評価部会が結論に達するための補助として利用すること、もう1つは、ピアレビュー・プロセスに代わるものとして利用することである。当委員会は、第67-75段落で、研究評価の将来をめぐる議論の中で後者について検討する。この違いは重要である。第1の選択肢は評価部会の意思決定を手助けするが、評価部会が十分に早い時期に明確なガイダンスを発表しない限り、必ずしも高等教育機関の事務上の負担を軽くすることにはならないからである。

⁹ www.nerc.au.uk

表2 自然環境研究カウンシル (NERC) によって採用されている助成金交付前の評点付けシステム

評点	研究	戦略的なデータと知識	共有されるサービスと施設	知識移転
$\alpha 5$	きわめて優秀：抜群の科学的な利点と独創性がある。大きな学術的影響が期待される。上位5%以内	きわめて優秀：世界トップの間でのベンチマークである。調査等の上位5%以内。抜群の提供, サービス	きわめて優秀：不可欠で独自の全国的なサービスまたは施設。質と科学的水準が最高である。	きわめて優秀：英国の経済的競争力または公共サービス・公共政策の有効性を高める一部の側面で大きなインパクトを持つと思われる。上位5%以内
$\alpha 4$	優秀：その分野の先端にある。理解を前進させる。上位25%以内	優秀：その分野の中で世界的リーダーに匹敵する。上位25%以内。優秀な提供, サービス	優秀：不可欠で費用効果の高い全国的なサービスまたは施設。質と科学的水準が高い。	優秀：英国の経済的競争力または公共サービス・公共政策の有効性を高める一部の側面でもかなりのインパクトを持つと思われる。上位25%以内
$\alpha 3$	非常に良好：一般的に競争力がある。上位60%以内	非常に良好：その分野の中で高く評価されている。すぐれた提供, サービス	非常に良好：重要な全国的サービスまたは施設。質の面で競争力がある。	非常に良好：英国の経済的競争力または公共サービス・公共政策の有効性を高める一部の側面である程度のインパクトを持つと思われる。上位60%以内
$\alpha 2$	良好：質が高いが、最先端ではない。	良好：最先端ではない。妥当な提供, サービス	良好：有益な全国的サービスまたは施設。質が適切である。	良好：英国の経済的競争力または公共サービス・公共政策の有効性を高める一部の側面で控えめなインパクトを持つと思われる。
$\alpha 1$	長所がある：その分野の中である程度の前進が見られる。	長所がある：満足できる業績, 妥当な提供とサービス	長所がある：時として有益なサービスまたは施設。質がそこそこである。	長所がある：英国の経済的競争力または公共サービス・公共政策の有効性を高める一部の側面で小さなインパクトを持つと思われる。
β	おそらくその分野を前進させることはない。新しく有益な知識	該当なし	該当なし	おそらくその分野を前進させることはない。

46. ギャレス・ロバーツ卿は当委員会に対して、「研究カウンシルと HE 財政カウンシルは現在、適切な計量的指標についてきわめて真剣に取り組んでいる」と保証し、これらが RAE2008 で使われることに自信を示した。チルナマチャンドラン氏は、HEFCE は「その他の計量的指標、特に科学、工学、技術の分野で、もっと私たちに役立つ計量的指標がないかを検討しており、応用研究と実践ベースの研究ではそれができると私たちは考えています」と説明した。HE 財政カウンシルは、「したがって、サブ評価部会は主評価部会と協力して、その学問領域に適したデータセットを特定することが奨励される」と述べている。当委員会は、メ

イ卿が「計量的指標が過大評価されているのではないかと懸念していることを認識しているが、評価部会が計量的指標の利用を増やすことを支持する。評価部会が審査の一部としてどのように計量的指標を使うつもりなのかを明確に説明することが重要である。当委員会は、「[高等教育機関は] どのような計量的指標が使われるかが事前に知らされるべきであり、評価部会によって使われる前にそうした計量的指標の有効性について十分に綿密な評価が行われるということが保証されることが必要です」というクルー教授の意見に同意する。同教授はまた、「権威ある歴史的な業績の質について知りたければ、本を読む以外にはあり

ません。芸術、人文科学、社会科学の多くでも同じことがいえます」と主張している。HE 財政カウンスルは、2005年8月に評価部会とサブ評価部会が作業方法と評価基準の案を発表して意見聴取を行い、2005年11月/12月に結論を公表すると発表している。当委員会は、2004年7月に評価者の候補を発表したことを賞賛する。しかし、当委員会はこのスケジュールでは遅すぎると考える。当委員会は、評価部会が発足したら迅速に、評価の情報源としてどのような計量的指標を使うつもりなのか明確なガイダンスを発表すべきであると勧告する。これは優先事項の1つと考えられるべきである。

評点付けのシステム

47. RAE2001では、評価対象となった研究者の80%が上位3つの評点を得た評価申請組織に属しており、55%が上位2つの評点(5および5*)を得た評価申請組織に属していた。いいかえると、RAEの本来的特性である差別化は、7段階という評価スケールから考えられるほどには達成されなかった。また、この評点方式は「階段状」であることが批判された。ある評点の中で比較的高い判定を得た学科が、予算と評判の面で不釣り合いに大きな影響を受けてしまうからである。また、このことが戦略的行動を促す大きなインセンティブになっていると考えられた。

48. ギャレス・ロバーツ卿は、それぞれの評価申請書の中に質が3段階の「星」の数で表される研究がどれだけ含まれるかを示す質のプロフィールを提案した。HE 財政カウンスルは、星を四段階に増やした上で、この提案を受け入れた(表3参照)。

HE 財政カウンスルによると、この手法の主な利点は以下のとおりである。

- ・ これまでの評点の「階段」効果を取り除くことができる。

- ・ これまでのRAE評点の「平均」効果をなくすることができる。質がそろっている学科とばらつきがある学科を区別し、「優秀なポケット」の存在を明確にすることができる。
- ・ 以前の評点システムで生み出された状況、すなわちより高い評点を得て多くの予算を獲得するために、評価申請から1人または複数の評価が定まっている(評価期間に業績をだしていない)研究者を除くことを高等教育機関が考えるような状況をなくすることができる。

49. 新しい「質のプロフィール」の提案は、幅広い支持を得ている。王立協会は、ロバーツ審議への意見提出の中で、「プロフィール方式では戦略的行動をしてもそれを正当化するほどの財政的結果における違いがないことから、そのような行動に費やされる時間と労力が少なくなるはずである」という論拠に立ってプロフィール方式を提案し、星三つではなく四つの制度を推奨した。AUTはこの新しいシステムを「未加工の数字で表された得点よりも洗練されたアウトプット」と表現している。質のプロフィールの導入は重要な前進であり、公平な予算配分の公式を伴うならば、これまでの評点付けシステムに見られた多くの不公平性を取り除くことができよう。

戦略的行動

50. 当委員会は、最初の調査で得られた証言から、「RAE2001は英国の高等教育機関の研究における向上を反映しているという広く行き渡った見解を受け入れる」と結論した。にもかかわらず、ある年長の大学人は結果の向上は「操作、小細工、抜け目のない駆け引きの泥沼」であると述べ、別の大学人は「評価結果は信頼性を失い始めている」と述べている。大学は、明らかに、研究の質を実際に上げることなく戦略的行動によって評点を高めることができた。それは以下のような方法で達成された。

表3 質のプロフィールの例

UoA	A	評価申請された スタッフ数 (FTE)	以下の基準を満たすと判断された研究活動が評価申請書に含まれる割合				
			四つ星	三つ星	二つ星	一つ星	等級なし
大学 X		50	15	25	40	15	5
大学 Y		20	0	5	40	45	10

出典：数字は架空の大学のものである。期待される比率を示すものではない。

- ・ 研究者の除外。各学科はどれだけ多くの研究者——どれだけ少ない研究者といったほうが当を得ているが——を評価申請に含むのも自由であった。生産性の低い研究者を除外すれば、評点は高くなる。交付される予算の額は申請に加えられた研究者の数によって変わるため、収入を犠牲にして高い評価を得ることができる。そのため、各学科は危ういバランスを保つことが必要であった。
- ・ 学科の分割や統合。弱い学科から数名の研究者を、強い学科に移動させることで、強い学科の評点に悪影響を及ぼすことなく、弱いと見なされていた学科の評点を向上することができた。また、評点5*の学科は、一部のスタッフを除外するならば、評点4の学科と統合することによって5*を維持することができた。
- ・ 高等教育機関間での研究者の移動はRAEの結果をゆがめる。移動した研究者は研究業績を(4点ではなく)2点提出するだけでよかったため、研究者の研究業績の質が実際よりも高く考えられることがあった。

51. ギャレス・ロバーツ卿が提案した新しい評点システムをHE財政カウンスルが受け入れたのは、こうした戦略の一部を無効にするためである。しかし、この提案は、状況を改善しはするが戦略的行動を完全に排除するものではないと、一般には見られている。大学にとっての問題は、2008年に用いられる予算配分のメカニズムがまだ知らされず、方針が立たない中で戦略を考案するという危険を冒していることである。少々驚いたことに、事例証拠は、このメカニズムはあまり戦略的行動のインセンティブを減らすことにならないということを示唆している。ナタリー・フェントン氏は、当委員会に対して、最良の研究者を引き付けようとしてすでに教授職の募集広告が増えているように思うと述べた。英国医師会の医学学術スタッフ委員会は、「多くの高等教育機関は、今回の評価の詳細が公表されもしないうちに、高い評点を得るためにスタッフのプロフィールの再編を行っており、余剰人員対策を検討している」と報告している。

52. 当委員会の以前の調査の際、HEFCEは、戦略的行動は各学科の正当な研究戦略の一部である

という立場にたっていた。しかし、これは建設的なものではなかった。ハワード・ニュービー卿がそれほど自己防衛的な態度を取らず、「はい、それは問題です。私たちはそれを認識しています」と述べているのは喜ばしいことである。メイ卿は当委員会に対し、「専門家のピアレビューによる直接的な助成金であれ、インフラ費用の交付であれ、人数に応じて均等に配るのでない限り、すべての資金配分システムにルールが必要です。そして、ルールは行動を左右します。それを避ける方法はありません」と述べている。しかし、AUTは、「この有害な形の戦術的な『戦略的行動』を防止するためにもっとできることがあるはずである」と主張し、「HE財政カウンスル、英国大学協会、労働組合を対象にする、全国的に合意された研究評価の倫理綱領を設けるべきである」と提案した。全国的な倫理綱領は魅力的な案であるが、大学のある行動が正当な戦略の一部ではないと証明するのは難しいであろう。当委員会は、HE財政カウンスルがその方針と方法論の意図しない結果について率直かつ誠実になり、それに対処するメカニズムを考えるほうが望ましいと考える。当委員会は、RAEの評点を上げるために大学が取った戦術のすべてが正当な研究戦略の一部とはいえないとHEFCEが認めたことを歓迎し、HEFCEに対して、高等教育機関によって採用された戦略の分析を公表し、受け入れられると考えられる行動についてのガイドラインを示すことを勧告する。

研究者の除外

53. 過去のRAEで最も異論が多かった問題の1つは、研究者、すなわち「リサーチアクティブ」とよばれる人々を評価申請に際して、選別することである。研究者の選別を認める規定は、それまで研究を行っていない教員が多かった新しい大学がRAEに含まれるようになった1992年から実施されている。1992年に大学となったところでは研究に従事するアカデミックスタッフが相対的に少なかったため、スタッフを選択的に除外することによって、HE財政カウンスルは学科の中のすぐれた研究のポケットに予算を回すことができた。しかし、これは多くの人々から、内部に分裂を生じさせ、除外された人々のキャリアを傷つけると見られている。

54. 質のプロフィールの利点は、研究者を除外する金銭的インセンティブがないはずだということである。しかし、それでもまだ除外が起こる可能性はある。生物科学連盟は、「多くの高等教育機関、特に強力な機関は、質のプロフィールの状況を気にかけ、足を引っ張る者を望まない」ため、「質のプロフィールによる評価は弱い研究者の戦術的な除外を思いとどまらせることにならないだろう」と主張する。そして、「これは研究スタッフと教育スタッフの分離を進める結果になるかもしれない。それは学部生にとって最善とはいえないだろう」と論じている。起こりうるもう1つの問題は、高等教育機関のランク付けの基礎として「評点ポイントの平均」を使った、ランキング表が作成されるだろうということである。当委員会は、先の報告書で、高いRAE評点が学部生を募集する道具として使われることについて論じ、「すぐれた学生、特に海外の学生は、RAEの得点が高い大学に引き付けられるだろう」と主張した。メディアはHE財政カウンシルの善意に反し、質のプロフィールから単一の数値を引き出すと思われる。それが認められるならば、最も生産性の低い研究者の除外が促されることになるだろう。

55. ギャレス・ロバーツ卿は、当委員会に対し、「どうして全員を評価申請することができないのかわかりません。二元支援システムなので、研究カウンシルの助成金を申請できる人は誰でもRAEに含まれるべきだというのが道理に合っていると思います」と述べた。除外の規定を維持する根拠の1つは、研究以外の資質を持つアカデミックスタッフも多く、全員をRAEに含むとなると彼らが研究にエネルギーを集中させざるを得ないと感じるようになるということである。これまでのRAEでは、評価申請に含まれる研究者の氏名は開示されていない。ただし、学科の中では誰が含まれ、誰が含まれなかったかよく知られているであろう。当委員会は、教育の位置づけがいつそう下がるならば、これは明らかに逆行的なステップであると考え。ハワード・ニュービー卿は、RAE2008にすべてのアカデミックスタッフを含むことにするかどうかはまだ決まっていない

と述べた。当委員会は、大学における教育の位置づけを高めるには、それぞれのアカデミックスタッフによって実行される役割を完全に透明にするのが最善であると考え。そのために、当委員会は、研究カウンシルの助成金を申請する資格のあるすべてのアカデミックスタッフは学科のRAE評価申請に含まれるべきだというギャレス・ロバーツ卿の意見に賛同する。当委員会は、評価に含まれるアカデミックスタッフの公開を含め、RAEの透明性を高めることに多くの利点があると考え。すぐれた管理者の有益な業績、および自分の時間と知性を教育に注ぎ込む講師の有益な業績も、重視することが重要である。こうしたアカデミックスタッフの役割をこれまでより明確にすることは、その仕事に付与される価値を高めることになると当委員会は考える。当委員会は、一括助成金の条件として、年1回のスタッフの監査を公表し、すべてのアカデミックスタッフの研究、教育、管理、その他の機能に対する貢献を明らかにすることを高等教育機関に義務付けるよう勧告する。

女性

56. 当委員会は、先の報告書で、「最高ランクの学科における女性の比率が低く、不釣り合いに多くの女性がRAEから除外されている」ことに対して懸念を表明した。当委員会は、HEFCEの「高等教育機関の研究活動における女性に関する緊急調査プロジェクト」を歓迎した。当委員会の結論は、当時HEFCEの理事長であったブライアン・フェンダー卿を議長とする委員会の『2000年研究予算レビュー』に基づいていた。それは、「HEFCEはまず人的資源のサブグループを通して、最高ランクの学科における女性の比率の低さについて、および研究の可能性を全面的に実現していないと思われるその他のグループがないかについて、検討すべきである」と勧告した。HEFCEはそれに対して、「RAEのプロセスが意図せずに不当な差別を作り出さないことをできる限り確実にしなければならない」と述べた¹⁰。ところが、この肯定的な対応にもかかわらず、当委員会の知る限り

¹⁰ 科学技術委員会の2001-02年会期第5特別報告書『RAE：委員会の第2報告書に対する政府の対応』HC 955, 別添2, 第26段落

HEFCEによっていかなる調査結果も発表されていない。この問題はまだ解消されておらず、2004年6月、AUTはRAEの評価申請書における女性研究者の比率について詳細な数値を記した報告書を発表した¹¹。しかし、この調査は、RAEと女性のアカデミックキャリアの因果関係の証拠を提示していない。ウェルカム財団が委託した研究によると、申請された研究助成金の獲得率は男女ともほぼ同じであるが、女性は申請をすることが少ないということである¹²。その原因が何であれ、受け取る研究助成金の額が少なければ研究の研究業績(出版物)が少なくなり、ゆえに女性がRAEに含まれる可能性が低くなると考えられるであろう。当委員会は先の報告書において、女性のアカデミックスタッフは学科の中で教育と指導の役割が大きいことが多いと報告した。ここで解決されるべき問題は、研究にかかわってはいないが重要な役割を果たしているアカデミックスタッフの地位にあると当委員会は考える。

秘密の保持

57. HE 財政カウンシルは、「サブ評価部会または主評価部会がRAEにおいておこなうことは、個別の研究者の仕事や研究業績の総合的な質について全般的な判断をするものではない。したがって、部会として行う個別な判断を開示することはできない」と述べている¹³。新しいシステムでは、サブ評価部会は、それぞれの評価申請書に含まれる情報のすべてを反映するプロフィールを作成するよう求められる。評価申請書には、個人に関連つけることができる一定の数の研究業績と、個人に関連つけることができないその他の情報(計量的指標と戦略)が含まれる。各評価部会がどのデータをどれだけ重視するかはそれぞれ異なるが、個々の研究者による出版物に重きが置かれるだろうと思われる。このことから英国コンピュータ科学研究委員会は、次のような懸念を表明している。「この立場[秘密性]が情報自由法、データ保護法、人権法の下で維持できるのだろうか。[...]個人の

格付けが明らかにされると、ランク付けプロセスが研究の質を高めるという利点よりも、連帯意識が損なわれ、研究チームや学科の中に区分が作り出されることによる有害性のほうが大きくなるだろう」。当委員会はこの意見に賛同しない。アカデミックスタッフは、誰が最もすぐれた実績を上げているかを知っている、あるいは知っていると思っている。当委員会は、これまでの段落で主張したとおり、評価に含まれる研究者を開示すべきであり、それぞれのアカデミックスタッフが学科の中で果たしている役割をもっと明確にすべきだと考える。各アカデミックスタッフの研究記録に関する独立した評価を公表するのは、その論理的な拡大である。HEFCEは、評価部会のメンバー、書記、RAE チームスタッフには守秘義務があると確言した。当委員会は、裁判所からこれに異議が示され、研究者の業績に関する判断を公開するよう命じられることになるだろうと予測する。したがって、その先手を取り、個々の研究者に与えられる評点を公表すべきであると勧告する。これによってこのプロセスに望ましい透明性がもたらされる。

研究遂行力量

58. RAEに含まれなかった人々のキャリアに対するRAEの影響について懸念が表明されている。当委員会は、先の報告書で、戦術的な理由で「リサーチ・インアクティブ」とレッテルを貼られると、研究者としてのキャリアが損なわれ、ときには研究者としての生命が断たれることすらあると結論した。また、当委員会は、RAEは期間雇用の研究者を大幅に増やすのに貢献しているのではないかという懸念も耳にしている。RAE2001において、各学科の評価申請書には、その研究戦略と研究環境に関するステートメントが含まれていた。これが評価部会による評点付けの決定にとって有益な情報になると考えられたからである。ロバーツ卿は、評価部会が研究業績に集中する傾向が見られたため、このアプローチは「部分的にしか有

¹¹ 大学教員連盟『2002-03年のアカデミックスタッフ—2001年RAEにおけるジェンダーと研究活動』2004年7月

¹² ウェルカム財団『誰が研究予算を申請しているのか』2001年

¹³ 『英国のHE予算配分組織による初期段階の決定事項』2004年2月、RAE 01/2004、第54段落

¹⁴ 『研究評価のレビュー』ギャレス・ロバーツ卿から英国のHE予算配分組織への報告書。2003年5月、第128段落

効」でなかったと述べている¹⁴。RAE2001の運用報告書にも、「評価部会の議長は、文章で表現されたRA5とRA6の情報〔人事の問題と研究の環境〕を重要または不可欠とみなす人と、それをほとんど使わなかった、または多少利用するにとどめた人に分かれた」と記している¹⁵。ロバーツ卿は、機関の研究遂行力量は、研究の質に関わる審議と分けられるべきであり、この分離が合意された水準に達しない場合には何らかのペナルティが与えられるようにすべきだと考えた。そこで、高等教育機関は研究の質の評価とは別に「研究遂行力量」を証明すべきであると提案した。ロバーツ卿は次の4つの基準を提案した。

- a) 研究の戦略（予算獲得のターゲットの信頼性の評価を含む、高等教育機関の研究戦略の一貫性）
- b) 大学院研究生，博士研究員，若い講師を含む，研究者の育成
- c) 機会均等の方針とそれを実践する上での成功（これは研究の役割を担うスタッフばかりでなく，すべてのスタッフに等しい機会を確保する高等教育機関の方針に関わる。）
- d) 大学のピアグループ内にとどまらない研究の普及。これは，高等教育機関以外の組織との共同研究，教育を強化するための研究の利用，研究主題に関する国民の理解を促進する活動など，多様な活動を奨励する高等教育機関の方針に関わる。

59. ロバーツ卿は、この基準のいずれかを達成できなかった高等教育機関は、次回の研究評価に参加することはできるものの、満足のゆく実績を示すまで、研究評価における成績に基づく予算は交付されないようにすることを提案した¹⁶。

60. 研究カウンスルも、研究の基準を広げ、以下を含むことを望んでいる。

- a) チームを基礎とした共同研究アプローチ
- b) 学際的研究
- c) 研究のユーザーとの積極的な関係

- d) 質の高い研究の訓練の提供
- e) 研究のガバナンス
- f) 知識移転

ロバーツ卿の提案はHE 財政カウンスルによって却下された。「過度に複雑になり、達成されると思われる結果に鑑みて妥当とみなされる以上の負担を課すことになる」というのがその理由であった¹⁷。代わりに、これまでのRAEと同様に各学科の研究戦略がRAEの中で評価されることになった。機会均等，スタッフの育成，知識の普及の問題についても，HE 財政カウンスルは研究評価事業以外の既存のメカニズムを通して対応する可能性がある¹⁸。クルー教授は、こうした活動を促進するための資金は「相当な額」になると指摘した。英国研究カウンスルは、高等教育機関の遂行能力の評価が取り入れられなかったことに失望していると述べた。

61. 当委員会は、契約研究者の研究キャリアの存続可能性と待遇について以前から憂慮してきた¹⁹。ゆえに、当委員会も、より広範な研究環境の問題に対処しようとする試みに共感する。しかし、HE 財政カウンスルの決定は適切であると考えられる。HE 財政カウンスルは、高等教育機関の行動を修正するために金銭的な手段を用いることが要求されるならば、RAEのような既存のメカニズムを拡張するか、あるいは新たなメカニズムを導入することができる。当委員会は、先の報告書で、RAEには欠点もあるが、RAEに起因すると考えられるもっと広い影響の多くは、大学の他の役割に関して適切な金銭的インセンティブがないことから生じていると結論した。ナタリー・フェントン氏は、ロバーツ卿の提案を支持して、「高等教育機関の中の研究の位置づけにはさまざまな要因がかかわっていますから、それらがRAEで考慮されるべきです」と述べている。「研究遂行力量」を評価するというロバーツ卿の提案は、実行されたならばRAEに大きな負担をかけるが、よりよい実践方法を促進する必要性は非常に重要であることが

¹⁵ 『研究評価のレビュー』ギャレス・ロバーツ卿から英国のHE 予算配分組織への報告書。2003年5月，別添D，第32段落

¹⁶ 『研究評価のレビュー』ギャレス・ロバーツ卿から英国のHE 予算配分組織への報告書。2003年5月，第132段落

¹⁷ 『英国のHE 予算配分組織による初期決定』2004年2月，RAE 01/2004，第16段落

¹⁸ 『英国のHE 予算配分組織による初期決定』2004年2月，RAE 01/2004，第27段落

¹⁹ 科学技術委員会の2001-02年会期第8報告書『科学・工学における短期研究契約』HC 1046

ら、高等教育機関の研究のすぐれた実践方法を促進するために他のインセンティブと並行してそれが用いられるべきであると当委員会は考える。

頻度

62. HE 財政カウンスルは、RAE2008の後、6年のサイクルに従って評価を実行することを計画している。これは「歳出見直し」に合わせた6年のサイクルという当委員会の勧告と一致する。ロバーツ卿は、軽いタッチの「中間モニタリング」を行うべきだと勧告した。これはそれぞれの被評価単位における活動の量の重大な変化のみに着目するものである²⁰。しかし、HE 財政カウンスルは、プロセスが過度に複雑になり、達成されると思われる結果に鑑みて妥当とみなされる以上の負担を課すことになるという理由でこれを却下した。王立協会と英国大学協会はこの決定を支持している。しかし、物理学会、および英国犯罪学協会はそれに失望している。当委員会は、先の報告書で、各学科は投資増加の影響の認定を申請できるようにすることを提案した。そうすれば、高等教育機関は自ら望んで負担を引き受ける場合にのみ申請することになる。当委員会は、HE 財政カウンスルがいかなる形の間中モニタリングも却下したことを残念に思う。RAEはすぐれた研究に選択的に予算を配分するためのものであり、したがって、予算の配分は過去だけではなく現在のその学科の能力を反映すべきである。

費用

63. 事業を円滑かつ効果的に運営するためにHEFCEが投資する資金と、高等教育機関が負担しなければならない費用の間には、重要な違いがある。当委員会は、評価部会の作業量について論じた上記第33-34段落で、評価部会にはもっと金銭的支援が必要だったと主張した。高等教育機関が負担する費用に関しては、HEFCEは、「RAE1996の[間接的な]費用は3,000万ポンドから3,700万ポンドと推定されており、RAE2008の費用はこれを上回るだろう」と述べている。そして、これは「RAEの結果を使って2002-03年から2008

-09年にHE 財政カウンスルによって配分される資源の1%をわずかに上回る程度である。これはプロジェクトごとに資金の獲得競争をする研究助成金配分システムの費用の比率よりずっと低い」と述べている。そして、「研究の質の評価は、高等教育機関の研究に向けられる多額の公的資金が適正に使われていることを保証するために不可欠な手段であり」、「HEFCEの最新の費用調査で明らかになった活動の多くは、適切な管理運営がなされている高等教育機関が研究活動の計画とレビューのためにいずれにしても行うものだった」と主張する。

64. HE 財政カウンスルの提案には、「次回のRAEを計画する中で、当審議会は、予測されるインパクトとその結果を使って配分される資源を念頭におきながら、高等教育機関に課せられるRAEの費用と事務管理上の負担を最小に抑えることに特に注意を払った」と記されている。HE 財政カウンスルは、RAE2001でHE 財政カウンスルに生じた直接費用は560万ポンドであったが、2008年には1,000万ポンドになるだろうと計算している²¹。

65. 英国大学協会は、「単一の評価プロセスを採用するという改定された提案では、現在のシステム——およびロバーツ提案によるシステム——によって生じる官僚主義のレベルに関する大学側の憂慮が理解されたように思われると安堵」しているが、生物科学連盟の報告書には、「その負担と費用に見合う結果が得られるかという点で意見が分かれている」と記されている。

66. 高等教育機関に生じるRAEのコストについてHE 財政カウンスルが示した数値は過剰とは思われぬ。しかし、大学がこの負担に憤慨しているという事実は残る。HE 財政カウンスルは、2008年の計画を立てるに当たってこの不満に敏感であるべきである。

結論

67. 概して、RAE2008に関するHE 財政カウンスルの決定の多くが受け入れられている。英国大学協会は「HE 財政カウンスルによる初期決定の発表を大体において歓迎」しており、王立協会は

²⁰ 『研究評価のレビュー』ギャレス・ロバーツ卿から英国のHE 予算配分組織への報告書。2003年5月

²¹ 『英国のHE 予算配分組織による初期段階の決定事項』2004年2月, RAE 01/2004, 第63段落

「この提案は重要な前進であると考えて」いる。懸念の多くは、「初期決定」しかまだ出されていないことから生じている。英国大学協会がいうように、「提案の主要な面の多くについて詳細が発表されていない」のである。大学教員連盟（AUT）も同様に、「評価部会の基準や予算配分のレベルといった重要な決定がまだなされていないため、この段階で確定的な判断をするのは難しい」と述べている。英国研究カウンシルも「抜本的な改革の導入に尻込みしているように思われる」と感じている。HE 財政カウンシルの提案は、RAE の仕組みに関する当委員会の懸念の多くに前向きに対処しており、HEFCE はその改革に以前よりも柔軟で建設的なアプローチを取っている。この変化は歓迎すべきものである。それでもなお、大学の事務上の負担を減らすために一連の計量的指標を利用する根本的な改革アプローチが必要である。当委員会は、その適用は RAE と HE 財政カウンシルにとって複雑で時間のかかるものであることを認めるが、管理上の負担は大学ではなく HE 財政カウンシルが負うべきであると考えらる。

4. 将来

評価

68. ハワード・ニュービー卿は、当委員会において、過去2回のRAEはいずれも最後のものになると予測されたが、見かけの不評にもかかわらず研究予算を選択的に配分するという原則にはほとんど反対がないように思われると述べた。リチャード・ジョイナー教授は、研究プロジェクトごとの固定予算に基づくシステムを「賢明で実現可能なもの」と考える人はほとんどいないだろうと報告している。選択的な予算配分システムである限り、何らかの形の質の評価を必要とする。ギャレス・ロバーツ卿の審議報告は「RAEの審議」ではなく「研究評価の審議」という語が用いられており、抜本的な代替案を検討したいという当初の意思が示されている。しかし、実現可能なオプションがないため、これまでとはっきり異なるメカニズムではなく、RAEを改革するメカニズムを提案することになったのである。

69. 当委員会はより抜本的な改革を強く望んでい

る。そして、それは当委員会だけではない。王立協会は「いっそうの作業が必要である。特に、2008年以降に研究評価を簡素化するために導入しうる改革をテストする作業が求められる」と述べている。王立協会は、次回のRAEは新しい制度と並行して質の評価のもっと単純なメカニズムをテストするあつらえ向きの機会であると考え、「ピアレビューされた助成金の額、中央施設へのアクセス、業界や政府省庁からの研究資金、そしておそらくは文献学的指標（ビブリオメトリックス）など、1つまたは少数の計量的指標に基づいて学問領域ごとに異なるパラメーターを作り出すことが可能であれば、計量的指標に重きを置いたシステムを考案することができるのではないか」と述べている。高等教育機関への一括助成金のQR要素は高等教育機関からの1つの申請書類を基礎にするというシステムも可能であろう。ただし、クルー教授は、この案は、「高等教育機関という単位よりもずっと小さな単位の中で実際に研究を行っている人々やグループの見地ではなく、研究の質が高等教育機関（大学）の単位で評価できると仮定している」として、この案を退けている。これは奇妙な主張である。各高等教育機関自身、どこが最良の研究学科か、誰が最良の研究者かを知らないということを示唆するからである。特殊法人によって行われる学科の格付けシステムの助けを得なければ高等教育機関自身でその内部において研究予算を配分できないというのは気がかりなことである。

70. ギャレス・ロバーツ卿による審議は、業績の指標のみに基づく研究評価を支持する声もあると報告している。これを採用すれば、複雑で労働集約的な評価プロセスが不要になるであろう。しかし、ロバーツ報告では、システムが最終的に専門家のレビューに基づくのでない限り、学界の信頼と同意が得られないだろうと結論している²²。

71. ピアレビューを完全に計量的指標で置き換えるというのは難しい問題である。当委員会は先の報告書で、外部助成金の収入額が計量的指標として利用できるかどうかを考察した。その結果、これを採用すると助成金を獲得した申請者に2回報酬を与えることになり、また、助成金収入は研究

²² 『研究評価のレビュー』ギャレス・ロバーツ卿から英国のHE予算配分組織への報告書。2003年5月、第116段落

の出力ではなく研究のための入力である。(収入の面で) 上位20-30の高等教育機関では、プロジェクト助成金収入はQRと密接に相関しているものの、それより下になると研究カウンシルの予算は研究予算のうちの小さな部分しか占めていない傾向があることがわかった。研究カウンシルの予算をQRの計算の手段として用いると、弱い機関に悪影響を与えるであろう。したがって、当委員会は、上位の高等教育機関はRAEから抜け、計量的指標として外部のプロジェクト予算を用いてもよいと結論した。英国製薬業界連盟は、研究カウンシルの「より堅固な」ピアレビューの手法が用いられることを強く望んでいる。

72. 2004年9月に公共政策研究所によって発表された報告書は、RAEは二元支援システムとともに廃止されるべきであると提言している。この案では、予算はDfES(および権限委譲された行政組織)から移動し、研究カウンシルを通して配分されることになる。当委員会は、この解決策にはいくつかの問題があると考えた。これは、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドの高等教育予算の決定を再び英国議会に委ねなければならないことを意味する。また、高等教育機関、特に規模の小さい学科の予算の変動が大きくなる。さらに、この報告書が『多様なミッション: ポスト16セクターにおけるアクセスと優秀性の達成』と題されているにもかかわらず、この案は多様性を削減することになるだろう。高等教育機関は研究カウンシルに支援されるタイプの研究を行うインセンティブを与えることになり、業界や公共部門に関連する研究が損なわれる可能性があるからである。

73. 上述したプロジェクト助成金とQR予算の相関は高等教育機関のレベルではうまく機能するが、学科のレベルではそれほどでもない。その主な理由は、芸術・人文科学系と自然科学系の研究構造が違うことである。学術誌の引用件数など、研究業績の測定値が採用された場合にも、同様の問題が生じるであろう。QR予算配分の主な特徴は、大学がRAEの点数に従って予算を各学科に配分する必要がないということである。実際、ハワード・ニュービー卿は、そのような配分をしないよう高等教育機関に明確な助言がなされていると述べている。それにもかかわらず、当委員会は、以

前の調査で、副学長にとって得点の高い学科を犠牲にして業績の低い学科に資金を回すのは政治的に難しいという印象を受けた。この問題は主に、注目の高い学科(UoA)の格付けが発表されることから生じている。副学長にとっては、それぞれの学科が機関の研究予算に自分たちがどの程度貢献したかを知らないほうがQR予算を柔軟に配分しやすいだろう。ハワード・ニュービー卿は、意見聴取の中で、ピアレビューに基づくシステムの維持が支持されたと述べた。HE財政カウンシルはこの希望に敏感でなければならないが、当委員会は、計量的指標が透明で公正であると見られるならば、学界の支持を得られるだろうと考えている。しかし、HEFCEは、「RAEの廃止、または専門家のレビュー以外の方法によるシステムへの置き換えは大きな支持が得られなかった」として、このアプローチを却下した。AUTもこれに同意し、「何らかの形でRAEが継続するならば、これからはピアレビューが評価事業の中心でなければならない」と論じている。ピアレビューによる評価作業には学界の信頼と十分な理解が得られているという利点があり、当委員会はこの立場にある程度共感する。しかし、この事業が評価部会と学科に負担をかけていることは明らかである。事務的な負担を減らして同じ結論が得られる方法が見つかれば、それは支持するに値するであろう。

74. 研究評価の抜本的な見直しは、新たな「ロバーツ報告」的なものになってしまう危険がある。ギャレス・ロバーツ卿の審議チームは確かに価値のある作業を行ったが、学界からのインプットを主な情報源とした点に誤りがある。審議の間、ロバーツ卿は、新しいアイデアが出ないことに不満を表した。学術研究の主な機能の1つが新しいアイデアの創出であることからすると、これは残念なことである。イアン・ヘインズ教授の次の言葉はこの問題の核心を突いているのかもしれない。「あまりにも多くの既得権があるのです。RAEで成功している高等教育機関がたくさんあります。成功していない高等教育機関は、今よりもっと悪くなるのではないかと考えて抜本的な再考に不安を感じるのです」。ゆえに、今後のレビューはHE財政カウンシルや学界から独立して行われなければならない。当委員会は、数学・物理学など一部の分野ではピアレビュー作業に代

わって一連の指標が利用できる」と結論する。それは現行のシステムより費用効果が高く、高等教育機関と評価部会メンバーに与える負担が小さい一方で、現行システムと同程度に信頼できると考える強力な理由がある。当委員会は、HE 財政カウンシルは他のオプションを検討する外部調査を委託するべきであると勧告する。

評価時期

75. HE 財政カウンシルは、次回の RAE を2008年に完了するというギャレス・ロバーツ卿の案に同意した。2007年ではなく2008年まで遅らせるという決定は、望ましい6年サイクルを最初に延長することになるにしても高等教育機関と評価部会に十分な準備時間を与えるべきだ、という強い意見を反映している²³。

76. 英国研究カウンシルは、「改革された RAE の実施時期は2008-09年が望ましい」と述べている。AUT は、証言の中で、「次回の RAE を政府の包括歳出見直しのサイクルと一致させることにも一理ある [が]、2007-08年というのは余裕のないスケジュールである」と述べている。

77. 当委員会は、抜本的な改革が検討されるべきであると主張しているが、そのような改革が2008年に間に合うように導入できるかどうかは疑わしいと考えている。そうすると、残されたオプションは、新しいシステムを作り上げるのに必要な時間を確保するために次回 RAE の実施時期を遅らせるか、2014年から新システムにするのが現実的なスケジュールだと認めて2008年の RAE を予定通りに行うかということになる。次回の RAE を遅らせるというオプションの主な欠点は、今回の評価まで RAE2001の結果に従って予算が配分され続けるということである。クルー教授は、「それでは、高等教育機関またはその一部における1990年代半ばから後半の業績に基づいた研究予算の配分が2010年か2011年まで固定されてしまうこととなります。それがこの国の研究基盤にとって本当に利益になるとは私には思われません」と指摘している。ナタリー・フェントン氏は、「前回の評点が4で、評点5を得るために懸命に努力してきた人々は、予算を増加させるチャンスが与え

られないといわれたら、すっかり落胆してしまうでしょう」と述べた。また、当委員会は、「次回の RAE を遅らせようとする試みは、この事業を進めている内部のダイナミクスに深刻な影響を及ぼすと思います」というエイドリアン・スミス教授の指摘を認める。こうした問題から、何らかの再調整が可能であるか、2001年のデータにさかのぼって質のプロフィールが適用されるのでない限り、次回 RAE を遅らせるのは望ましくないと思われる。HEFCE は、理論的には評価部会を再招集することによって過去のデータに質のプロフィールを当てはめることは可能だが、データ保護法に則って評価部会の作業文書が破棄されていると述べられている。当委員会は、次回 RAE の実施時期を遅らせることには実際的な困難があることを認め、提案どおり2008年に RAE を行うことを勧告するが、HE 財政カウンシルは研究評価の代替モデルを作り上げる明確なタイムテーブルを作成すべきであると勧告する。

5. 予算配分の決定とその影響

78. おそらく、HE 財政カウンシルの提案をめぐって最も論争の多い問題は、この提案書に RAE2008の計画とともに予算配分メカニズムに関するガイダンスが含まれなかったということであろう。英国大学協会は、「このレビューが予算配分とのかかわりについて公開性を欠いていること」、および「引き続き RAE の予算配分に遡及的な操作の余地があることを非常に憂慮して」いる。セーブ・ブリティッシュ・サイエンスによると、「新しい提案には依然として非常に深刻な問題がある。最も深刻なのは、評価の得点がどのように金銭的報酬に移し変えられるかを高等教育機関が前もって知らされないということである」と述べている。生物科学連盟も、「HE 財政カウンシルは、それぞれの星のレベルの業績に予算配分するおよその比率を示すべきである」と述べ、「RAE は高等教育機関にとって非常に重要な問題であるため、分別ある計画作成ができるように、最初から目標点が明確に設定されていることが不可欠である」と主張している。英国研究カウンシルは「研究の質のプロフィールが予算の配分にどのように移し

²³ 『英国の HE 予算配分組織による初期決定』2004年2月, RAE 01/2004, 第21段落

変えられるのか、もっと明確にすることが求められる」と主張し、AUTは「それぞれの『星の数』の評価に対する予算配分レベルが評価実施の前に発表されなければならないと確信している」と述べている。エイドリアン・スミス教授は当委員会に対し、「できる限り早く、どのように予算配分が行われるのかをHE財政カウンスルから大まかに示してもらする必要があります」と述べた。こうした意見にもかかわらず、HEFCEは、プロフィールをQR予算配分に変換する技術的な側面の詳細は2005年中に発表すると述べている。HEFCEによると、「公式のほとんどすべての面が不明な段階で予算配分について約束するのはHE財政カウンスルにとって不可能」だということである。

79. 当委員会は、RAEとそれに基づく予算配分の決定とを分離することはできないという証言者たちの意見に同意する。当委員会の以前の調査の際、HEFCEは、大学の研究戦略に対するRAEの肯定的な影響を強調した。当委員会はこれに反論はしないが、各学科の研究戦略は予算の見積もりと密接にかかわっている。予算配分がどのように決定されるかを示されていないことから、大学は、見込まれる収入を計算する基礎がないままに投資の戦略を作り上げるよう求められているわけである。現行のシステムでは、たとえば評点3bの学科は、3aに上げる程度では予算増にならないことがわかっているため、4または5を獲得するための投資をするかどうか決定する。しかし、現段階では、学科の質のプロフィールのどの部分に予算が配分されるのかまったく示されていない。HEFCEは、プロフィールをQR予算配分に変換する技術的な側面の詳細は2005年中に発表すると述べているが、それではRAE2008の所属決定日(census date)まで3年しかない。各学科はRAEをどのように戦うか知る必要があるが、HEFCEは目隠しのまま戦うよう各学科に求めている。HEFCEは、質のプロフィールが予算配分の計算にどのように用いられるのかについて大学にガイダンスを示すべきである。当委員会は、RAEには事前に知りようのない多数の変数があることを承知しているが、HEFCEはプロフィールの各区分に与えられる予算配分レベルについて示唆できるだけの推定能力

を持つべきである。これは早急に行われるべきである。

予算配分の決定の傾向

80. 2002-03年度の予算配分の重み付けに関するHEFCEの決定は、当委員会が先の調査を行っている時に行われた。HEFCEは困難な立場にあった。RAE2001は5および5*の学科の数を大幅に増加させた。1996年RAEでは、5および5*の学科は573、そこに所属する研究者は全リサーチアクティブの31%であったが、2001年には、これらの数値は1,081学科、55%になった。予算の総額は固定されているため、HEFCEは2001-02年に用いられた予算配分の公式を変更するしかなかった。そのとき当委員会は、HEFCEは問題を予測するためにもっと手を打ち、用いられる予算配分公式についていかなる仮定もすべきではないことを大学に明示しておくべきであったと主張した。RAE2001の選択性のレベルは大まかに支持され、同様の基盤で予算が配分されるだろうという期待があった。実際、大学が行った戦略的な投資の多くはこの期待に基づいていた。しかし、HEFCEは5および5*の学科に対する予算配分レベルを維持し、3a以下の学科には配分しないという方法を選んだ。つまり、選択性のレベルが高まったわけである。それによって最も深刻な影響を受けたのは、比較的低い基盤から出発して研究遂行力量を確立する途上にあった新設の大学であった。現在、評点4の学科のQR予算は以前より少なく、2004-05年には3aおよび3bの学科のQR予算がゼロになる(表4参照)。当委員会は、予算の削減が必要ならば、すべての評点で平等に削減されるべきだったと結論した。

81. それ以後HEFCEによってなされた決定はさらに予算を集中させるものであり(表4参照)、HEFCEが「高度に選択的」と呼ぶ状況に至っている²⁴。ハワード・ニュービー卿は、当委員会に対し、2002-03年には「それ[RAE2001]に十分に配分できるだけの資源がなかった」と述べた。この言葉は、理想的な予算配分公式があり、これは以前に使われ、十分な資源があったならばRAE2001の結果にも適用されていたはずだという

²⁴ HEFCE『イングランドにおける高等教育予算：HEFCEは予算をどのように配分するか』5月、2004/23

表4 HEFCEによって用いられている近年の予算配分重率

RAEの評点	予算配分の重率			
	2001-02年	2002-03年	2003-04年	2004-05年
5*	4.05	2.71	3.357	3.362
5	3.375	1.89	2.793	2.739
4	2.25	1.00	1	1
3 a	1.50	0.31	0	0
3 b	1.00	0	0	0
2	0	0	0	0
1	0	0	0	0

本音を示している。ゆえに、HEFCEが、予算の圧力がないときにこの理想から離れる選択をするのは不可解である。当委員会には、なぜHEFCEがQR予算の選択性のレベルをさらに上げる必要があると考えたのかわからない。当委員会は、RAEとそれに基づく予算配分の決定によって引き起こされる問題の多くがこれによってさらに強められることを遺憾に思う。

研究遂行力量の確立のための予算

82. 当委員会は、2002年の報告書で、研究遂行力量の向上のための予算を設けることを主張した。当委員会は、各学科が競争プロセスを通して力量向上資金を申請し、RAEのUoAごとの評価部会による評価を受ける仕組みを提案した。この申請は、どのようにして研究の質の評点を高めるつもりかを示す業務計画を基礎とする。この資金が必要な根拠は、低いレベルにある各学科が研究力量を向上させることが可能であるべきであり、高度な選択性はこれを困難にするということである。問題は1992年以降の大学に対するCollR（Collaborative Research：共同研究）予算が廃止されたことによって倍加している。CollR予算は、「資金の選択的な利用を奨励し、適切な場合に『研究の可能性を発展させる方法としての共同研究』を支援することにより、[旧ポリテクニクの]研究の可能性のさらなる実現を支援すること」²⁵を目的とするものであり、その金額は年間1,600万ポンドであった。

83. 2004-05年、HEFCEは、力量向上資金として1,750万ポンドを提供すると発表した。これは、

研究の基盤が今のところ既存の科目ほど強力ではない新しい科目分野の研究に限られる。評点4、5および5*の学科ではそのスタッフの比率が低く、評点3 aおよび3 bの学科に帰属する2002-03年のスタッフの比率が比較的高いことに基づいて、対象となる7つのUoAが選ばれている²⁶。この7つの科目分野とは以下のとおりである。

- a) 看護学
- b) 医学に関連するその他の研究と職業
- c) ソーシャルワーク
- d) 芸術とデザイン
- e) コミュニケーション、文化、メディア学
- f) 演劇、舞踊、舞台芸術
- g) スポーツ関連の領域

84. この予算は、そのUoAの費用重率に従って重み付けされ、評点3 aおよび3 bとなった際のRAE申請におけるリサーチアクティブ数に比例して配分される。高等教育機関は3年間の研究戦略を提出しなければならない。この予算は、当委員会が主張した研究力量向上資金と多くの点で共通している。主な違いは、HEFCEが対象を7つの科目分野に限定していることである。科学技術の主流の分野で、新設大学の学科がこうした重要な領域での研究力量を発展させるのに役立つ力量向上資金はない。当委員会は、分野の限定に異議を唱える。こうした分野が力量向上資金を必要としていることは疑いないが、この案はあまりにも限定的であり、他の新しい研究領域の可能性を無視している。また、HEFCEがそれぞれの申請をどのように判定するのか明確ではない。当委員会

²⁵ HEFCE『CollRのレビュー』2001年9月、p.2

²⁶ HEFCE『イングランドにおける高等教育予算：HEFCEは予算をどのように配分するか』5月、2004/23、第87-89段落

はこの資金を歓迎するが、もっと柔軟に利用されるべきであると考え。各学科は向上と拡大のための野心的な計画を提出することが促されるべきである。一部の分野ではCOE(優秀拠点)を発展させることが急務である。この控えめな資金は薄く配分されすぎてしまう危険がある。当委員会は、「新しいアイデアや能力ある研究者がどこに現れても、それらの発展を支援するために、精鋭グループ以外の研究に十分な予算が与えられるべきである」という英国コンピュータ科学研究委員会の論評に注目している。当委員会は、ランクが付けられなかった学科や評点1または2の学科を除外することに意義があるとは思わない。予算配分は過去の記録ではなく可能性に基づくべきである。当委員会は、研究遂行力量を構築し、研究の基盤における活力を促進する手段としてのHEFCEの力量向上資金を歓迎する。しかし、これは制限的にすぎるのではないかと憂慮する。当委員会は、すべての学科に申請の資格が与えられるべきであり、研究と投資の戦略の強さに基づいてこの資金が交付されるべきであると考え。

インパクト

85. 当委員会は、2002年の報告書で、RAEによって引き起こされた重大な「付随的損害」を報告した。その一部はわが国の大学での研究の行われ方に関連していたが、RAEおよびそれに基づく予算配分の決定も、大学が研究以外の以下のような機能を軽視するインセンティブを作り出していると当委員会は結論した。

- a) 教育
- b) コミュニティへの関与
- c) 商業活動
- d) 地方や地域にとって重要な研究

研究

86. 2002年、HEFCEは、「いかなる評価プロセスでも、特にRAEのように各学科にとって重要なプロセスは、測定しようとする対象そのものをゆがめてしまう」ということを認めた。当委員会は、先の報告書で、RAEがその対象となる研究の特性をゆがめるか、長期的な「ブルースカイ(制約の

ない自由な)」研究の意欲を阻害し、研究者に短期的な目標を追求するよう強いるか、研究結果の発表の方法に影響を及ぼすか、研究者としてのキャリア、特に女性のキャリアを損うかという点を検討した。

87. 英国コンピュータ科学研究委員会は、「安全で漸増的な研究に焦点をおくことが多くなり、学問領域の境界を超えたり、発表できるような結果を導かないかもしれない冒険的なアイデアを探求したりする意欲が低下している」ことに注目し、「これまでのRAEは、最近発表された研究に焦点をおき、それによって発表可能な研究の流れを維持するよう研究者に強制することによって、この変化に寄与した。財政カOUNシルの提案はこの圧力を緩和しないだろう」と論じている。また、「RAEはしばしば、学際的研究を抑制していると思われる。1999年の報告書には、評価部会が学際的な研究を差別的に扱っているという証拠はないが、広くそのように受け止められていると記されており、この受け止められ方自体が学際的な研究を支援する高等教育機関の意欲に影響しかねないと言及されている」と述べている。しかし、HE財政カOUNシルは、「RAE評価部会の構造にぴったり当てはまらない、定着した学際分野において、仮想の「評価者団」を採用するというギャレス・ロバーツ卿の提案を積極的に検討している」と報告している。英国大学協会は、「RAE2008は原則として重要な応用研究、学際研究をよりよく考慮するという意図が示されたことを心強く感じている」。HE財政カOUNシルは、2004年7月に発表した提案において、RAEにおける学際研究の扱い——主に「サブ評価部会が付加的な専門家の助言を取り入れる仕組みの改善」によって対応する——についてより詳しい情報を提供している。HE財政カOUNシルは、これによって、「サブ評価部会がかなり多くの学際的研究を検討しなければならないときには、それを十分に理解する人々の助言を考慮しながら評価されることが確実になり」、また、「二層式の評価部会構造は、同じ主評価部会の中の関連領域のアプローチや手法を利用する研究が評価申請されたときに有益である」と考えている²⁷。

²⁷ HE 予算配分組織『UoAと評価部会メンバーの選任』RAE 03/2004, 2004年7月

研究の集中と学科の閉鎖

88. 上述したように当委員会は、HEFCEが明確な理由なく選択的な予算配分方針を進めていると指摘している。研究予算がますます一握りの大学に集中していることについては、学界の多くの人々が憂慮している。英国地理学会—英国地理学者協会は、「英国における評点4の地理学科の多く (RAE2001では35%が評点4であった) は重要な基盤であり、評点3 aや3 bの学科とともに、英国の地理学研究の重要な教育の場である」ことから、「研究予算のいっそうの集中が進む可能性に重大な懸念」を抱いている。生物科学連盟も「これ以上研究基盤が狭められることに反対」している。英国大学協会も同意見であり、「評点4以下の学科への予算削減と、研究予算の集中化をさらに進めるといふ政府の方針を深く憂慮して」いる。不安を抱いているのは学界にとどまらない。一方、2003年1月に発表された白書『高等教育の将来』は、研究の集中は国の研究の実行能力を強化すると考えている。しかし、これを支持する証拠はほとんどない。それに対して、英国大学協会に委託されたエビデンス社の調査『研究の多様性への予算配分：いっそうの予算集中が大学の研究業績と地域の研究力量に及ぼす影響』は、地域、国および国際的なレベルでの研究基盤の実行能力を高める上で、RAE2001で評点4および3の学科へ投資することが重要であることを示している。科学技術庁は、サセックス大学科学政策研究班に独自の調査を委託した。この調査は、「経済効率の向上を根拠に英国の大規模な学科または大規模な大学に研究予算をさらに集中させることを明白に目指した政府の政策について、それを正当化する説得力ある証拠はほとんどないと思われる」と結論している²⁸。

89. ウェルカム財団は、「RAE2008の結果が研究予算の配分にどのように利用されるのかについて重大な懸念を抱いて」いる。「研究予算はすでに非常に選択的に配分されており、これ以上選択性を高めるべきではないと当財団は考える」と述べ、「予算配分方法が研究のチームとインフラを支援し、最終的に、目的に合った学科に予算を提供することがきわめて重要である」と論じている。

90. 研究がますます選択的になっていることに疑いの余地はない。それほどはっきり言うことができないのは、この傾向と物理科学系学科の閉鎖との関連である。当委員会は、先の報告書で、「RAEは学科の閉鎖の主因ではないかもしれないが、有力要因の1つではないかと考える」と結論した。それに対して、人をひるませるようなHEFCEの回答は、「ここで何が主張されているのか理解できない。RAEは学生数が減っているにしても研究がすぐれていれば予算配分が継続することを可能にするメカニズムを提供している」というものであった。この返答を当委員会が受け取ったとき、ハワード・ニュービー卿はHEFCEに就任してから6ヶ月余りであった。それから2年の間に卿は明らかに穏やかになり、次のように述べている。「こうした[学科の]閉鎖の大部分は、RAEで評点が1か2だった学科です。それにごく小さな学科でした。ですから、[...]副学長は成長している分野に投資するという決定をし、[衰退している]分野に投資をしないという決定をしているわけです」。リチャード・ジョイナー教授は、RAEが閉鎖に寄与していることにほとんど疑いを抱いておらず、これから最悪のことが起こるのではないかと懸念している。「2001年の予算決着の結果として起こったのは、科学技術分野で研究に参加したい人に克服できないほどの参入障壁が作られ、そこから手を引くにも大きな解約金が課せられることになってしまったということです」。当委員会は、RAEに基づく高度に選択的な研究予算配分の方針が中心的な学問領域における学科の存続可能性に影響を及ぼしているとハワード・ニュービー卿が認識するようになったことを歓迎する。RAEは他の動きと無関係に行われるわけではなく、高等教育界では2003年の白書と授業料の自由設定の開始後、他の変化も起こっている。こうした変化の影響を正確に論じるには時期尚早である。しかし、これまでに表明されている懸念は、授業料の自由設定もさらに大学の学科の閉鎖を導く可能性があり、それもおそらく物理科学分野で起こるだろうということを示唆している。つまり、RAEの実施と授業料の自由設定は相互に強化しあう恐れがある。HEFCEはこの点への警戒を

²⁸ von Tunzelmann N, M, Martin B and Geuna A 『研究実行能力に及ぼす規模の影響：SPRU レビュー』2003年6月

怠ってならない。

地域的観点

91. 学科の閉鎖は、そのような科目分野における研究の能力が損なわれないならば、それ自体では問題ではないといえるかもしれない。しかし、閉鎖の地理的なパターンは重要である。学科の閉鎖によって国内にある分野の十分な教育が行われない地域ができたならば、地方の産業界や公共部門が学術的な研究に接することができなくなる可能性がある。また、地元で学ぶことを希望する学部生にとって、専攻分野の選択肢が限られることになる。授業料の後払い制による学部生の債務増加は、自宅に最も近い高等教育機関で学びたいと思う学生を増加させるであろう。ハワード・ニュービー卿がこれを問題と認識し、「こうした閉鎖は調整も計画もされず、ランダムに起こっているため、問題なのです」と述べているのは心強い。したがって、当委員会は、補足的証拠におけるHEFCEの思慮深い提案と『投資フレームワーク』に概説された手段、すなわち閉鎖の恐れがある場合には12ヶ月前に通知するよう義務付け、状況によっては追加予算を提供することによってHEFCEが介入するオプションを設けることを歓迎する²⁹。HEFCEが閉鎖を遅らせる、または苦境にある学科に予算を提供するという規定は、大学の自治を脅かすとして批判されているが、この独立性の侵害は、国全体として中心的な学問領域を保護するために払う価値のある犠牲である。当委員会は、この権限は慎重に行使されるべきだということを認めるが、方針の重要な変更であり、当委員会はこれを歓迎する。授業料の自由設定の影響についても懸念があることを考えると、HEFCEがこの新しい権限を持つのはきわめて時宜にかなっている。

教育と研究のリンク

92. 教育と研究の関連は激しい論争的となっている。当委員会は、RAEに関する先の報告書で、「質の高い研究環境における質の高い教育」の支持と、教育のみの学科は学生に研究のキャリアに乗り出そうという刺激を与える環境にならないだ

ろうという懸念を表明した。「[物理]学会は、HE財政カウンシルの意見聴取文書に教育と研究のリンクの重要性が明白に認識されていることを歓迎している」が、HE財政カウンシルの提案が教育について言及していないのは残念だと考えている。生物科学連盟は、「RAEは今後も、評価対象になっていないが教育や管理に大きな貢献をしているスタッフにとってあまり有利にならないだろうと思われ」、「大きな将来性はあるがまだ1点か2点の論文しか発表していない若いスタッフの問題」もあると考えている。同連盟は、ロバーツ委員会がそのようなスタッフについて詳しく検討したにもかかわらず、HE財政カウンシルの『初期決定』には、評価部会とサブ評価部会が学科の戦略とスタッフの育成について考慮するというあいまいな言及しかなされていないと指摘した。研究と教育のリンクは、グレアム・デイヴィーズ卿が議長を務める新しい高等教育研究フォーラムで検討されており、当委員会は関心を持ってその結果を待っている。

6. 二元的支援システムと高等教育機関の財政

93. 二元支援システムには、長年の間に2つの予算の流れに著しい不均衡が生じたための緊張が見られる。研究カウンシルや他の資金源（慈善団体、業界、EUなど）からのプロジェクト予算はHE財政カウンシルからの予算に比べて大きく増加した。特に医学と生物科学においてそれが顕著である。1993-94年から1999-2000年の間で、すべての財源を合わせた大学へのプロジェクト予算が52%増加したのに対し、HE財政カウンシルからの研究予算は25%しか増加していない。ハワード・ニュービー卿によると、この不均衡は年間9億ポンドに及ぶ。英国大学協会は、「QR予算のレベルは現在の研究の量を支えるのに不十分であり、二元支援システムのこの面に非常に大きな緊張がある」と述べている。二元支援システムの2つの柱に関するレビューが十分に統合されていないことが憂慮されている。生物科学連盟は、会員の間、「RAEに関する審議を、今進行中の二元支援システムの評価と統合することも、高等教育に関

²⁹ 財務省『科学・革新投資フレームワーク2004-2014年』2004年7月。第6.49-6.50段落

する政府の政策全体の中で考察することもできていない」という批判があると報告している。当委員会は、2003年に出した科学技術省 (OST) 詳細報告書において、「研究予算に関する統一性に欠けた政府のアプローチ」に懸念を表明した。

94. 政府は『2004-2014年の科学・革新投資フレームワーク』において、二元支援システムの両方の柱を総合的に検討しようとしている。SR2002に先立つ「透明性レビュー」に促されたその解決策は、大学が行う研究の全経済費用を回復するよう大学に義務付ける状況にするというものである。研究カウンスルは、2010年ごろまでに、資本インフラへの投資を除き全経済費用を支払う制度に移行する。SR2004期間の研究カウンスル予算の年間実質上昇率 (5.6%) の多くがこの費用に寄与することになるだろう。加えて、HEFCEの研究予算も、実質で年6%増加する。これによって、2つの予算の流れの不均衡がかなり縮まっている。不均衡の是正は歓迎されるが、それが最良の方法でなされているのかどうか当委員会は確信を持ってない。王立協会は「研究カウンスルプロジェクトの費用計算に関する最近の提案では、事務管理上の負担が増え、大学の研究が過剰に管理されるのではないかと懸念している³⁰。王立協会の会長であるメイ卿は、最近、全経済費用を提供する制度への移行は、「自分たちが見ている世界についてほとんど何も知らず、私に言わせればほとんど気違い沙汰の規則を作り出すキャリア公務員」のせいだと非難し、「[...] カフカだってこんなことは思いつかなかっただろう」と述べている³¹。メイ卿は、当委員会に対し、政府のレビューは「無能」であり、制度変更の結果も他国の予算配分モデルも考えていないと述べた。政府は、次回の歳出見直しに間に合わせて2006年における全経済費用モデルへの「軌跡」を評価すると述べている。当委員会は、その機会に、このモデルが実現可能なものなのかどうか、および二元支援システムの均衡回復という目的がHE財政カウンスルの研究予算を増加させるという直接的な方法で達成できないのかどうかを検討することを政府に希望する。

95. 政府は、繰り返し、二元支援システムを維持

すると強調しており、OSTとHEFCEによって最近行われた各種のレビューは、システム全体の再評価ではなく、それぞれの予算配分に用いられるメカニズムを検討するものになっている。研究カウンスルが将来の計画に基づくピアレビューを用い、HE財政カウンスルが過去の実績に基づくレビューを用いていることから、一般に、二元支援システムはすぐれたバランスを実現していると考えられている。王立協会は、2003年11月に発表した文書においてこのシステムの機能に疑問を呈し、抜本的な見直しを勧告したが、代案は提示しなかった。重要な問題の1つは、両方の予算配分がほとんど一致しており、並行する2つのレビューシステムが同じ結論に達していることである。政府の『2004-2014年の科学・革新投資フレームワーク』は、このシステムの継続を再確認しているものの、両方の柱の改革が必要なことを認識している。メイ卿は当委員会への証言の中で、「私たちの最終的な目的は、米国のシステムの強みである純粋な多様性を備えた高等教育セクターを作り上げることです」と述べている。ジョイナー教授もこれに同意し、米国のシステムの利点は、「何かを得ることができるさまざまな場所が存在するということです」と言う。メイ卿の意見は、当委員会が2002年の報告書で表明した意見、すなわちRAEは不本意ながら選択の余地がないものであり、ナタリー・フェントン氏が「今やRAEは高等教育機関で起こっているすべてのことを左右している」と不満を述べる状況になっているため、この制度には歪曲効果があるという意見と多くの点で一致している。英国医師会の医学学術スタッフ委員会も、現在、各大学の医学部は臨床と教育の機能を犠牲にして研究にいつその重点をおくようになっていると報告している。

96. 多様性を達成するには、多様な予算のインセンティブが用いられるか、異なる予算配分の基準を持つ多様な資金提供者が存在するしかない。政府は、産業研究開発の予算を2002年のGDP比1.24%から上昇させて1.7%にするという目標を設定している。この増加の一部は英国の大学の研究予算に使われると期待するのが妥当であり、これ

³⁰ 『2004年歳出見直しに対する王立協会の意見書』2004年7月12日

³¹ 「ボブ・メイ『政治学、教育の監視者』」 Educational Guardian, 2004年7月20日

はQR予算の釣り合いを取る望ましい資金になるはずである。当委員会は、高等教育機関の研究予算配分における多様性を希望するが、RAEが予算配分を支配する現状でそれを達成する方法を思い描くことができない。当委員会は、大学の活動のすべての分野について新しいインセンティブが必要であると結論している。教育の質の評価には問題があり、不評であることが明らかになっている。政府は、より抜本的な解決策を検討すべきである。それは、おそらく、これまでのようにインプットを基礎にするのではなく、アウトプットを基礎にして教育の予算を配分することによって達成されるであろう。知識移転の「第三の柱」予算は近年拡大しているが、それらがRAEに基づく予算配分の釣り合いを取るものとして十分かどうかは明確ではない。当委員会は、予算の流れの多様性を拡大することがRAEの釣り合いを取るものになると結論する。提案されているヨーロッパ研究カOUNシルは、他の政府省庁からの研究予算の利用可能性を増大させると思われることから、これに貢献するであろう。

結論と勧告

1. HE 財政カOUNシルは、意見聴取に対する意見書の中の議論の数だけではなく、その質に目を向けるべきであった。ギャレス・ロバーツ卿が唱えた「誰でも着られるフリーサイズ型」からの脱却は重要な方針であり、採用されるべきであった。当委員会は、HE 財政カOUNシルの提案は不当に保守的であると考える。当委員会は、大学の感受性を守るのはHEFCEの役割ではないと考える。(第16段落)
2. 当委員会は、評価部会／サブ評価部会の構造は一貫性と学際的研究の扱いを改善する望ましい前進だと考える。当委員会は、HE 財政カOUNシルに対し、評価部会に調整役を設けることを真剣に考慮するよう勧告する。(第26段落)
3. 当委員会は、海外の評価メンバーの利用を強化するという提案を歓迎する。それは英国の研究のより広範なベンチマーキングの一部を形成すべきである。(第32段落)
4. 評価部会とサブ評価部会には適切な資源が与えられる必要がある。スタッフと評価部会メンバーに過度の要求がなされれば、個々の研究者を選択的に審査し、その結果、質に関して偏った、あるいは誤った結論に達することになりかねない。資源の不足は、苦勞して評価申請の準備をした研究者と高等教育機関を侮辱することになる。(第33段落)
5. 評価部会の作業量が過剰であることは明らかであるが、すべての高等教育機関がRAEに参加し続ける中でどのようにしてそれを削減すればよいのかはそれほど明らかではない。HE 財政カOUNシルは、複数の評価ルートを支持しないと決定したとき、評価部会の負担を軽減する絶好のチャンス逃した。特に、最高ランクの学科を除外するという当委員会の提案は、各評価部会が検討すべき評価申請の数を削減し、申請資料をより詳しく検討することを可能にしたはずである。(第34段落)
6. 当委員会は、2001年に用いられた研究の定義は十分な広がりを持つものであったと結論する。評価委員会が基礎研究と応用研究を同等に重視すること、およびそれが実現されていると高等教育機関が実感することが重要である。HEFCEはそれがすべての人に理解されるようにしなければならない。(第41段落)
7. ピアレビューを行う評価部会が、質の保証として、研究がどこに発表されたかに依存することは受け入れられない。当委員会はHEFCEに対し、RAE2008ではそれをやめるよう評価部会に指示すること、および評価申請の質について見識ある判断ができるよう評価部会を十分に大きくし、十分なスタッフを配置することを勧告する。(第42段落)
8. RAEは、すぐれた研究が必ずしも国際的な重要性を持つとは限らず、地元の産業や公共サービスのありようを変化させるようなものもあるということを認識すべきである。当委員会は、質の基準は論文がどこに発表されたかではなく、研究のインパクトにもっと重点をおくべきであると勧告する。(第43段落)
9. 当委員会は、評価委員会が発足後速やかに、評価の情報源としてどのような計量的指標を使うつもりなのか明確なガイダンスを発表すべきであると勧告する。これは優先事項の1つと考えられるべきである。(第46段落)

10. 質のプロフィールの導入は重要な前進であり、公平な予算配分の公式を伴うならば、これまでの評点付けシステムに見られた多くの不公平性を取り除くことができよう。(第49段落)
11. 当委員会は、RAEの評点を上げるために大学が取った戦術のすべてが正当な研究戦略の一部とはいえないと HEFCE が認めたことを歓迎し、HEFCE に対して、高等教育機関によって採用された戦略の分析を公表し、受け入れられると考えられる行動についてのガイドラインを示すことを勧告する。(第52段落)
12. メディアは、HE 財政カウンシルの意図に反し、質のプロフィールから単一の数値を引き出すと思われる。それが認められるならば、最も生産性の低い研究者の除外が促されることになろう。(第54段落)
13. 当委員会は、評価に含まれるアカデミックスタッフの公開を含め、RAEの透明性を高めることに多くの利点があると考え。すぐれた管理者の有益な業績、および自分の時間と知性を教育に注ぎ込む講師の有益な業績も、重視することが重要である。こうしたアカデミックスタッフの役割をこれまでより明確にすることは、その仕事に付与される価値を高めることになると当委員会は考える。当委員会は、一括助成金の条件として、年1回のスタッフの監査を公表し、すべてのアカデミックスタッフの研究、教育、管理、その他の機能に対する貢献を明らかにすることを高等教育機関に義務付けるよう勧告する。(第55段落)
14. 当委員会は先の報告書において、女性のアカデミックスタッフは学科の中で教育と指導の役割が大きいことが多いと報告した。ここで解決されるべき問題は、研究にかかわってはいないが重要な役割を果たしているアカデミックスタッフの地位であると当委員会は考える。(第56段落)
15. HEFCE は、評価部会のメンバー、書記、RAE チームスタッフには守秘義務があると確言した。当委員会は、裁判所からこれに異議が示され、研究者の業績に関する判断を公開するよう命じられることになるだろうと予測する。したがって、その先手を取り、個々の研究者に与えられる評点を公表すべきであると勧告する。これによってこの作業に望ましい透明性がもたらされる。(第57段落)
16. 「研究遂行力量」を評価するというロバーツ卿の提案は、その実行にはRAEに大きな負担を負わせることになるが、よりよい実践方法を促進する必要性は非常に重要であることから、高等教育機関の研究のすぐれた実践方法を促進するために他のインセンティブと並行してそれが用いられるべきであると当委員会は考える。(第61段落)
17. 当委員会は、HE 財政カウンシルがいかなる形の間中モニタリングも却下したことを残念に思う。RAE はすぐれた研究に選択的に予算を配分するためのものであり、したがって、予算の配分は過去だけではなく現在のその学科の能力を反映すべきである。(第62段落)
18. 高等教育機関に生じる RAE のコストについて HE 財政カウンシルが示した数値は過剰とは思われない。しかし、大学がこの負担に憤慨しているという事実は残る。HE 財政カウンシルは、2008年の計画を立てるに当たってこの不満に敏感であるべきである。(第66段落)
19. HE 財政カウンシルの提案は、RAE の仕組みに関する当委員会の懸念の多くに前向きに対処しており、HEFCE はその改革に以前よりも柔軟で建設的なアプローチを取っている。この変化は歓迎すべきものである。それでもなお、大学の事務上の負担を減らすために一連の計量的指標を利用する根本的な改革アプローチが必要である。当委員会は、その適用はRAEとHE財政カウンシルにとって複雑で時間のかかるものであることを認めるが、管理上の負担は大学ではなく HE 財政カウンシルが負うべきであると考え。(第67段落)
20. 当委員会は、物理科学など一部の分野ではピアレビュー・プロセスに代わって一連の指標が利用できると結論する。それは現行のシステムより費用効果が高く、高等教育機関と評価部会メンバーに与える負担が小さい一方で、現行システムと同程度に信頼できると考える強力な理由がある。当委員会は、HE 財政カウンシルは他のオプションを検討する外部調査を委託するべきであると勧告する。(第74段落)

21. 当委員会は、次回 RAE の実施時期を遅らせることには実際的な困難があることを認め、提案どおり2008年に RAE を行うことを勧告するが、HE 財政カウンスルは研究評価の代替モデルを作り上げる明確なタイムテーブルを作成すべきであると勧告する。(第77段落)
22. 各学科は RAE というゲームをどのように戦うか知る必要がある。しかし、HEFCE はゲームを目隠しのまま戦うよう各学科に求めている。HEFCE は、質のプロフィールが予算配分の計算にどのように用いられるのかについて大学にガイダンスを示すべきである。当委員会は、RAE には事前には知りようのない多数の変数があることを承知しているが、HEFCE はプロフィールの各区分に与えられる予算配分レベルについて示唆できるだけの推定能力を持つべきである。これは早急に行われるべきである。(第79段落)
23. 当委員会には、なぜ HEFCE が QR 予算の選別性のレベルをさらに上げる必要があると考えたのかわからない。当委員会は、RAE とそれに基づく予算配分の決定によって引き起こされる問題の多くがこれによってさらに強められることを遺憾に思う。(第81段落)
24. 当委員会は、研究遂行力量を構築し、研究の基盤における活力を促進する手段としての HEFCE の力量向上資金を歓迎する。しかし、これは制限的にすぎるのではないかと憂慮する。当委員会は、すべての学科に申請の資格が与えられるべきであり、研究と投資の戦略の強さに基づいてこの資金が交付されるべきであると考え。(第84段落)
25. 当委員会は、RAE に基づく高度に選別的な研究予算配分の方針が中心的な学問領域における学科の存続可能性に影響を及ぼしているとハワード・ニュービー卿が認識するようになったことを歓迎する。RAE は他の動きと無関係に行われるわけではなく、高等教育界では2003年の白書と授業料の自由設定の開始後、他の変化も起こっている。こうした変化の影響を正確に論じるには時期尚早である。しかし、これまでに表明されている懸念は、授業料の自由設定もさらに大学の学科の閉鎖を導く可能性があり、それもおそらく物理科学分野で起こるだろうということを示唆している。つまり、RAE の実施と授業料の自由設定は相互に強化しあう恐れがある。HEFCE はこの点への警戒を忘れてならない。(第90段落)
26. HEFCE が学科の閉鎖を遅らせたり、苦境にある学科に予算を提供するという対策は、大学の自治を脅かすとして批判されているが、この独立性の侵害は、国全体として中心的な学問領域を保護するために払う価値のある犠牲である。当委員会は、この権限は慎重に行使されるべきだということを確認するが、方針の重要な変更であり、当委員会はこれを歓迎する。(第91段落)
27. 政府は、次回の歳出見直しに間に合わせて2006年に全経済費用モデルの「軌跡」の評価を行うと述べている。当委員会は、その機会に、このモデルが実現可能なものなのかどうか、および二元支援システムの均衡回復という目的が HE 財政カウンスルの研究予算を増加させるという直接的な方法で達成できないのかどうかを検討することを政府に希望する。(第94段落)
28. 当委員会は、高等教育機関の研究予算配分における多様性を希望するが、RAE が予算配分を支配する現状でそれを達成する方法を思い描くことができない。当委員会は、大学の活動のすべての分野について新しいインセンティブが必要であると結論している。教育の質の評価には問題があり、不評であることが明らかになっている。政府は、より抜本的な解決策を検討すべきである。それは、おそらく、これまでのようにインプットを基礎にするのではなく、アウトプットを基礎にして教育の予算を配分することによって達成されるであろう。知識移転の「第三の柱」予算は近年拡大しているが、それらが RAE に基づく予算配分と釣り合いを取るものとして十分かどうかは明確ではない。当委員会は、予算の流れの多様性を拡大することが RAE との釣り合いを取るものになると結論する。提案されているヨーロッパ研究カウンスルは、他の政府省庁からの研究予算の利用可能性を増大させられることから、これに貢献するであろう。(第96段落)

正式議事録

2004年9月15日水曜日

出席者

イアン・ギブソン博士 議長

ポール・ファレリー	トニー・マクウォルター氏
エヴァン・ハリス博士	ジェラルディン・スミス
ブライアン・イドン博士	ボブ・スピンク
ロバート・キー氏	デズモンド・ターナー博士

委員会の審議が行われた。

以下の方々が本委員会で証言された。

(以下、審議における証言はこの翻訳では省略)

証言者

2004年5月12日水曜日

オックスフォードのメイ卿 上院議員，王立協会会長
 エイドリアン・スミス教授 ロンドン大学クイーンメアリー校学長
 アイヴァー・クルー教授 エセックス大学副学長，英国大学協会
 ギャレス・ロバーツ卿 教授，オックスフォード大学ウルフソンカレッジ学長
 ハワード・ニュービー卿 イングランド高等教育 HE 財政カウンシル理事長
 ラマ・チルナマチャンドラン氏 イングランド高等教育 HE 財政カウンシル研究・知識移転部長

2004年6月7日水曜日

ナタリー・フェントン氏 ラフバラ大学コミュニケーション・メディア研究学科上級講師
 イアン・ヘインズ教授 ロンドンメトロポリタン大学大学院ディレクター
 リチャード・ジョイナー教授 ノッティンガム・トレント大学研究部研究・大学院長
 スティーブ・ウォートン博士 バス大学ヨーロッパ研究・近代言語学部

文書による証言のリスト

そのほか以下の文書証言が寄せられている。

[このうち、3, 4, 7, 9, 11, 12, 13, 19を訳出する。]

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1 チャールズ・ガラスコ教授 | 11 HEFCE からの覚え書き |
| 2 セーブ・ブリティッシュ・サイエンス協会 | 12 大学教員連盟 |
| 3 物理学会 | 13 英国大学協会 |
| 4 英国地理学会—英国地理学者協会 | 14 電気工学者協会 |
| 5 生物科学連盟 | 15 英国医師会医学学術スタッフ委員会 |
| 6 英国犯罪学協会 | 16 英国製薬業界連盟 |
| 7 ウェルカム財団 | 17 イアン・テレル博士, Ultralab |
| 8 英国コンピュータ科学研究委員会 | 18 リチャード・ジョイナー教授 |
| 9 英国研究カウンシル | 19 HEFCE からの補足証言 |
| 10 王立協会 | |

文書による証言

別添 3

物理学会からの覚書

物理学会は、主導的な国際的専門家団体・学術団体である。37,000人以上の会員を持ち、基礎研究と応用研究を含む物理学の知識と教育の前進・普及を促進している。

全体として、当学会は、HE 財政カウンシルの報告書『英国の HE 財政カウンシルによる初期決定』に概説された、2007-08年の新しい RAE の計画案を歓迎する。

特に、当学会は以下を歓迎する。

- 2007-08年のあと、RAE は 6 年に 1 回とすること
- アウトプットは引き続き 1 人の研究者につき最大 4 点とすること。しかし、このアウトプットは、公表された出版物という伝統的な範囲を超えるものでなければならない。応用研究がこれまで以上に考慮されるように、広い解釈が明確に強調されなければならない。また、施設へのアクセスの問題も認識されるべきである（その他の問題の節を参照）
- 基準に照らして決定される質のプロフィールとして結果が公表されること
- 研究者個人の格付けや得点付けが行われないこと。これによって、大学内でこの情報が悪用されるのを防ぐことができる。
- 不評をかうと思われる複数ルート・アプローチが採用されないこと
- 共同申請が妨げられないこと。これが歓迎されるのは、大学はこれまでのように互いに競争することに強調点がおかれるべきではなく、国全体としてのアウトプットを強化するために共同研究を行うことが奨励されるべきだからである。また、学際的な研究がいっそう増えており、それを評価する適切な仕組みが採用される必要がある。個人の研究者や小さなグループに他の高等教育機関の学科とともに評価申請するよう奨励することは、地域の研究グループ間の協力の推進に役立つであろう。しかし、これはヘッドハンティングの手段となる可能性

もある。

- 応用研究が正当に重視されること。次回の RAE は最も質の高い応用研究を認識し、それに報いる必要がある。当学会は、学術誌には発表されないこともある産業志向／商業利用志向の研究の質を評価できるようにするため、付加的な基準を作成することを提案する。予算配分に関しては、質に関連する研究助成金は応用研究が高等教育内で支援される唯一の手段ではないという HE 財政カウンシルの報告に同意する。ランバート報告書に提言されているように、第 3 の流れやその他の資金の流れが強化／導入されるべきである。
- 評価部会とサブ評価部会の構造は、学界との意見聴取によって最終決定される。ユーザー界の代表を評価部会に含むことについては慎重に検討することが必要である。そうした評価者には報酬が支払われるのか。そうでないならば、そうした評価者は評価に参加することにどのような利益があると考えるか。そうした評価者は学術論文にそれほど慣れていないため、彼らが評価に貢献する能力の有効性は、研究者によって提出されるアウトプットのタイプに合ったものでなければならない。独立したレビューが行われるならば、商業的な敏感さの実際性も小さな問題ではない。国外の代表に関しては、評価の信頼性を高めるために国際的な専門家を利用することに当学会はある程度意欲を持っているが、現実的な障害があるだろう。時間、英国の現状をよく知らないこと、費用である。加えて、国外の評価者を含むならば、評価部会を支配することがないように、少数にすべきである。
- 主評価部会とサブ評価部会は、それぞれの学問領域に適した量的指標を参照することが奨励されるべきである。
- サブ評価部会は、独自の評価基準を定める自由を持つべきである。こうした基準が公表されることが不可欠である。加えて、当協会は、専門的なサブ評価部会が今後も基準を策定する際に適切な専門団体に相談するものと信じている。

- 機会均等が考慮されること。意図するか否かにかかわらず、RAEは英国の研究者のデモグラフィック構造に影響を及ぼす。これを明確に認識することによって、たとえば若い科学者や女性のキャリアの発展などに、より肯定的な影響を及ぼすことができる。しかし、HE財政カウンシルの報告書の第69b段落に「…それぞれの研究者の個人的状況がその人の生産性に影響を及ぼした事例を高等教育機関が明らかにする規定…」と述べられている。これは、そのような個人は特殊な事例であると提示されることを意味するように思われる。おそらくもっと公平な手順は、すべての人に適用される何らかの「生産性指標」を定めることであろう。それは、厳格に労働時間のFTE数で決めるのではなく、大部分の人は生産性100%になるが、たとえば半分の時間しか働かない場合は生産性33%となるような指標とすることが考えられる。そうすれば、個人のアウトプットの質は、量から独立して判断されることになる。

しかし、当学会は、以下に関して落胆している。

- 中間モニタリングが行われないこと。当学会は、新しい施設やスタッフに投資し、その評点を向上させたいと望む学科は、適切な承認を得た上で、3年以上の間隔で再評価を申請できるべきだと考える。
- どの研究者の研究アウトプットを評価申請するかを決めることが大学に求められること。当学会は、研究者の除外に関して「予算配分は、アクティブとみなされる研究者ではなく、その学科全体の研究の実際の量と質を反映すべきである。大学は一部の研究者を除外するインセンティブを与えられるべきではない」と記述している。2002年4月の科学技術委員会のRAE調査報告書に心から賛同する。当学会は、研究を行うという契約になっているすべてのアクティブスタッフがRAEに含まれるべきであると考えられる。これは、大きな学科に有利だと考えられる現行の戦略的行動を削減するだろう。

しかし、当学会は、スタッフを100%評価申請することは、評価部会の事務上の負担を増やすと認識している。その負担は、研究アシスタントをRAEに含めないことによって軽減される。研究アシスタントは、場合によっては評価申請書の多くの部分を占めている。いずれにしても、誰が評価申請され、誰がされないか、きわめて明確なガイドラインが定められるべきである。この問題は、ほとんどの戦略的行動を奨励する原因になっている。

その他の問題

教育の刷新 — 鎮圧

当学会は、HE財政カウンシルの意見聴取文書の中に教育と研究のリンクの重要性が明白に認識されていること（第130段落）を歓迎する。しかし、これが最新の報告書で強化されていない（実際、教育に関してはまったく言及されていない）ことを残念に思う。

当学会は、RAEに関して科学技術委員会に前回提出した文書に指摘したこと、すなわち、RAEは英国の研究の全体的な質を高めることに成功しているということを繰り返す。答えの出ていない疑問は、研究アウトプットに集中することが、高等教育の他の側面、たとえば教育や研究の活用に悪影響を及ぼしているかどうかということである。1998—2000年に英国の物理学科に関して実施された「教育の質の評価」によると、物理学の教育の質は全般的に高い。しかし、教育の刷新は求められるほどの注目を得ていないということが憂慮される。

憂慮されるのは以下の2点である。

- (1) 教育に焦点をおく人々が自分は二流と感じさせられている。
- (2) 学問領域別の学科に所属しながら教育の研究を行っている人々が評価のシステムから押し出されている。学問領域別の評価部会はそうした論文を受け入れないからである。そのような人々は通常、教育学の評価部会への申請には適所を見出すことができない。

大規模な施設へのアクセス

研究者は、ビーム利用時間を求める科学研究の

提案の調書に基づき、集中的な（そしてしばしば国際的な）専門家ピアレビューを通して、中央施設（CCLRC）の利用時間を与えられる。この時点で、ビーム利用時間の申請は、研究助成金の申請と非常によく似ている。

1日分のビーム利用時間は、施設により8,000ポンドから15,000ポンドになる。この世界クラスの施設の使用時間を十分に得ることができる研究者は、最大年間50万ポンドの「研究収入」——すなわち具体的な研究プログラムに配分される資源——を得ているのに相当すると考えることができる。

ビーム利用時間という研究上の明確かつ概して国際的な報償は、国際的な競争を通じた「国際的な優秀性」の明確な指標であるにもかかわらず、これまでHE財政カウンシルやRAEは、かなりその場限りの形でしかこれらを扱わず、研究収入として案分（あるいは調整さえ）しなかった。

当学会は、RAEの評価において直接研究収入に並んで考慮される研究収入相当物として、各研究者へのビーム利用時間の詳細な記録（すでに施設によって保管されている）が調整され、適切なUoAに報告されるべきだと提言する。

また、現在、英国の多くの素粒子物理学の研究グループによって、LHC検出器のコンポーネントを建設するための重要な作業が行われている。研究開発フェーズ（1990年代）には少なくともある程度の論文発表の機会があったが、現在の建設フェーズが成功するためには、細部の検討と質のコントロールに集中することが必要である。外部の審査者の多くにとっては、これは退屈だと思われるであろうが、実のところ絶対に不可欠なステップなのである。LHCが始動し、順調に稼動するようになれば（2008年と期待されている）、多くの論文が産出されるであろうが、これでは次回のRAEには遅すぎる。この出版物が少ない期間は、素粒子物理学にきわめて重要な長期的かつ国際的貢献をしている物理学の学科のRAE評価に、重大な不利益を与えかねない。この問題を是正する方法を見出すのは難しいが、査読者のいる学術誌に掲載されない報告書をRAEの評価対象に含むことは一助になるであろう。

二元支援システム

RAEは、二元支援システム、および研究の全経費費用の計算と供給を要求する昨年夏の新しい提案とともに、研究への大学の貢献と研究カウンシルの貢献の間に大きなずれを引き起こす可能性がある。大学の貢献は基本的に、RAEによって決定されるQR予算から生じるべきであり、それが研究の大きな部分（40%という数値が提案された）を担い、残り60%を研究カウンシルが担う必要がある。しかし、RAEはかなり総合的に大学の各学科を判断するものであり、研究カウンシルは、資金を供給したいと考える短—中期のプロジェクトやプログラムを支援する。学科によっては、RAEの全般的な判断で高い評価が得られなくても、具体的な研究カウンシルプロジェクトで研究を行うのに適していることもある。しかし、その場合、残り40%の予算がないために、研究カウンシルの資金を得る能力が損なわれることになる。理想的に言えば、「裁量」予算が確保され、賢明な決定によってそのような穴をふさぐことができるだけの十分な予算が大学にあることが望ましい。しかし、実際は理想的ではなく、ほとんどの大学は支払不能に陥らないよう必死の努力をしている現状であるため、予算の決定に智恵を働かせる余地はほとんどない。予算が不足したシステムは、予算配分の方法を変化させても改善されない。

2004年4月

別添4

英国地理学会—英国地理学者協会からの覚書

英国地理学会—英国地理学者協会（RGS-IBG）は、地理学と地理学者を代表する学術団体であり、専門家団体である。地理学の前進のために1830年に創立された当協会は、およそ14,000名の会員を擁する。

当協会は、2004年2月の『RAE2008：HE財政カウンシルによる初期決定』（RAE 01/2004）に概説されたRAEの変更を大まかに支持する。この新しいシステムは、高等教育機関レベルでの「研究遂行力量」の評価など、ギャレス・ロバーツ卿のレビューに含まれる陥穽の一部を回避している。当協会は、新しいシステムは、不当な事務上の負担を作り出すことなく、堅固で信頼できる研究評価のシステムになると考える。

しかし、評価部会の構成や選任のしかた、質のプロフィールに従って予算を配分する公式など、RAE2008の多くの重要な側面が最終決定されていない。当協会は、研究予算がいつそう集中する可能性について真剣に憂慮しているため、後者が特に重要だと考えている。

特に、前回のRAEで評点4の学科の予算が減少したことに不安を覚える。当協会は、RAE2008がさらに予算の集中や選択性を推進してはならないと強く勧告する。現在のシステムと評点4の学科に関して、DfESおよびHEFCEは、最近、ある程度削減を緩和するという望ましい約束をした。たとえば、今年3月、HEFCEは、評点4の学科の平均的な資源の上限は額面ではなく実質で定めると発表した(HEFCE EP 03/2004)。これは前向きな変化である。次回のRAEまで評点4の学科の1億1,800万ポンドの予算を維持するという前回の約束は、インフレと連動されなかったために実質的な削減だったからである。しかし、こうした学科の予算の最近の変化は、予算の減少を増加に転じさせるには十分ではない。

評点4の地理学の学科は、RAEの標準スケールが示すように、「評価申請された研究活動のほとんどすべてが国内で優秀なレベルにあり」、「国際的に優秀な多数の例がある」(RAE 2/99『RAE申請ガイダンス』1999年)にもかかわらず、持続的な資金供給に苦しんでいる。たとえば、ミドルセックス大学の評点4の学科にある洪水被害研究センターは、水管理の分野における政策の策定と実行を向上させる国際的に認められた研究を行っており、しかも1998年と2003年にクイーンズ・アニバーサリー賞を受賞している。英国における評点4の地理学科の多く(RAE2001では35%が評点4であった)は重要な基盤であり、評点3 aや3 bの学科とともに、英国の地理学研究の重要な教育の場である。

当協会は、RAE2008に提案されている星の数の評点が、これ以上研究予算を一部の高等教育機関や学科に集中させる予算配分公式を持つべきではないと強く提言する。実のところ、何らかの形で予算集中のレベルを現在より下げる予算配分公式が学会の多くの人々に歓迎されるであろう。

2003年、RGS-IBGは、他の15の学術団体や学会とともに、予算の過剰な選択性に向かう動きを止めようと努力した。2003年6月に配布された学会共同声明の写しをここに添付する。科学技術委員会には、予算配分の集中を批判した高等教育セクターの多くの組織や個人を支持し、2008年の新しいシステムで同じ過ちが繰り返されないよう尽力していただきたい。

2004年4月

別添7

ウェルカム財団からの覚書

1. ウェルカム財団は、この調査で検討されるべき問題点が2点あると考える。それは以下のとおりである。

- 用いられる研究評価の方法
- 評価に伴う予算配分モデルが、世界一流の教育も行う大学の中で世界一流の研究を促進する適切な推進力になるようにすること

2. 当財団は、研究評価の将来に関してHE財政カウンシルが最近行った意見聴取への意見書の中で、過去のRAEと研究予算配分の公式が以下のような望ましくない状況をもたらしていることを指摘した。

- 研究インフラへの投資を犠牲にして研究の量を増加させている。
- 短期的な研究戦略を促進している。
- 短期的な研究結果を出さなければならないという圧力を生み出している。
- 支援スタッフを犠牲にして講師を任命することを奨励している。
- チームワークの価値を低下させている。
- 教育の価値を低下させている。

3. さらに、当財団は、それぞれの評価部会によって用いられる基準が不統一であることから、過去のRAEにおける研究分野間の評価の比較可能性に疑問を呈した。研究プロセスは学問領域によって異なるため、それぞれの研究分野に特有で評価領域のニーズと機会に合った測定基準を作り上げる必要があると当財団は考えている。

4. また、当財団は、過去のRAEが大きな研究ユニット内の小さいが秀れている拠点を保護しあるいはそれに報酬を与えることができず、しばし

ばそのようなグループの消滅を導いてきたことを強調した。

5. 当財団は、RAE2001のあと、高等教育機関の研究の質がまったく、またはわずかしき変化しなかったにもかかわらず、予算のレベルが大幅に変化した問題を指摘した。当財団は、RAE2001後に評点4の学科の予算が減少したことは、臨床医学を含め、多くの生物医学分野に悪影響を及ぼすと考える。

6. したがって、当財団は、こうした問題点の一部に対処する RAE2008の提案のいくつかを支持する。具体的には、当財団が支持するのは以下の点である。

- 集団申請の促進
- 連続的な質のプロフィールのシステム。これは評点がつけられなかったスタッフのために学科全体のレベルが低下するのを防ぎ、小規模だが秀れた拠点を保護し、それに報酬を与えるのに役立つ。
- それぞれの学問領域に特有の計量的指標を見出すこと、およびサブ評価部会間でプロセスが一貫して適用されるようにするため、広域的な分野別評価部会を設けること
- 研究アウトプットの数ではなく質の向上を推進するため、1人あたり4点(またはそれ以下)という提出アウトプット数を維持すること

7. しかし、当財団は、RAE2008の結果が研究予算の配分にどのように利用されるのかについて重大な懸念を抱いている。研究予算はすでに非常に選択的に配分されており、これ以上選択性を高めるべきではないと当財団は考える。RAE2008の結果がさらに研究予算を集中させるために用いられるならば、競争が減少し、システムの中に質の停滞が生まれる現実的な危険がある。

8. したがって、当財団は、研究評価と予算配分プロセスの抜本的なレビューが現時点で必要かという問いを提起する。優先事項は、世界一流の研究と教育を行う学科がどのように構造化されるべきかを見出すことである。その上で、そのような学科を促進するために、研究評価と予算配分方法がモデル化されるべきである。

9. 予算配分方法が研究のチームとインフラを支援し、最終的に、目的に合った学科に予算を提供

することがきわめて重要である。RAE2008およびそれに続く予算配分の提案がどのように実行されるのか、詳細はまだ決定されていない。当財団は、HE 財政カウンシルによる今後の発表に関心を持って待っている。

2004年4月

別添9

英国研究カウンシル (RCUK) からの覚書

序論

1. 英国研究カウンシル (RCUK) は7つの研究カウンシルによって支援される研究、工学、技術の擁護者として設立された戦略的な共同組織である。研究カウンシルは、RCUKを通して芸術・人文科学研究委員会 (AHRB) と協力し、研究、訓練、知識移転の共通の枠組みを作成している。RCUKは2002年5月1日に創設された。詳細については www.rcuk.ac.uk を参照していただきたい。

2. この共同組織を率いるのはRCUK戦略グループである。RCUK戦略グループは、各研究カウンシルのチーフエグゼクティブと総裁で構成されている。AHRBのチーフエグゼクティブはオブザーバーとして会議に出席する。

3. この覚書は、すべての研究カウンシルとAHRBを代表してRCUKによって提出されたものであり、我々の独立した見解を示している。これはOSTの意見を含んでおらず、必ずしもそれを反映していない。

調査に対するRCUKの意見

原則

4. 研究カウンシルは、研究行動を推進する上でRAEが果たしている重要な役割を強調したい。研究カウンシルが期待するのは、研究評価プロセスによって、知識創出のニーズと英国の経済・社会のニーズを満たす大学の強力な研究環境の発展が推進されるべきだということである。

5. 以下に研究カウンシルが表明する見解は、特に、RAE2008に関する初期決定⁶について、2004年2月にHE財政カウンシル⁵が発表した文書にかかわるものである。

研究評価の枠組み

6. 昨年の意見聴取における提言に基づき、研究

カウンシルは、次回 RAE のアプローチでは過去の RAE に重大な改革が施されると期待した。しかし、HE 財政カウンシルは、3つの重要な問題点に関して、抜本的な改革の導入に尻込みしているように思われる。

6.1 高等教育機関が評価のルートを選ぶという 3 ルート制の評価プロセスの導入案を放棄することは、プロセスを合理化し、RAE に費やされる努力を予算の配分に釣り合ったものにするチャンスを逃すことである。しかし、研究がそれほど多く行われていない高等教育機関にある秀れた研究グループに対応する問題、および軽いタッチの評価を実行するための適切な計量的指標を見出す問題が回避される。

6.2 意見聴取の際、研究カウンシルは、特に評価プロセスの一部として高等教育機関レベルの戦略の慎重な策定と考察を通して、研究評価プロセスを広げることを強く支持した。そのような拡大は、過去の実績に基づく HE 財政カウンシルの研究予算配分アプローチと将来の計画に基づく研究カウンシルのアプローチの架け橋を作り出すチャンスを持つだろう。研究カウンシルは、最初の意見書において、RAE の推進力は質の高い研究を支援・促進する健全な研究環境を作り出すことであるべきであり、それは将来のすぐれた研究の基礎を築くのに役立つだろうと主張した。この目的のために、研究カウンシルは、以下のような要素が高等教育機関の明確な戦略に含まれるべきであると提案した。

- チームを基礎とした共同研究アプローチ
- 学際的研究
- 研究のユーザーとの積極的な関係
- 質の高い研究の訓練の提供
- 研究のガバナンス
- 知識移転

高等教育機関の力量の評価を通してこのような評価の拡大が行われることが提案されていたにもかかわらず、これが取り入れられなかったことに研究カウンシルは失望している。研究カウンシルは、これを認識した上でなお、新しいシステムでは学科の戦略とその実行が研究環境の評価における重大かつ信頼できる

基準となることを望む。

6.3 研究カウンシルは、研究と社会の問題の重要性を認識して、研究の成果の促進と伝達における研究者の貢献も評価の要素として認識されるべきだと考えている。これも RAE2008 文書に言及されていない点である。

7. 研究カウンシルは、評価部会とサブ評価部会のシステムを作るという原則を支持する。研究カウンシルは、サブ評価部会の特性と範囲の詳細を決定するにあたり、HE 財政カウンシルと協力するつもりである（領域横断的研究に関する第15段落も参照）。

8. 研究カウンシルは、評価部会にユーザーを含むことを歓迎する。多様な研究界のそれぞれのニーズを反映するため、選ばれたユーザーメンバーが各評価部会の研究ユーザーを全面的にカバーするようにすることが重要である。また、研究カウンシルは、評価部会に国際的なメンバーが含まれることにも満足しており、そうしたメンバーの役割が強化されることを希望する。研究カウンシルは、国際的な優秀性の体系的なベンチマーキングのために国際的なメンバーが不可欠であると考えている。

9. 研究カウンシルは、質のプロフィールを導入するという決定を支持し、最初に提案された三つ星システムから四つ星システムに変更するという決定を歓迎する。これによって、差異化がよりよく実現されるであろう。これらの星の数による質のレベルの定義は2004年の後半に発表されることになっている。この基準は非常に注意深く定められることが必要である。

10. 去年の意見聴取への意見として、研究カウンシルは、修正された RAE の実施時期は2008-09 年が望ましいと述べた。これは、特に二元支援システムの改革を実行することから生じる活動集中の時期に改革を行うには時間が必要であり、また新しい方法に従うのには困難が伴うと考えるからである。研究カウンシルは、これらの問題が対処されていないように思われることに失望している。

11. 研究カウンシルは、RAE はその後6年ごとに行われるということに賛成する。

評価申請

12. 研究カウンシルは、研究の質のプロフィール

が予算の配分にどのように移し変えられるのか、もっと明確にすることが求められると考える。研究カウンスルは、RAE2008文書に、高等教育機関の間および研究分野の間で予算がどのように配分されるのかという決定的な問題が触れられていないことを憂慮する。次回のRAEは「戦略的行動」の可能性を削減し、誤ったインセンティブを作り出さないようにしなければならない。たとえば、それぞれの星のレベルにどれだけのウェイト付けがなされるのか、RAEに参加しない適格スタッフの数／比率が予算配分に何らかの影響を持つのかどうかなどを確定することが重要である。また、研究カウンスルは、どの研究者が学科の評価申請に含まれるのかに関して厳しいコントロールが必要だと考えている。

13. 研究カウンスルは機会均等のアプローチを認識し、これを歓迎するが、RAEに評価申請されないスタッフのデモグラフィック情報が収集されないのならば、どのようにしてこれを効果的にモニタリングできるのか疑問である。

14. 研究カウンスルは、高等教育機関間の共同研究の問題が認識されていることを歓迎し、複数の高等教育機関がそれぞれの分担を明らかにした上で共同申請できるようにする決定を支持する。

15. 加えて、研究カウンスルは、(領域横断的な研究を促進するために、より柔軟で結果志向の予算配分と組織モデルを実行することが大学にとって必要だという認識を念頭においた上で) 領域横断的な研究をどのように扱うかという困難な問題が直接に対処されていないと考える。これは評価部会とサブ評価部会の構成を通して、またはサブ評価部会間の横の連携／共同作業を通して解決できるであろう。

評価のプロセスと結果

16. 研究カウンスル、および重要なことに研究界全般は、HE 財政カウンスルに、評価部会とサブ部会の構造の発展、評価部会メンバーのひな型、メンバー任命の手順、領域別評価基準の作成、応用研究の評価基準の作成について、HE 財政カウンスルに助言するチャンスを期待している。また、研究カウンスルは、評価部会／サブ評価部会の任命プロセス、および評価基準作成のプロセスが透明であることを要求する。

17. サブ評価部会が一貫した形で評価基準の解釈および実行することが重要である。研究カウンスルは、サブ評価部会間の評価実行の一貫性を確保するために各評価部会に調整役を置くという提案を強く支持した。研究カウンスルは、提案されたこの調整の仕組みがRAE2008文書に取り入れられていないことを残念に思う。それぞれの評価部会やサブ評価部会による実行の一貫性を確保するため、および共通の水準を維持するためには、効果的な調整が非常に重要である(同時に、期待される総合的な星の評点の分布について評価部会にガイダンスを与えるという考えを却下したことは歓迎する。これは差異化の程度を低下させるであろう)。研究カウンスルは、RAE2008文書では評価部会の議長が調整の役割を果たすよう求めていることを認識しているが、これは議長としての役割を傷つける可能性があるため、少々問題であると考えている。

18. 研究カウンスルは、応用研究と実践ベースの研究の優秀性を認識しようとする意図を歓迎する。すべての評価部会とサブ評価部会にこの原則を一貫して適用するためにあらゆる努力をし、それぞれの研究分野の多様な特性と要求が尊重されるとともに、優秀性の基準が常に適用されるようにすべきである。

19. 研究カウンスルは、計量的指標による研究遂行力量評価から、それぞれの学問領域に適した量的指標の使用への移動を歓迎する。また、研究カウンスルは、新たなデータの収集が最小限ですむよう、利用されるすべての計量的指標を、他のルートを通して利用可能なもの、またはすでに収集されているものとするのを歓迎する。

20. 研究カウンスルが見る限り、修正されたRAEではこれまでより負担が小さくなるということを示す証拠はない。

結論

21. 研究カウンスルは、次回RAEのために修正された枠組みを定める努力を歓迎し、昨年HE 財政カウンスルが実行した意見聴取を通して意見を提示する機会が与えられたことに満足している。しかし、RAE2008文書に含まれる変更は、提言されたほど抜本的なものではない(特に上記の第6、第10、第17段落参照)。したがって、研究カウ

シルは、以前の RAE で指摘された問題点のすべてが対処されてはいないと考える。ゆえに、RAE2008の成功の鍵は、その正確な実行方法にあるといえよう。解決されるべき点はまだ数多く残されており、研究カウンスルは、RAE2008のプロセスの策定を続ける中で HE 財政カウンスルに協力できることを期待している。

2004年 4月

別添11

イングランド高等教育予算配分審議会 (HEFCE) からの覚書

RAE とは何か

1. RAE は、英国の HE 財政カウンスルが大学の各学科で行われている研究の質を確認するためのプロセスである。次回の RAE は2008年に行われる。これは、これまでの RAE を基礎にして企画されるが、高等教育セクター、科学技術委員会、その他によって表明された問題点に対応するよう重大な改革を取り入れている。

2. 評価は、それぞれの研究分野またはそのグループに専門知識を持つ専門家の評価委員会によって行われる。2008年には、およそ67の評価部会が設置され、その評価が14の「主評価部会」——特定の研究分野のグループに責任を有する評価部会——の承認を受けなければならないという初めての仕組みが提案されている⁹。

3. 高等教育機関は、いくつの UoA にでも評価申請することができる。評価申請は標準の書式で行われる。高等教育機関は、それぞれの UoA に含むことを希望するスタッフ (リサーチアクティブ・スタッフ) の氏名、およびそのそれぞれにつき4点までの研究アウトプットを提出することが求められる。評価部会は、その評価を行うにあたり、評価申請書に記された研究アウトプット、および RAE によって要求されたその他のデータのみを検討する。その他のデータとして2001年に評価対象とされたのは、研究収入、研究学生の数、高等教育機関の研究戦略の説明であった。

4. 高等教育機関が評価申請できる UoA の数には上限も下限もない。また、リサーチアクティブとして評価申請できるスタッフの数にも制限がない。RAE はそれぞれの高等教育機関の研究の質を評価するのであって、高等教育機関または学科全体の研究の浸透度を評価するのではない¹⁰。

5. 以前の RAE では、評価結果は要約的な評点で表現された。最近2回の RAE (1996年と2001年) では、7段階のスケールが用いられた (1が最も低く、2, 3b, 3a, 4, 5, 5*の順で高い)。2008年には、これを廃止して「質のプロフィール」を導入することが提案されている。それぞれの評価申請書には、評点ではなく、質の4つの区分に入る研究がどれだけの比率であるかを示す「質のプロフィール」が与えられる。これは以下の例 (架空) が示すように、これまでよりもずっと多くの背景情報を提供することができる。

6. 本文書の以下の部分では、RAE およびそれが支持する選択的な予算配分の方針に関する具体的な問題について論じる。

RAE と予算配分の関係

7. RAE は、英国の大学学科の研究の質について、4つの HE 財政カウンスルに情報を提供する。それぞれの HE 財政カウンスルは、予算の配分を決定するためにこの情報を利用する。

8. したがって、RAE は基本的に、各種の当事者 (HE 財政カウンスルを含む) が予算配分やその他の決定の根拠とするために用いる、質の情報を生み出す仕組みである。これは、業績と予算の間に自動的な関係がある予算獲得競争ではない。

9. 4つの HE 財政カウンスルが行う主な予算配分の決定は、質の高い研究に支払われる割増金 (それゆえに予算配分が強力な学科に偏る) に関連している。もう1つの決定は、学問領域間の業績の変動 (国際的なベンチマークに比較して測定されたもの) の扱いにかかわる¹¹。HE 財政カウンスルは、業績の高い学問領域の成果を認めることに多くの予算を当てるのか、それとも苦勞してい

評価対象ユニット A	評価申請書に含まれたスタッフ数 (FTE)	以下の基準を満たすと判断された研究活動が評価申請書に含まれるパーセンテージ				
		4 *	3 *	2 *	1 *	等級なし
X 大学	n	15	25	40	15	5

る領域を支援する是正措置に多くの予算を当てるのか、あるいはその中間に行くのかを選択しなければならない。

10. しばしば、RAE 自身が予算配分の政策を決定し、ゆえに RAE の変更は英国の 4 つの HE 財政カウンシルの予算配分方針が変わったことを示すという主張がなされる。しかし、これは誤りである。RAE は、前段落に述べられた重要な点に関してそれぞれの HE 財政カウンシルの決定を制約しないことを明確に意図して設計されている。ゆえに、RAE の設計から予算配分の方針を推測しようとするのは、評価プロセスおよびそれと予算との関係に関する誤解に基づくものであるといえる。

RAE の成功

11. RAE が導入されてからの 18 年間、英国の科学は、研究の競争力の面でも、科学研究を支援するという政府の積極的な意思の面でも、成功を享受してきた。こうした動きにおける RAE の役割を明らかにするのはきわめて困難であるが、少なくとも、RAE は、こうした指標を見る限りうまく機能していると思われるシステムの基本的な柱の 1 つであるといえることができる。

12. 1 つの点で RAE の成功には議論の余地がない。すなわち、英国内でも外国でも、RAE は英国の高等教育機関における研究の質の確定的な指標と見られているのである。

RAE の支持

13. 2000 年に HEFCE の研究政策に関する基本レビューに対して寄せられた意見のうち、ピアレビューに基づく研究評価プロセスの維持に賛成するものが 98% にのぼった¹²。

14. 2003 年には、研究評価に関するギャレス・ロバーツ卿のレビューの意見聴取に対して意見を提出した人の 95% が、「最良の研究を明らかにする研究評価システムは、いかなるものであれ、専門家の判断に基づかなければならず、それらの専門家は、望むならば、判断に情報を提供するために業績指標を用いてもよい」ということに同意した。

15. こうした数値は、RAE の廃止、または専門家のレビュー以外の方法によるシステムへの置き換えに重大な支持がないことを示している。

全国的なプロセスとしての RAE

16. RAE は、英国全土における高等教育は英国政府の責任であるという認識の上で、地方自治の拡大を取り入れることに成功している。現在、RAE は英国の 4 つの HE 財政カウンシルの共同責任で実施されており、高等教育機関の研究予算を配分するために 4 組織それぞれによって利用されている。RAE は、英国の 4 つの地域で用いられている各々の配分メカニズムに情報を提供できるだけの柔軟性を備えている。

17. RAE により、英国の 4 地域は、その研究の質を全国のおよび国際的な規範に照らしてベンチマーキングすることができる。評点方式から質のプロフィール方式への移行は、RAE プロセスによって提供される情報の質をいっそう改善するであろう。質のプロフィールは、最高の質の研究活動がどれだけあり、それがどこで行われているかを正確に示すことができるからである。

18. HEFCE は、高等教育機関の研究予算は 4 地域の高等教育予算の流れと英国全体の科学予算の流れの双方から提供されているため、政府支援の要素の一方が自治化され、他方がされていないことを認識している。RAE は、予算配分の決定に関する HE 予算配分 4 組織間の共通の基盤と、共通の質保証の枠組みを提供することにより、システムに一貫性の要素を与えている。

RAE の効果

19. HEFCE は、高等教育セクターが直面している圧力に責任があるのは RAE、あるいは選択的予算配分の方針であるという主張を批判的に見るよう科学技術委員会に要請する。利用可能な予算以上の研究を行いたいと高等教育機関や学者が望む限り、システムには圧力が存在する。機関内および機関間で必要とされる「分配」が RAE を中心に行われるという事実は、RAE を廃止すればこれらの圧力が軽減されるということの意味しない。

20. 同様に、選択的な予算配分の廃止がこうした圧力を軽減すると仮定するのも認識が甘い。実際、それを廃止するならば、わが国の主要な研究大学における研究を著しくダウンサイジングせざるをえないだろう。RAE や選択的予算配分にどのような変更がなされようと、研究に対する政府の強力な支援があるにもかかわらず、研究予算をめぐ

る厳しい競争は存在し続け、システムは勝ち組だけではなく負け組を生み出し続けるであろう。

評点の一貫性

21. RAEの結果が一貫したものであると見られることが重要である。すなわち、ある研究分野での結果が他の分野での結果と同等であると意味のある形でいえる必要がある。この一貫性が重要なのは、予算配分のためだけではなく（実際、HEFCEは質に基づいて学問領域間の予算配分を行っているわけではない）、RAEが公的な情報を提供するからである。

22. 大きな改革が行われるRAE2008は、二層式の評価部会構造を特徴とする。分野別の評価部会の決定は、いくつかの同系列の分野を担当する「主評価部会」の承認を得る必要がある。HEFCEはすでに、ギャレス・ロバーツ卿の『研究評価のレビュー』¹³で提案されたこの方法がRAEの結果の信頼性をさらに高めると確信する理由を有している。

優秀な研究グループ

23. 過去のRAEに関してよく見られる批判の1つは、スタッフの大部分を評価申請することを選んだ比較的弱い学科内の少数のすぐれた研究者グループが認識されないということである。過去には、そのために、このようなグループが業績に値する評判と金銭的な利益を得る手段として、定評ある研究拠点に吸収されざるを得ないことがあった。一定量を超えることによって活性化が実現されるという純粋な利益を反映して少数の学科にすぐれたグループが集中するのならば、HEFCEは原則としてそのような集中に反対しない。しかし、評価プロセスによって多様性が人為的に制約されることは望まない。

24. この問題に対処するために、HE財政カウンスルは、RAEの結果の表し方を根本的に変更し、学科の研究の質を示す要約的な評点（1から5*）の使用をやめることを計画している。評点に代わって用いられるのは、4つの質の区分に含まれる研究活動の比率を示す「質のプロフィール」である（上記の例を参照）。これは、それほど強力ではない学科におけるすぐれた研究が認識できるようになることを意味する。また、平均すると以前

には支援の対象とならなかった学科の中にも優秀な研究が存在することがあり、HE財政カウンスルはこれに予算を配分することができるようになる。

学際的研究

25. RAEはしばしば、学際的研究を抑制していると思われている。1999年の報告書には、評価部会が学際的な研究を差別的に扱っているという証拠はないが、広くそのように受け止められていると記されており、この受け止められ方自体が学際的な研究を支援する高等教育機関の意欲に影響しかねないと論じられている¹⁴。

26. しかし、この問題の解決は難しい。多くの人々がRAEを支持していることを考えると、UoAの構成の変更を望む声がHE財政カウンスルに多数寄せられているにもかかわらず、学際研究に関する懸念に対処するためにRAEの抜本的な変更を提案する声は非常に少ないというのは驚くべきことではない。

27. ゆえに、HE財政カウンスルが取りうるオプションは次の2つである。

(a) RAEの前に毎回、出版データや研究の提案の分析を通して研究分野の最も合理的かつ最新のグループ分けを確立し、それに従ってRAEを構造化しようと試みること

(b) RAEの構造の著しい変更自体が高等教育セクターの再構築を引き起こすことになり、それはスタッフと学生に重大な影響を及ぼす可能性があるという根拠に立ち、安定性を強調すること

28. 上記のオプションにはそれぞれ欠点があることを認識しているが、HE財政カウンスルは第2のオプションを選ぶ。これはRAE2008に提案されているUoAに反映されている¹⁵。

29. しかし、HE財政カウンスルは、すべての研究が適切な能力を持つ個人によって評価されるようにすることの重要性を認識している。そのため、RAE評価部会の構造にぴったり当てはまらない、定着した学際分野において、仮定の「評価者団」を採用するというギャレス・ロバーツ卿の提案を積極的に検討している。これによって、確実に、こうした新しい分野における研究の発展を理解している評価者によって研究が検討されることになる。

応用研究と実践ベースの研究

30. 研究評価のレビューは、評価基準を作成するにあたって評価部会はそのような業績の優秀性の特徴を認識する適切な基準を含むよう求められるべきであると勧告した。これは、ある面で、すぐれた応用研究が平等に重視されていないというCBIその他によるこれまでのRAEへの批判を反映している。これは、その後に行われた産学協同に関するランバートレビューの勧告とも一致している。ランバートレビューは、業界や他のユーザーとともに行われた優秀な研究は、優秀な学術的研究と同等の価値があるものと認識されるべきであり、評価プロセスは明確にこれが達成されるよう設計されるべきであると勧告した。

31. RAE2008は、ロバーツ卿が勧告したように、すべてのタイプの研究の優秀性が認識できるよう基準を十分に柔軟にすることを評価部会に求める。しかし、鍵となるのは、こうしたタイプの研究の質の高低を区別できる個人を評価部会に含むことである。HEFCEは現在、5つのサンプル領域で、評価基準を作成するにあたって評価部会が対応すべき問題点を洗い出す作業を行っている。これは今後、「革新への投資」の実行に関する省庁グループによって検討される予定である。

費用

32. RAEは、予算配分を推進するため、およびHE財政カウンスルと他の財源からの研究予算についてアカウントビリティを持つためにHE財政カウンスルが利用する情報を提供する。しかし、RAEの機能はこれにとどまらない。RAEには以下の機能もある。

- 高等教育機関内の最も質の高い研究を重視するよう奨励すること
- 高等教育機関内の戦略的な研究のマネジメントを促進すること
- 質の保証、ならびにRAEがなくてもマネジメントの目的で高等教育機関が必要とするデータを提供すること

33. RAEの機会費用の計算は、RAEの評価申請書を作成するために高等教育機関が用いる資源の多く（あるいはほとんど）はこうした有益な刺激を反映しているという事実のために複雑になっている。たとえば、高等教育機関は、RAEの一部と

して、戦略的なマネジメントの決定をし、スタッフと研究の希望について話し合うことが必要である。このプロセスはRAE評価申請書を作成する費用を増やすが、それはRAEにとどまらない利益を生み出す。また、RAEがなくても、高等教育機関は学科と研究者の研究の希望について優先順位をつける手段が必要になる（それらの希望のすべてを支援することはできないと仮定した場合でも）。

34. 以前のRAEにおいて、その準備のために行うことが適切だと高等教育機関が判断した活動の規模と費用は非常に大きい。1996年RAEの費用は3,000万ポンドから3,700万ポンドと推定されており、RAE2008の費用はこれを上回ると思われる。しかし、

(a) この支出のすべてが不可避のものだったと認めたとにしても、それは、その評点を使って2002-03年から2008-09年にHE財政カウンスルによって配分される資源の1%をわずかに上回る程度である。これはプロジェクトごとに資金の獲得競争をする研究助成金配分システム（たとえば研究カウンスルが用いているシステム）の費用の比率よりずっと低い¹⁶。

(b) 研究の質の評価は、高等教育機関の研究に向けられる多額の公的資金が適正に使われていることを保証するために不可欠のツールである。必要な水準で行われる専門家レビューは労働集約的であり、費用を決定する主要要素は、プロセスの設計ではなく、評価申請の数と評価されるスタッフの数である。

(c) HEFCEの最新の費用調査で明らかになった活動の多くは、適切な管理運営がなされている高等教育機関が研究活動の計画とレビューのためにいずれにしても行うものだったと思われる。さらに、高等教育機関によって準備作業の必要性の受け止め方が大きく異なることは明らかである。研究の量の少ない高等教育機関のほうが慎重に準備を行う傾向があり、小規模な評価申請を多数行うことによって大きな固定費用が発生する。ゆえに、高等教育機関に生じる費用のうちRAEのために付加される不可避の額は、上記の数値よりかなり低いと主張することができよう。

35. また、HEFCEは、内閣規制改善タスクフォースによって規定された評価テスト、およびアカウ

ンタビリティ向上に関する高等教育フォーラム（現在は規制改善レビューグループ）によって作成されたよりよいアカウントビリティの原則に照らして、レビュー提案の規制上の影響評価を行っている。この評価については、RAEのウェブサイト上で公表されている (www.rae.ac.uk)。

機会均等

36. HE 財政カウンスルは、RAE 評価申請書の作成における高等教育機関の女性の扱いについて懸念が示されていることを認識している（不正な待遇が証明された具体的な事例は把握していない）。HE 財政カウンスルは、関連する2つの責任を担っていることを認める。

(a) 女性（またはマイノリティグループ）を評価申請するとその高等教育機関に不利になるような評価を RAE 評価部会が行わないようにすること

(b) どのスタッフを RAE に評価申請するかを決定する際のスタッフの不適切な待遇に対して高等教育機関が責任を持つようにすること

37. この目的のために、RAE2008について次の3点が規定されている¹⁷。

(a) 評価部会のメンバー、書記、RAE 管理チームが機会均等の問題について研修とガイダンスを受けること。

(b) 評価申請の作成にあたって、結果に悪影響が及ばないと十分に確信しながら必ず機会均等の問題を全面的に考慮するよう高等教育機関と学科に促すことが、主評価部会とサブ評価部会に求められること。これには、各研究者の個人的な状況が評価申請書に示されたとおりに生産性と個人的発展に影響を及ぼした事例を高等教育機関が識別する規定が含まれるであろう。

(c) 評価申請書の作成とそれに含むスタッフの選定に関して内部の適切な倫理綱領を作成・適用することが高等教育機関に求められること。高等教育機関は、この綱領がスタッフに伝達されていることを確認することが求められる。これによって、高等教育機関は RAE 評価申請書の作成において機会均等の原則を尊重することが期待されるということについて、一切の疑いが排除されることになる。

38. HE 財政カウンスルは、『研究評価のレ

ビュー』の提案に関して平等チャレンジユニット¹⁸から受けた助言を公表している。この助言は、今後18ヶ月間に規則が最終決定される中で、引き続き、RAE2008の作成に情報を提供する。

2004年4月

本証言の脚注

9. RAE2008 02/2004『評価部会の構成と選任』

10. RAE に評価申請される研究の量は、研究の質の評価と共に、予算の配分を決定するためにすべての HE 財政カウンスルによって用いられる。したがって、ここに自然の二律背反がある。最も強力な研究者のみを評価申請する高等教育機関や学科は、質の平均は高くなるであろうが、研究の量に対する予算は評価にもっと多くのスタッフを含んだ場合より少ないことになる。

11. HE 財政カウンスルは、学問領域や学科ではなく高等教育機関を支援している。その予算は、高等教育機関が独自の方法で利用できる一括助成金の形で提供される。しかし、高等教育機関はある学科で「獲得した」予算を他の学科に再配分したがる傾向が多いということを否定するのは、単純すぎるであろう。実際、収入を引き付けた実績を持つユニットに投資するのが理に適っている。したがって、ある分野で学科が獲得した予算の額が減少したならば、その分野の研究を支援しようとする高等教育機関の意思が弱まると仮定するのはもっともである。

12. HEFCE 01/17『研究のレビュー：意見聴取に関する報告』

13. HEFCE 2003/22『研究評価のレビューに関する合同意見聴取』

14. RAE 1/99『学際的研究と RAE』

15. RAE 02/2004『評価部会の構成と選任』

16. 高等教育政策研究所は、HEFCE の QR 予算規則遵守費用 (RAE 費用を含む) は1.1%、研究カウンスルの規則遵守費用は「少なくとも」4.76%と推定している。

17. このリストは、RAE 01/2004『HE 財政カウンスルによる初期決定』から導かれたものである。

18. www.rae.ac.uk で見ることができる。

別添12

大学教員連盟からの覚書

1. 序論

1. 以下の意見書は、『研究評価のレビューに関する合同意見聴取』、および特に『HE 財政カウンスルによる初期決定』に対する当連盟の意見に焦点をおくものである。

2. 背景

科学技術委員会に対して以前に提出した意見書において、当連盟 (AUT) は、現在の構造の RAE に強い異議を表明した。当連盟は、「研究の選択性が強まり、予算が削減されたことは、AUT の会員にとって、著しく不和を生じさせ、不公平で、意欲を低下させるものであった」と指摘した。当連盟は、RAE2008の最終的な提言の発表を待つが、新しいシステムがこれまでと質的に異なる結果を導くとは考えにくい。

このような悲観的見解を抱く理由の1つは、評価の提案は研究予算全体の背景の中で検討されるべきだということである。科学技術委員会への意見書において、当連盟は、研究予算の配分はすでに集中しすぎており、これ以上選択性が強まると、国の大学システムの知的文化を損なう危険があると指摘した。残念ながら、研究予算に関する HEFCE の報告書と二元支援システムの変更に關する科学技術庁の提案だけではなく、新しい RAE も、問題を悪化させ、研究がごく少数の高等教育機関に不当に集中するのに伴って革新と創造性を失わせることになると思われる。こうした政策では「世界クラスの研究」を支えることができないだろう。評点4以下の学科に存在する学術的な創造性の源をつぶしてしまうからである。この状況は多くの価値ある研究を危険に曝すのに加え、地域ごとの大学間の共同研究を促進し、その地域内の大学と産業界の絆を強めるという政府の政策を傷つける。国のニーズを満たすのに必要な研究活動の多様性と量を確保するためにも、また質の高い意欲あるスタッフを獲得・維持する高等教育機関の能力 (機関内の小グループの能力だけではなく機関全体としての能力) を確保するためにも、英国の高等教育の幅広い研究基盤を維持する重要性について、非常に説得力のある議論がなされて

いる。当連盟は、現在の提案では幅広い高等教育機関の研究基盤が保証されないだろうと懸念する。

3. HE 財政カウンスルによる初期決定

2月9日に発表された報告書はかなり大まかなものである。評価部会の基準や予算配分のレベルといった重要な決定がまだなされていないため、この段階で確定的な判断をするのは難しい。同時に、当連盟はロバーツ提案への変更の一部を歓迎する。特に、3ルートの評価制度 (RQA / RCA) を採用せず、中間モニタリングといった官僚主義を増加させる提案を却下したことを支持する。しかし、詳細に関して、特に質のプロフィールに伴う予算配分のレベルを明らかにしないという決定に関して、重大な懸念を抱いている。さらに、この提案は、高度に選択的な研究予算配分モデル、および高等教育白書に概説された階層化された高等教育制度に合わせたもののように思われる。

4. タイムテーブル

当連盟は、科学技術委員会に提出した証言書の中で、現在の形の RAE を廃止しないならば、次回の実施を延期すべきだと提言した。また、ロバーツ報告書への意見の中で、6年よりも長いサイクルを求めた。

次回の RAE を政府の包括歳出見直しのサイクルと一致させることにも一理あるが、2007-08年の実施というのは余裕のないスケジュールである。『初期決定』は、ごく予備的な報告書であり、評価基準、業績指標、評価部会の構成といった主要な提案は、これから細部を決定し、高等教育セクターとの適正な意見聴取を行うことが必要である。すでに次回のサイクルの3年目に入っていることを考えると、提案されたタイムテーブルでは、HEFCE と他の HE 財政カウンスルは、新しいシステムを作り上げて2007-08年までに実施できるようにするために相当量の作業を行わなければならない。上述したように、当連盟は、もっと長いサイクルが採用されるべきだと考える。

5. ピアレビュー

何らかの形で RAE が継続するならば、これからもピアレビューが評価プロセスの中心でなければならない。この意味で、当連盟は、すべての高等

教育機関、学科、研究分野のセンターに研究アウトプットのピアレビューに参加する機会が与えられるという HE 財政カウンシルの決定を支持する。これに関するロバーツ提案の却下が大いに歓迎される。

6. 質のプロフィール

全体として、提案された「質のプロフィール」は、未加工の数字で表された得点よりも洗練されたアウトプットだと思われる。しかし、この提案は詳細を欠いている（たとえば、この新しいシステムは少数の「世界クラスの」研究者に報いるのか、それとも集団的な学科の努力に対して報いるのか）。ゆえに、当連盟は、このシステムが個人の秘密性をどのように保証するのかを含め、「星の数」による評価が実際にどのように機能するのか、より詳しい情報が発表されるのを待っている。

RAE に関する主な問題点の1つは、予算配分の比率を含め透明性が欠けていることである。当連盟は、(ロバーツ卿が示しているように)それぞれの「星の数」の評価に対する予算配分レベルが評価実施の前に発表されなければならないと確信している。2001年には、RAE の結果明らかになった量と質の向上に政府が全面的に資金を供給しないと決定したために大混乱が引き起こされたが、事前に予算配分レベルを発表することによってその二の舞にならないようにすることができるであろう。HE 財政カウンシルがこの点に関するロバーツ提案を拒否したのは残念である。

7. 排除と分断

これまでの RAE は、研究業績が評価申請された人とされなかった人の間に有害な分断を生み出した。当連盟は、科学技術委員会の次の勧告に強く同意する。

「将来の研究評価の仕組みは、アカデミックスタッフの一部をプロセスから除外するという、不和を生じさせ意欲を低下させる行動を続けたいと大学に思わせることなく、研究の公平な評価ができるものでなければならない(第41段落)。」

新しい質のプロフィールはアカデミックスタッフの除外のインセンティブを最小にすることが希望される。しかし、当連盟は、この有害な形の戦

術的な「戦略的行動」を防止するためにもっとできることがあるはずだと考える。たとえば、HE 財政カウンシル、英国大学協会、労働組合を対象にする、全国的に合意された研究評価の倫理綱領を設けるべきである。これは機会均等といった主要な分野における国のベンチマークや最低基準の設定を目指すものになるだろう。また、RAE の開始時から、当連盟は、法的小および倫理的な理由に基づき、RAE の評価に対する異議申し立ての権利が認められるべきだと主張してきた。システムの変更は、そのような権利を取り入れる絶好の機会だと考える。

RAE は特に契約研究スタッフにとって不利である。ゆえに、当連盟は、短期契約に関する科学技術委員会の報告書の勧告、特に、現在行われている高等教育の研究評価のレビューは、RAE の結果がいかなるものであってもそれが契約研究スタッフの不利にならないようにするものでなければならぬという勧告を歓迎する。2003年5月にギャレス・ロバーツ卿によって発表された『合同意見聴取』の文書には、「研究カウンシルの助成金を申請する資格があるすべてのスタッフに、RAE の評価申請の資格が与えられるべきである」と述べられている。これは契約研究スタッフの貢献を認識する小さな一歩ではあるが、ESRC と MRC から資金を受けている研究者にしか意味がない。他の研究カウンシルは依然として、契約研究スタッフが助成金を受けることや主調査者になることを認めていないからである。HE 財政カウンシルと研究カウンシルは、予算配分の環境が契約研究者の積極的な参加を支援するよう、協力して二元支援システムの役割と方法を刷新する必要がある。

8. 評価基準

当連盟は、現在、評価部会の構造とメンバーシップに関して最近発表された提案をめぐり、会員との協議を行っている。当連盟は、評価部会間の一貫性をさらに強め、学際研究に対する RAE の影響の問題点を緩和しようとする試みを歓迎する。非常に重要なのは、研究評価のメカニズムが学術的な発展に対応しなければならないということである。何より、新しい評価部会の構造は、それぞれの担当分野内の新しい研究領域の出現に底

じて評価方法を調整できなければならない。

評価基準に関連して、当連盟は、アウトプット4点という規則を廃止し、評価部会がそれぞれのアウトプットの数と規模の制限を自由に定められるようにするという決定を歓迎する。当連盟は、アウトプットの最低数を決めることに賛成する。最高数を定めるならば、それは低いレベルに設定されるべきである。論文の数を設定することは、あまり多数の論文を發表することがない領域や、出版物が大きなものになる傾向がある領域に不利になる。また、産休、キャリアの中断、家庭の責任などによって研究アウトプットの数に影響を受けがちな女性にも不利になる。

9. 教育その他の活動に対する影響

当連盟は、応用研究および実践ベースの研究が評価部会によって正当に評価されるようにするという決定を支持する。当連盟は、さらに詳しい情報の発表と、これが保証される方法に関する意見聴取を待っている。また、評価基準は、各研究領域を基礎とした教育研究も適切に認識できるよう拡大されるべきである。学生の教育に関する知識を前進させ、新しい教育方法を導入する教育研究は、評価基準によって積極的に奨励されるべきである。科学技術委員会が認識しているように、現行のRAEによって研究と教育のつながりが損なわれているが、これはそれを強化するのに役立つ。

10. 機会均等

当連盟は、科学技術委員会への証言書において、機会均等の問題——特に女性に関する問題——へのRAEの影響について懸念を表明した。ギャレス・ロバーツ卿は、最初の『合同意見聴取』文書で、機会均等に関する客観的な基準を含め、研究遂行力量の評価を行うことを提案した。しかし、HE財政カOUNシルはこれを却下し、機会均等の研修と内部の倫理綱領という緩やかな提案に置き換えた(第68-70段落)。当連盟はこれらの初期提案、および『研究評価の平等性審査』の広範な勧告を歓迎するが、こうした提案が女性や民族的マイノリティのスタッフの状況を改善する能力は疑問だと考えている。主な問題は依然として、副学長やHE財政カOUNシルが機会均等の改善に真剣に取り組んでいないということである。たとえ

ば、HEFCEの戦略計画における機会均等の目標は非常に曖昧であり、ほとんど意味をなさない。これは、英国の高等教育における主要な問題の1つと広く認識されている事項への対応として不十分である。

2004年4月

別添13

英国大学協会からの覚書

序論

1. 最初の調査の際に述べたように、RAEに関する英国大学協会の方針は、科学技術だけではなく、広く研究全体に関連している。

2. 英国大学協会は2003年の『研究評価のレビューに関する合同意見聴取』に対して意見を提出した。この意見書がここに添付される。また、RAEと二元支援に関する意見聴取への英国大学協会の意見を支える主要な原則のアウトラインも添付されている。これは、この時点で発表されている各種の意見聴取への総合アプローチを提示するために作成された。

要約

3. 2002年1月に科学技術委員会に提出した証言書の中で述べたように、英国大学協会は、英国における大学の研究活動は成功しており、RAEを一要素とする二元支援システムは優秀性を実現するのに役立っていると考えている。『研究評価のレビューに関する合同意見聴取』への回答の中で、当協会は、現在の形での研究評価の継続とロバーツ提案について懸念を表明した。当協会は、「基本的な研究遂行力量を評価する『新しい』プロセスの必要性に対して根本的な異議がある」ことを明確にした。ゆえに、当協会は、まったく新たなものを導入するのではなく既存のプロセスを調整するというHE財政カOUNシルの決定を全体として支持する。

4. 当協会は、HE財政カOUNシルによる『初期決定』の発表を大まかに歓迎している。詳細の多くがまだ発表されていないことを認識しているが、当協会は、改定された提案のいくつかは『合同意見聴取』への当協会の回答に記された問題点を反映していると考えている。当協会は、単一の評価プロセスを採用するという改定された提案では、現在

のシステム——およびロバーツ提案によるシステム——によって生じる官僚主義のレベルに関する大学側の憂慮が理解されたように思われると安堵している。

5. また、RAE2008は原則として重要な応用研究、学際研究をよりよく考慮するという意図が示されたことを心強く感じている。ただし、その実現方法の詳細はまだ発表されていない。次回のRAEでは、大学に対し、潜在的な研究遂行力量がまだ全面的には実現されていない若い研究者の業績を評価申請するインセンティブが与えられるべきである。当協会は、今後、RAEのレビューにかかわる議論に参加し、細部に関する意見聴取に意見を提示していきたいと考えている。当協会は現在、評価部会の構造とメンバーシップについて最近発表された提案をめぐり、会員と協議を行っている。

背景

6. RAE2001の結果は期待を上回るものであったが、政府がそれに対して十分に予算を交付することができなかつたため、学界に著しい不安を引き起こした。特に、当協会は、評点4以下の学科への予算削減と、研究予算の集中化をさらに進めるという政府の方針を深く憂慮する。2003年1月に発表された白書『高等教育の将来』は、研究の集中は国の研究の実行能力を強化すると考えている。しかし、これを支持する証拠はほとんどない。それに対して、英国大学協会に委託されたエビデンス社の調査『研究の多様性への予算配分：いっそうの予算集中が大学の研究業績と地域の研究遂行力量に及ぼす影響』は、地域、国および国際的なレベルでの研究基盤の実行能力を高める上で、RAE2001で評点4および3の学科へ投資することが重要であることを示している。

7. 当協会の見解では、研究への資金供給と評価のメカニズムは総合的に検討することが必要である。新しいシステムで導入される質のプロフィールに従って予算がどのように配分されるのか、詳細がまだ明らかになっていない。そのため、当協会は、高等教育機関が安定した財政の枠組みの中で投資とプランニングを行うことができるよう、それぞれのレベルに対する予算が合理的な形で予測できることが重要であると主張している。当協会は、SR2004の一部として最近発表された科学・

革新10年フレームワークを発展させる際に、政府がこれを認識することを希望する。また、当協会は、引き続きRAEの予算配分に遡及的な操作の余地があることを憂慮している。さらに、当協会は、新しいRAEの提案は研究予算をこれまで以上に集中させる手段と考えられているわけではないというハワード・ニュービー卿の最近の発言に安堵しているが、当協会や他の多くの人々が憂慮する問題点を反映した予算配分システムを強く要求する。ここでも、この問題を政府に提起する上で科学技術委員会の支援が重要であると考えている。

8. 高等教育機関が研究の経済費用償還方式に移行しようとしている中で、大学にとっては財政的な持続可能性も主要な問題の1つである。QR予算のレベルは現在の研究の量を支えるのに不十分であり、二元支援システムのこの面に非常に大きな緊張がある。この問題は、この覚書の結論部分で詳しく取り上げられている。

9. 当協会は、こうした問題を一貫した戦略の一部として考える科学・革新10年フレームワークを最近政府が発表したことを心強く感じている。当協会は、4月30日の期限までに、意見聴取文書に対して意見を提出する予定である。

英国のHE財政カウンスルによる初期決定

10. HE財政カウンスルは2004年2月9日に『初期決定』を発表した。それはRAE2008の枠組みを示すものであり、現段階では、RAEの将来の詳しい運用に関するいくつかの問題について実質的な論評をするのは困難である。しかし、以下に、この文書の大まかな提案に関する当協会の見解を概説する。

(a) 引き続き、4つのHE財政カウンスルは共同で、通常のRAEを通して、英国の大学で行われた研究の質を評価する。当協会はこの決定を支持する。

(b) 次回RAEの結果は2008年12月に公表される。HE財政カウンスルは、その後6年のサイクルにすることを計画している。

次回のRAEを2007-08年にし、その後6年のサイクルとすることは妥当であると思われるが、それは戦略的なプランニングが可能な時期にプロセスの詳細が公表されることを条件とする。『合同意見聴取』への意見書におい

て、当協会は、評価部会の構成、評価基準、業績指標を含む詳細が2004年の早い時期に公表されるべきであると主張した。当協会は、「現在のタイムスケジュールでは、時間切れになる恐れがあり、RAEの抜本的な改革を行うにはすでに遅すぎる」と論評した。

(c) RAEはこれまでどおり、その学問領域で活動している研究者や専門家によって研究の質が判断される、学問領域ごとの専門家レビュープロセスとする。

当協会は、専門家のピアレビューを研究評価の基礎にするという決定を支持するが、『合同意見聴取』への意見書の中で、評価部会は幅広い専門知識を備えるには小さすぎるのではないか、また学際的な研究や「危険に立ち向かうような」研究には適していないのではないかという懸念を表明した。当協会は、『初期決定』においてそのような研究の重要性が認識されたことを歓迎し、そのような研究が適切に評価されるように、この問題に関してHE財政カウンスルと話し合いたいと考えている。

(d) およそ70のサブ評価部会によって行われた詳細な評価作業に基づき、15から20の評価部会が判定結果を決定する。

当協会はこの決定を大まかに支持する。実行方法の一貫性を高める構造の導入は原則として歓迎される。しかし、提案されたシステムの複雑さ、および時間と労力がかかる可能性を懸念する。また、学際的なUoAからの研究アウトプットを測定するこのシステムの能力にも懸念をおぼえる。当協会は、この問題について詳細が発表されるのを待っている。

(e) 評価部会とサブ評価部会のメンバーは、産業界、商業界、公共部門を含め、研究の委託と利用の経験を持つ人々、および他国での研究の経験を持つ人々を含む。

当協会は、国際的な専門家、および学界以外のユーザーや専門家を含むという決定を支持する。こうした専門家の選定の規則に関してさらに明確化が必要であり、この問題に関するHE財政カウンスルの意見聴取に応じたいと考えている。『合同意見聴取』に対する意見書の中で、当協会は、評価部会のレベルで

各種の学問領域の判断を要請される国際的な研究者が少数であれば、国際的な研究者を含むことが形ばかりのものになる危険があると指摘した。ゆえに、サブ評価部会のレベルで国際的な専門家を含むという決定を歓迎する。しかし、この評価に利益をもたらすためには、国際的な研究者が英国の研究システムについて十分に理解していなければならない。当協会は、評価部会の構成と選任に関する今後の意見聴取に応じたいと考えている。

(f) 質のプロフィールは明確に定義された共通の基準に照らして判定される、基準準拠型のものとする。

当協会は原則としてこれに同意するが、レベルの説明の詳細が発表されていないため、現段階でこれについて詳細な論評をすることは非常に困難である。当協会は、これに関する今後の意見聴取に応じたいと考えている。

(g) すべての学問分野にわたって一貫してプロセスが適用される。

当協会をこれを原則として支持する。これが成功するかどうかは、かなりの部分、サブ評価部会が基準を一貫して適用するようにする上で主評価部会がいかにか効果的に行動できるかにかかっている。また、これは評価部会の構成にも左右されるであろう。当協会は、現在進行中のこの問題に関する意見聴取に応じたいと考えている。

(h) 共同申請が不利にならないように評価プロセスが設計される。

当協会は、グループ研究の評価申請の促進を導入することを大まかに支持し、複数の高等教育機関で共同で行われた研究を評価申請するとき問題に直面する現在のシステムをどのようにして克服するのか、詳細が発表されるのを待っている。

(i) 新しいプロセスは、応用研究、新しい学問領域、伝統的な学問領域の境界にまたがる分野での優秀性を認識するように設計される。

当協会は、応用研究と実践ベースの研究の認識を強化するという決定を支持する。当協会は、採用される計量的指標において応用研究が適切に捉えられるようにするため、このプロセスを支援する透明なガイドラインを発表

するよう要請している。しかし、現在の枠組みでは、これがいかにして効果的に実行されるのかほとんど詳細が示されていない。当協会は、詳細の発表と意見聴取を待っている。

結論

11. 当協会は、改定 RAE の提案に概説されたいくつかの主要な原則を支持し、まったく新たなものの導入よりも既存のプロセスの改定を支持することを再確認する。当協会は、ロバーツ提案の官僚主義的な要素、特に中間レビューのアイデアが却下されたことを歓迎する。しかし、当協会は、提案の主要な面の多くについて詳細が発表されていないことを憂慮する。特に、提案された次回 RAE の実施時期が2008年であることを考えると、これは大いに問題である。上述したように、適切な戦略的プランニングを可能にするため、プロセスの詳細が公表されるべきである。

12. 当協会は、概して「プロフィール」アプローチを支持するが、予算配分とのかかわりについて公開性が欠けていることを強く憂慮する。評価申請が受け付けられる前に、HEFCE が予算配分とのかかわりを明示することが必要である。以前のレビューでは、適時的に操作が行われたが、それは高等教育機関の効果的なプランニングに貢献しない。当協会は政府に対し、科学・革新10年戦略の一部としてこの問題を検討するよう求める。

13. 高等教育の予算全体に関していうと、当協会は、システムの選択性の程度にも懸念を抱いている。これ以上の予算集中から英国の研究実行能力が上がるという明確な証拠はない。当協会の委託で実施されたある独立した研究は、これ以上集中すると地域のレベルで重大な損害が生じることを示している。高等教育と産業界の相互作用（大規模な多国籍企業との相互作用を含む）は、評点4の学科を基礎とすることが多く、こうした学科への予算がさらに削減されたならば、経済においてそれらが果たしている役割が損なわれる。「プロフィール」アプローチと新しい予算配分方法が研究予算の配分にどのように影響するかはまだ明らかではないが、これは当協会にとって主要な問題の1つとして残るであろう。

14. 当協会は、二元支援システムは継続されるべきであり、QR 予算はこれからも、高等教育機関

にとって自由裁量を行使する手段となる一括助成金の形を取るべきであると確信している。しかし、高等教育機関が研究の経済費用償還方式に移行しようとしている中で、大学にとって財政的な持続可能性は主要な問題の1つである。当協会は、真の費用（経済フルコスト）を識別するプロセスを支持する。研究カウンスルプロジェクトの経済フルコストの支払いを増やす動きを支えるために SR2002 に基づいて1億2,000万ポンドが追加供給されることは、大学の研究の持続可能性を確保する非常に望ましい一歩である。それにもかかわらず、OST の目的と HE 財政カウンスルの目的の両方を達成するためには、英国が現在の地位を保てるよう、OST に配分されている1億2,000万ポンドよりも大きな金額が必要であるのが明らかである（現在の提案は、それぞれのプロジェクトに帰属する全費用の60-70%を提供する）。

15. QR 予算のレベルは、現在の研究の量を支持するには不十分であり、二元支援システムのこの面に非常に大きな緊張がある。イングランドにおける現在の数のプロジェクト助成金を支えるためには、HE 財政カウンスルに年間少なくとも9億ポンドが必要だと HEFCE が推定している。QR 予算は、高等教育機関が「ブルースカイ」研究を行うことを可能にする唯一の予算である。同時に、QR 予算は、研究カウンスルの助成金や、費用分担方式「フレームワーク・プログラム」に代表される EU の予算によるプロジェクトや慈善団体によるプロジェクトの大幅な増加を支えるためにも必要である。

2004年4月

別添19

イングランド高等教育予算配分審議会（HEFCE）の補足証言

1. HEFCE は財務大臣の10年科学戦略に貢献しているか。政府の研究予算に関するもっと抜本的な見直しを歓迎するか。

HEFCE は10年レビューの一部として、DfES、OST、財務省との話し合いに密接にかかわっている。HEFCE は、研究、知識移転、技能の予算とマネジメントを含む多様な分野で助言を行っている。

HEFCE は、科学に対する政府の真剣な関与を

実現する10年レビューを歓迎する。政府は、科学の基盤に非常に多額の公的資金を投入しており、どうすればこの資金が公共の利益に最も役立つかを吟味するのは適切なことである。また、HEFCEは、政府が科学の基盤の将来について明確な長期的ビジョンを持つようとしていることも適切であると確信している。しかし、10年レビューの対象となる問題を今後のレビューで再び取り上げることは、強力な根拠はないとHEFCEは考える。

10年レビューを行うにあたり、賢明なことに政府は、これまでのレビューで扱われた問題を再度取り上げないよう利害関係者に求めている。2002年と2003年に科学政策に関して行われた9つの政府のレビューがリストされている。HEFCEは、科学の基盤に10年のビジョンを与えるという政府の決定を称賛し、まもなく発表される枠組みの中で作業に取り組んでいる。

2. 予算配分のメカニズムが確立された後、影響評価を実施するのか。

HEFCEは、2009-10年(RAE2008の結果が予算配分のために用いられる初年度)までの準備期間にどのようにして予算配分システムを作り上げるのかについて議論を開始するため、2003年に、『研究予算配分のレビュー』を発表した。

HEFCEの予算配分モデルは、評点から質のプロフィールへの移行に合わせて設計し直されなければならない。HEFCEは、この機会を用いて、現在のモデルを支える証拠の一部(各学問領域と費用区分の対応など)の再検討を行う予定である。それから、当然のことながら、その決定の理由を説明する。HEFCEは、高等教育機関に対して管理上の新たな要求(新しいデータの収集など)をしないつもりである。そのような要求がなされるならば、言うまでもなく、影響評価を行う。

3. 評価部会が利用できる資源を増やすつもりか。もしそうならば、研究評価の予算をどの程度増やすのか。調整役の役割を簡単に説明してほしい。

HEFCEは、RAEが行われるならば適切な資源が与えられるべきであるという科学技術委員会の以前の報告書の見解に同意する。HEFCEは、現在、RAE2008の予算を若干増額することを計画している(RAE2001の運営費用は合計560万ポンド

であった)。およそ1,000万ポンドの支出を予定しているが、それでも次回のRAEを参考にして配分される予算のおよそ0.1%にすぎない。HEFCEは、専任の評価部会書記のチームを通して、評価部会への支援を大幅に拡大できると考えている。

「調整役」の勧告は、プロセスと意思決定の一貫性を確保する必要性が根拠になっている。RAE主評価部会の議長は、サブ評価部会から独立しており、スクールまたはファカルティのレベルで学術的なマネジメントの経験を持ち、ゆえに同系列の学問領域の主張を比較検討できる個人である。さらに、1つの主評価部会の下にまとめられるすべてのサブ評価部会を同一の書記が担当することになる。書記の役割には、それぞれの評価部会がRAEチームによって提供されたガイダンスを一貫した形で解釈するようにすることが含まれる。

4. サブ評価部会は、ユーザー界および国外の評価者をこれまでよりも多く含むことになる。その数および具体的な人選はどのように決定されるのか。

サブ評価部会の選任に関するHEFCEの方針は、RAE 02/2004『評価部会の構成と選任』に記載されている。HEFCEは、7月に評価部会メンバーの候補者を募る予定であり、このプロセスによって、ユーザー界および国外専門家の適切な候補者を明らかにすることができると考えている。その数は前もって決定しない。HEFCEは、すべての評価部会にユーザー界および国外専門家の代表を確保するよう努力するが、それが実現されるかどうかは、最も適切な候補者の特性に大きく左右される。

5. 各評価部会が一貫した形で作業を行うようにするため、どのような手段を取るつもりなのか。

HEFCEは、できる限り比較可能な形で同系列の分野のプロフィールを作るという任務を持った、高レベルの評価部会(「主評価部会」)を導入している(Q3の回答を参照)。

6. 研究の成果の促進、伝達、活用における研究者の貢献も評価の要素の1つとして認識されるべきだと考えるか。

公的資金で行われた研究の結果を促進、伝達、活用することは、経済・社会の発展にとって重要

である。しかし、望ましいことがらは必ず RAE で評価しなければならないというわけではない。RAE は研究の質を評価するものである。この質問に示唆された提案を採用するのが適切ではないと考える理由は以下のとおりである。

- 率直に言って、RAE 評価部会が成しうることには限界がある。仕事の複雑さが増すと、評価部会の作業量が増大する。
- 1つのプロセスによって多様な活動の標準を反映する1つの結果を導くことは、曖昧な情報を生み出す危険性がある。

こうした理由から、HEFCE は引き続き、産業界や社会とのかかわりなどは高等教育革新基金（HEIF）を通して認識されるのが最良であると考えられる。また、研究結果の公衆への伝達を改善するには、政府や学術団体の他の多様な活動がある。

7. RAE2008は国際開発の分野における質の高い研究をどのように認識するのか。国際開発省やその他の開発機関は、こうしたタイプの研究を評価する適切な計量的指標の識別に関与しているのか。

HEFCE は、「開発研究」の UoA の設置を前向きに検討している。計量的指標の役割と作成は、評価部会（まだ発足していない）の最初の仕事である。開発研究は計量的指標が特に顕著な役割を果たす分野かどうかまだ明らかでないが、HEFCE は、専門委員や国際開発省を含むその他の利害関係者からこの点に関する助言を得るつもりである。

8. 大規模施設への研究者のアクセスは評価プロセスの中でどのように利用できるか。

HEFCE は原則として、評価部会が大規模施設へのアクセス情報を考慮することに異存はない。その場合には、アクセスが施設提供者によって費用化されると有益であろう。そうすれば、評価部会はそれを現金での助成金と比較しやすくなる。

9. 質のプロフィールから QR 予算を計算する上でどのようなオプションを考えているのか。そのメカニズムはいつ発表するのか。

QR 予算配分の原則はすぐれたものである。したがって、HEFCE は、最も質の高い研究が十分に支援されるよう、予算配分のオプションを検討する。プロフィールを QR 予算に変換する上での

技術的な側面については、2005年中に詳細を発表する。しかし、我々は基準準拠型のシステムを運営しているため（意見聴取に意見を提出した人々の大半がこれを望んでいる。それに対して、ロバーツレビューは規範準拠型のアプローチを勧告した）、RAE2008の前に詳細な予算の比率を提供することはできない。HE 財政カウンスルにとって、公式のほとんどすべての次元、すなわち評価申請されるスタッフの数、プロフィールの4段階の分布、2008年歳出見直しに依存する QR 予算の総額などが不明な段階で、予算配分に関して約束をすることは不可能である。

10. 評価部会はどのようにして各研究者の格付けを回避できるのか。秘密がどのようにして守られるのか。

評価部会は、評価申請書に含まれるすべての情報を反映してプロフィールを決めるように求められる。評価申請書には、個人に結びつけられる研究アウトプットと、個人に結びつけられないその他の情報（計量的指標や戦略）が含まれる。評価申請書の総合的な評価をするために個人に得点をつけることは、間違いなく不要である。

評価部会のメンバー、書記、RAE チームのスタッフは、引き続き守秘義務を負う。

11. プロフィールシステムは RAE2001以降のデータに遡及的に適用できるのか。HEFCE は質のプロフィールのアプローチをテストするためにこれを試みているか。もし試みているなら、それは高等教育機関の収入にどのような影響を及ぼしたか。

理論的には適用することができる。しかし、それには RAE2001の評価部会を再招集し、RAE2001の作業文書を参照する必要がある。この作業文書は、データ保護法に則って破棄されているため、もはや利用できない。

さらに、過去の評価から RAE の将来の結果を予測しようとするこれまでの試みは失敗している（前回の RAE と評点付けのシステムが変わっていないときでさえ成功していない）。HEFCE は、信頼できない推定に基づいて誤解を招くような情報を提供することは避けなければならないと明確に認識している。

したがって、HEFCEは、質のプロフィールシステムが予算配分に及ぼすと思われる影響を確証する試みの必要を認識しているが、それがHEFCEや高等教育機関の先見的なプランニングに有益な情報を提供するとは考えておらず、それをあまり信頼しないようにと助言する。

12. 若い研究者、キャリアの中断がある人々、主に教育に従事している人々に対する新しいRAEの影響について考慮しているか。

HEFCEは、キャリアの中断がある研究者にとって不利にならないよう、具体的なメカニズムを導入している。2001年以来、評価部会は、評価を行う際にキャリアの中断を考慮に入れることが義務付けられている。通常の数アウトプットを評価申請できない研究者も、これがキャリア中断の結果であるならば評価申請する資格がある。

また、HEFCEは、評価部会メンバーと書記が機会均等の問題に明確に対応し、上述された人々が評価プロセスから不当な不利益を被るのを確実に防げるように、評価部会メンバーと書記に対して正式な研修を行う。

RAE2008に関しては、高等教育機関が、評価申請するスタッフの選択に関して機会均等の原則を実現する倫理綱領を作成すること、およびスタッフにそれを確実に伝達することを、評価への参加の条件としている。

HE財政カウンスルは、RAEに関するロバーツ提案について公平性監査を委託した。これはロバーツレビューのウェブサイト (www.ra-review.ac.uk) で見ることができる。

13. 大学の研究以外の活動における優秀性に金銭的インセンティブを与えるために、どのようなことを計画しているのか。これは選択的な研究予算配分の影響を緩和するのに役立つか。

HEFCEは、高等教育機関の中で研究活動が非常に高い威信を持ち、その結果、ときとして他の活動の価値が軽んじられていることを認識している（特に、学生や雇用主による大学の選択は、教育上の実践の変化よりも高等教育機関のブランドに重きを置いているように思われる）。これは世界的な現象であり、RAEのような堅固な研究評価システムを持たない国でさえ見受けられる。

HEFCEは、高等教育機関がそれぞれの長所に焦点をおくという考え方を積極的に促進している。この目的のため、以下を含め、研究以外のいくつかの分野において金銭的なインセンティブを設けている。

- 入学者の幅を広げることにに対する予算の増加。2002-03年には3,800万ポンドであったが、2004-05年には2億6,300万ポンドに増額した。
- 企業、公共部門、社会全般との活動を支援する高等教育革新基金。第1ラウンド(2002-04年)は7,700万ポンドであったが、第2ラウンド(2004-06年)は1億7,600万ポンドになる見込みである。
- 教育のCOE(優秀性の拠点)資金。5年間で3億1,500万ポンドが約束されている。

14. 科学技術委員会への証言の中で、ハワード・ニュービー卿は、HEFCEにプランニング権限がないとコメントした。以下について簡単に説明してほしい。

- (a) HEFCEの現在の権限にはどのような制約があるか。
- (b) 地域の不均衡に対処する上でHEFCEにはどのようなオプションがあるか。
- (c) どのような法律の改正が考えられるか。
- (d) 新しい権限が与えられれば、HEFCEはそれをどのように利用するか。

LSCと異なり、HEFCEは現在プランニング権限を持っていないため、高等教育機関における学科の「構成」を統制することはできず、したがって地域やセクター全体における学科の構成を統制することもできない。国または地域にとって利益があると考えられる特定の学科の協力、合理化、または保存を指示する権限はないのである。

介入が必要な場合

介入(各高等教育機関への政府やHEFCEによる)の全般的な根拠は、科学、数学、外国語といった戦略的に重要な学問が奨励されなければ経済や社会の発展が妨げられるということである。英国の現在のスキルニーズに関する調査は、中間的なテクニカルスキルなどが不足していることを

示している。また、経済の長期的な職業ニーズの予測によると、技術・管理・専門的職業に伴う一定タイプのスキルの需要が増大すると思われる。

経済のより広いニーズへの対応力を高めることも介入の根拠の1つである。科学的スキルを行使し、科学基盤やその他の生産性の高い産業に貢献することに伴う外的要因は、そうしたスキルを獲得するときの個人の選択においては考慮に入れないであろう。

学生の需要の減少も意図しない結果を持つ。特に、高等教育機関が教育と研究の両方を支える施設を使っているときには、教育の減少が学科の存続可能性を脅かすならば、強力な研究学科にも危険が生じる。また、学問領域間に相互の関連があるときには、問題が他の領域にも波及する。たとえば、数学と物理学はしばしば、長期的に他の多くの科学の研究を支えるのに必要な中核的な学問領域であるとみなされる。

介入は、学生の需要の側と教育の供給の側で考えられる。

需要

現在の高等教育の予算配分公式では、学生の需要がそれぞれの学問分野における学生数を変化させる原動力になっている。データから、自然科学のような需要の下降中の分野への志願率は人気のあるコースよりも低いことが示されているため、供給の減少が需要の減少を推進しているのではないと思われる。理科や数学のAレベル試験は、高等教育の資格よりもさらに劇的に減少している。明らかに、戦略的に重要な科目の学生数を維持するための需要サイドの戦略が鍵である。そして、そのような戦略は小・中・高校で開始されなければならない。ロバーツレビューは、STEM分野での需要が減少していることを認識し、その理由として、難しくて今日的意義が小さいという意識、生徒たちに関心を持たせる教師の能力と学校カリキュラムの欠如、明確さまたは魅力に欠けるキャリアのオプションなどをあげた。ロバーツレビューの勧告の実施は、STEMにおけるこうした需要サイドの問題に取り組むことを目的としており、近く発表される科学技術投資10年フレームワークがこれらの手段を見直し、新たな手段を追加することになるだろう。

需要

需要サイドでの介入に加え、一部の分野の教育提供を維持するための介入にも正当な理由がある。

介入がなされなければ、特定の教育分野の能力が永久に失われることもある。介入が必要なのは、まず、ある分野が急激な、しかし一時的な減少をしている場合である。また、学生の需要を奨励する他の政策から効果が生まれるまでに大きなタイムラグがあり（たとえば小・中・高校レベルでの取り組みなど）、教育システムの上の階層の能力を維持することによってそのような政策を支援する必要がある場合も介入が求められる。さらに、国の財産である教育分野でも介入が必要である。

介入がなされなければ、変動性に伴う費用が非常に大きくなる可能性がある。たとえば、閉鎖時に債務償却しなければならない実験室の資本コストは相当額にのぼることがある。また、数年後に新しい需要が出てくれば、大きな無駄が出ることになる。

さらに、介入がなされなければ、提供される教育コースに地域格差が生じ、遠くに移動できない学生にとってアクセスの問題が生じる。

授業料の自由設定が導入されたことから、学生の需要がこれからどのように動くか不明である。需要が減少している分野では、その傾向が加速されるかもしれない。あるいは、それぞれの学位に伴う賃金の増加がよりよく伝えられれば、その傾向が逆転するかもしれない。授業料自由設定の影響を考慮するにあたり、HEFCEは、教育予算配分方法のレビューを行っている。

供給サイドの介入のタイプ

ここで考慮すべき2つの問題点がある。(i) 既存の高等教育システムの構造とHEFCEの予算配分の権限の中で可能な介入手段の範囲、(ii) 予算配分システムおよび高等教育機関との関係の長期的な変更

既存の責任の中で可能な介入手段の範囲

既存の責任と権限の中で、HEFCEが各種の機関（高等教育機関、RDA、HEFCE、研究カウンシルなど）との協力で実行しうるいくつかの介入の方法がある。

情報不足に取り組むことによる需要の創出。そ

それぞれの分野の利益をよりよく売り込むことによる情報不足への取り組み；大学案内などに就職状況／進路データを掲載すること；学科がそれぞれの学問領域の利点について学校や雇用主に知らせ、「学生アウトリーチ」を通して意欲と理解を高める活動

それぞれの分野の教育の十分なレベルを識別・維持するための機関間の協力。それぞれの分野の教育が学生と雇用主の需要の変化（たとえば特定の新しいタイプの工学課程の要求など）に対応し、その地域内で十分な教育が行われるようにするために、HEFCE、高等教育機関、RDAで話し合う。たとえば、その地域で必要な学科の規模と数を明らかにするために、高等教育機関の間での協力や共同利用を奨励する。HEFCE、高等教育機関、RDAなどがもっと活発に活動するには、これは資源集約的なものになるであろう。LLSCおよびFEとの連携を確保する必要があるが、そのようなアプローチは非建設なロビー活動を招く可能性がある。また、地域の戦略が積み上げられて総合的な戦略になるよう、全国的な総括が必要である。

新しい教育提供の指示。現在、経常（基本）予算は教育予算配分公式に従って配分され、高等教育全体の成長のための追加予算は、競争プロセスによって高等教育機関の間で配分され経常予算と同じ比率で供給されている。現在の追加予算は、Foundation Degreesに向けられている（2003-04年から2005-06年に900万ポンド）。HEFCEは、新たな資金がどのように配分されるかについてこれまでより明確に指示することが可能である。高等教育機関は、特定の科目などの具体的な基準に従って競争する。リスクは、学生の需要が十分でなく、定員割れになる可能性があるということである。

特定の分野の成長を促す金銭的誘因。HEFCEは、「追加方式の」ウェイト付けを採用することによって特定の分野の教育提供を増加させる金銭的なインセンティブを与えることができる。これによって、マーケティング、資本、学生アウトリーチなどの費用を考慮した上で狙いを絞ったインセンティブを与えるために、1年目に既存の分野のウェイトよりも高い比率で特定の分野の予算を拡大する³⁷。ただし、高等教育機関が効果的に付加的資金を使用し、マーケティングや学校へのアウト

リーチを通して入学者を増加させることに成功しない限り、やはり定員割れになる可能性がある。

こうしたオプションに関して、その対象となる分野の識別と方向付けに高等教育機関が積極的な役割を果たすならば、学生の需要を促すそのほかの支援活動を政府（および／またはRDA）が行うことも必要であろう。現在、これは主に、ロバーツ勧告を通して、子どもたちにこうした分野に関心を持たせ、学習を続ける意欲を高めさせる活動などに向けられている。しかし、政府は、たとえば奨学金、授業料免除、負債の帳消しなどによって、もっと直接的な高等教育機関への進学支援を進めることもできよう。そのような学生の需要の促進は、HEFCEの権限を越えるものであり、HEFCEの予算の流れを通して行うことはできない。

HEFCEと高等教育機関の関係の長期的な変更

これまで述べてきたオプションに加えて、「経済の必要性」を検討しそれに対応する上でのHEFCEの権限や役割を拡大することによって、よりよく調整を行う仕組みを正式に定めることが可能である。それには、それぞれの地域のニーズを満たす十分かつ満足できる教育が提供されるように、高等教育機関の協力を積極的に管理し、開講科目を指定する権限をHEFCEが持たなければならない。これは派生的な法律を必要とする³⁸。このような仕組みは、RDAや高等教育機関との協力を求める上でHEFCEが中心的な役割を果たすことを意味する。たとえば、RDAや高等教育機関がHEFCEに提案を行うよう「命令」し、HEFCEが国や地域のスキルのニーズに応じる予算配分、および特定の教育分野や特定の地域における総合的な課程設置（新規および継続）の指示において最終的な発言権を持つ形が考えられる。これは、スキルのニーズを見極めるHEFCE／RDAの能力を信用することになる。また、地域の戦略が積み上げられて総合的な戦略になるよう、全国的な総括を必要とするであろう。さらに、このような仕組みは、激しいロビー活動を招く可能性がある。しかし、HEFCEは、部門別技能審議会（Sector Skills Councils）との協力により、全国的な総括について判断を下すことができるであろう。

2004年9月

本文書の脚注

38. 第69条（5）に基づき、「国務大臣は命令により、審議会に対して、教育の提供に関連する補足的機能など、適切と考える機能を与えること」ができる。つまり、国務大臣は、1992年の法によって特に否定されていない限り、一定のタイプの権限や機能を加えることができるのである。さらに、第81条（2）に、「国務大臣は審議会に対し、その機能の遂行に関して一般的な指示を与えることができる」と規定されている。

科学技術委員会は、科学技術庁およびそれに関連する公共機関の支出、管理運営および政策について考察するために下院によって任命された委員会である。

現在の委員

イアン・ギブソン博士，国会議員
 （労働党，Norwich North）（議長）
 ポール・ファレリー，国会議員
 （労働党，Newcastle-under-Lyme）
 エヴァン・ハリス博士，国会議員
 （自民党，Oxford West & Abingdon）
 ケイト・ホーイ，国会議員
 （労働党，Vaxhall）
 ブライアン・イドン博士，国会議員
 （労働党，Bolton South East）
 ロバート・キー，国会議員
 （保守党，Salisbury）
 トニー・マクウォルター，国会議員
 （労働党，Hemel Hempstead）
 アンドリュー・マリソン博士，国会議員
 （保守党，Westbury）
 ジェラルディン・スミス，国会議員
 （労働党，Morecambe and Lunesdale）
 ボブ・スピック，国会議員
 （保守党，Castle Point）
 デズモンド・ターナー博士，国会議員
 （労働党，Brighton Kemptown）

権限

科学技術委員会は、部門別特別委員会の1つであり、その権限は「下院議事規則」、特にSO

No.152に規定されている。これはインターネット（www.parliament.uk）で閲覧することができる。

出版物

当委員会の報告書と証言は下院の指示により政府刊行物出版局によって出版される。当委員会のすべての出版物（報道発表用資料を含む）はインターネット（www.parliament.uk/parliamentary_committees/science_and_technology_committee.cfm）で閲覧することができる。現議会における当委員会の報告書のリストが本書の最後に掲載されている。

委員会スタッフ

当委員会の現在のスタッフは、クリス・ショー（クラーク）、エミリー・コマンダー（第2クラーク）、アラン・ロバーツ（委員会スペシャリスト）、ハヤートウン・サイレム（委員会スペシャリスト）、アナ・フェレイラ（委員会アシスタント）、ロバート・ロンゲ（シニア・オフィス・クラーク）、クリスティン・マクグレイン（委員会秘書）である。

連絡先

Committee Office, 7 Millbank, London SW1P 3JA
 e-mail: scitechcom@parliament.uk

